

めざそう！ 蔵王ジオパーク

火山との共生

—火山とともに生きる人々と火山の恵み—



ジオサイト候補地検討報告書

(蔵王火山周辺および蔵王町エリア)

2016

蔵王町・蔵王町ジオパーク推進連絡会

火山との共生 ～火山とともに生きる人々と火山の恵み～

ジオサイト候補地検討報告書（蔵王火山周辺および蔵王町エリア）

目 次

はじめに	1
I. 蔵王町の環境と歴史	3
II. ジオサイト・ジオポイントカルテ	7
ジオサイト候補地位置図	9
1. 蔵王火山ジオサイト	11
2. 遠刈田ジオサイト	29
3. 松川ジオサイト	47
4. 青麻山ジオサイト	63
5. 円田盆地ジオサイト	73
III. ジオポイント一覧	85
1. ジオサイト別	86
2. テーマ別	89
出典一覧	94
あとがき	95
蔵王町ジオパーク推進連絡会 委員名簿	95

※本書では、ジオサイト候補地として検討対象とした5か所のジオサイトと85か所のジオポイントのうち、平成26・27年度に蔵王町ジオパーク推進連絡会が現地調査を実施した31か所のジオポイントについて作成したカルテを収録した。なお、カルテ未収録のジオポイント（調査予定地）については、一覧表のジオポイント名称の末尾に＊印を付している。

※本書の作成にあたって参考にした資料は、伴 雅雄 教授（山形大学理学部）、宮本 毅 助教（東北大学東北アジア研究センター）による各報告書をはじめとして多岐に及ぶため、本文中での記載を省略させていただき、主要な参考・引用文献を巻末の出典一覧に記載した。

※本書に掲載した写真は現地調査時に各委員・事務局が撮影したもののほか、蔵王町環境政策課ジオパーク推進室および関係機関等から提供を受けた資料写真を使用した。

※本書に掲載した各ジオポイントの位置図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図を使用して作成した。なお、方位は全て上が真北（磁針方位は西偏約7°20'）であり、縮尺は各図に付したスケールによる。

めざそう！ 蔵王ジオパーク

蔵王町は3市3町による「蔵王ジオパーク構想」を推進しています



蔵王連峰には世界に誇れる火口湖「御釜」や「樹氷」、ミズバショウ群生地をはじめ、四季折々の変化を見せる美しい景観が豊富にあります。その美しさの源が、大地の営みが造り出した貴重な地質や地形にあると知れば、蔵王の新たな魅力に気が付くことでしょう。

蔵王町では、この豊かな魅力ある地域資源を教育や観光に活かしながら地域振興につなげるため、宮城県白石市・七ヶ宿町・川崎町、山形県山形市・上山市と連携し3市3町が力を合わせて取り組む「(仮称) 蔵王ジオパーク構想」を提唱し推進しています。

ジオパークは「地球・大地 (ジオ:Geo)」と「公園 (パーク:Park)」とを組み合わせた言葉で、「大地の公園」とも呼ばれています。地球(ジオ)を学び、丸ごと楽しむことができる場所であるジオパークは、日本ジオパーク委員会によってこれまでに39の地域が認定されています。

「蔵王ジオパーク構想」は、蔵王の地域資源を活かした教育活動やジオツアーなどの観光活用を通して地域を元気にしたり、自分たちの暮らす地域の魅力や素晴らしさを知ってもらう活動です。地域の皆さんがガイド活動などを通して主体的に人づくりや地域コミュニティづくりに取り組んだり、環境保護、産業振興、防災・減災など、さまざまな分野がつながりを持って取り組む「まちづくり」、そして人口減少社会の中で将来に向けた「持続可能な地域づくり」を目指すものです。

今回、「蔵王ジオパーク構想」を進める上で核となる見どころである「ジオサイト」について、蔵王町ジオパーク推進連絡会の皆さんに蔵王町を主な対象として調査・検討していただきました。その結果がまとめられた本書を見ると、「ジオサイト候補地」は蔵王連峰のみならず山麓の蔵王町全域に及び、私たちの身近なところに「蔵王の魅力」がまだまだ眠っていることに気が付くと思います。本書を多くの皆さんにご覧いただき、自分たちの住む地域について楽しみながら学び、地域に対する愛着や誇りを深めていただくきっかけにしていきたいと思います。

このすばらしい蔵王という地域を、皆さん一人ひとりの手でアピールしていきましょう。

平成28年8月吉日

蔵王町長 村上 英人

蔵王町の環境と歴史

1. 蔵王町の位置と自然環境

(1) 地形・地質

蔵王町は宮城県南西部にあり、奥羽山脈に連なる蔵王連峰の東麓に位置する（第1・2図）。町域は東西23km、南北13kmで面積は152.85km²を占め、海拔標高は最高点が西端の屏風岳で1,825m、最低点が南東部の松川と白石川の合流点で20mを測る。

町域の6割を山林原野が占めており、西部は高原・山岳地帯、東部は平野・丘陵地帯である。西部は蔵王火山の活動による溶岩台地が発達し、火砕流堆積物からなる扇状地地形も見られる。東部の松川流域には盆地や段丘群が形成されており、沖積平野での稲作と丘陵部での果樹栽培が盛んである。

蔵王連峰は、火口湖（御釜）・溪谷・湿原など変化に富んだ地形を擁し、高山植物をはじめとする多様な動植物が生息・生育する。蔵王国定公園・蔵王高原県立自然公園の指定地域となっているほか、成層火山群の活火山である蔵王火山は地質学的に貴重なフィール



第1図 蔵王町の位置

ドとして「日本の地質百選」に選定されている。

蔵王連峰から東流する松川は、独立峰をなす青麻山の東麓で流路を南へ向けて白石川に注ぐ。町域の東部では2～3段のやや広い段丘面を形成し、北東部では支流の藪川流域に円田盆地を擁する（第6図）。

円田盆地は東西 1.2km、南北 3.5km の底面を持ち、南を除く三方を丘陵で画されている。盆地北側から西側にかけては高木丘陵、東側は愛宕山丘陵と通称されている。盆地内を蛇行しつつ南流する藪川は自然堤防が未発達で、流域に湿地帯を形成している。



第2図 蔵王町と周辺の地形

(2) 氣候

宮城県地方の気候区分は、全体としては温帯湿潤気候に属する。温帯湿潤気候では、平均気温が最寒月でマイナス3度以上、最暖月で22度以上で四季の変化が明瞭であり、夏に高温多雨となる。宮城県地方はこうした気候の北限に近く、海拔標高が500mを越すと、最寒月の平均気温はマイナス3度以下となり、亜寒帯気候の様相を帯びる。夏季の平均気温は最暖月の8月で25度前後のことが多い。降水量は、年間の平

均値が仙台で 1,392 ミリ、西部山地で 2,000 ミリ前後である。積雪日数は、海岸部で 30 日以下、中央部で 50 日程度、西部山間部では 90 日以上に及ぶ。

県南部では、沿岸部は海洋性気候の影響が強く、年較差、日較差ともに小さい。夏季は冷涼、冬季は緯度の割には温暖であり、福島県浜通りの気候の延長線上にある。一方、蔵王町を含む西部内陸方面は福島県中通りの気候の延長線上にあり、より寒冷で積雪も多く、豪雪地帯に指定されている。

（３）動植物相

町域の東部は古くから人間活動の場として開発され、青麻山以东の平野・丘陵地帯を中心に水田・畑地などの農耕地が開けている。丘陵地帯では、かつては薪炭材などとして盛んに利用され、萌芽再生によって維持された里山の雑木林に特有のコナラ・クリ林が優勢であった（第3図）。現在はこれらの伐採が進んでスギ・ヒノキ・アカマツが植林されたり、果樹園が開かれてモザイク状の分布を形成している。

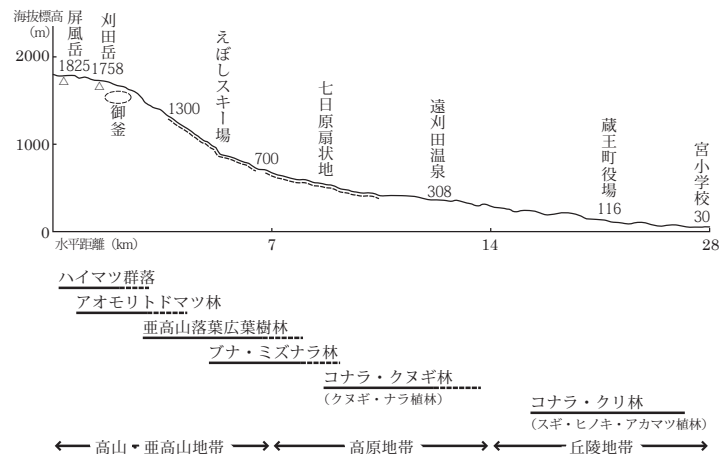
高原地帯も遠刈田温泉から七日原にかけてはコナラ・クヌギ林が優勢であったが、伐採が進んで草原となった後は厳しい気象条件により植生が回復せず、クヌギ・ナラなどの植林が行なわれている。烏帽子岳中腹にかけては冷温帯落葉広葉樹林の山地帯で、広大なブナ・ミズナラ林が形成されている。

西部の亜高山帯では、常緑針葉樹林のアオモリトドマツ林が広大な森林を形成している。屏風岳東面の断崖には亜高山落葉広葉低木林が分布する。

さらに高度を増した高山帯では高木の生育は見られず、ハイマツ低木林が分布する。山

頂付近は火山荒原となり、ガンコウラン・イワカガミなどの高山植物がカーペット状の群落を形成し、砂礫地にはコマクサも見られる。

こうした森林地帯の植物相を背景として、町内には大型獣のニホンツキノワグマ・ニホンカモシカ、中小型獣のホンダタヌキ・ホンダギツネ・トウホクノウサギ・ホンドリリス・ホンドリイタチ・オコジョ・ムササビ・ネズミ類・モグラ・ヤマネ・コウモリ類などの哺乳動物をはじめとする多様な動物が生息している。



第3図 蔵王町の東西模式断面と植生の垂直分布

2. 蔵王町の歴史的環境

（１）歴史的環境

蔵王町と七ヶ宿町からなる刈田郡は、かつては白石市を含む宮城県南西部の広い地域を占めていた。この刈田・白石地方の地形がつくりだす景観について「刈田郡誌」では「郡下到るところ連丘連山起伏し、谿谷溪流を見る。この一圓の水を聚めて阿武隈川に運ぶもの即ち水清く、石白き白石川にして、其本流支流に沿って、管内各村を往訪すべき諸道開けたり…」と記している（刈田郡教育会 1928）。

蔵王東麓の広大な山地・丘陵と、これを隈なく開析する大小の河川は、多種多様な動植物を生息・生育させ、先史時代には人類の豊かな生活基盤となっていたことが濃密な遺跡分布から窺える。このような複雑な地形環境から、歴史時代には軍事上の要衝地域として数多くの城館が構築され、しばしば戦乱の舞台ともなったが、一方で土着の耕作者にとっては耕地が狭小である上に低地は洪水の常襲地帯で、時折集落や耕地の流失もあり、交通の難所でもあった。

刈田郡に関する最古の記録は、「続日本紀」に記された養老5年（721年）の陸奥国刈田郡建置に関す

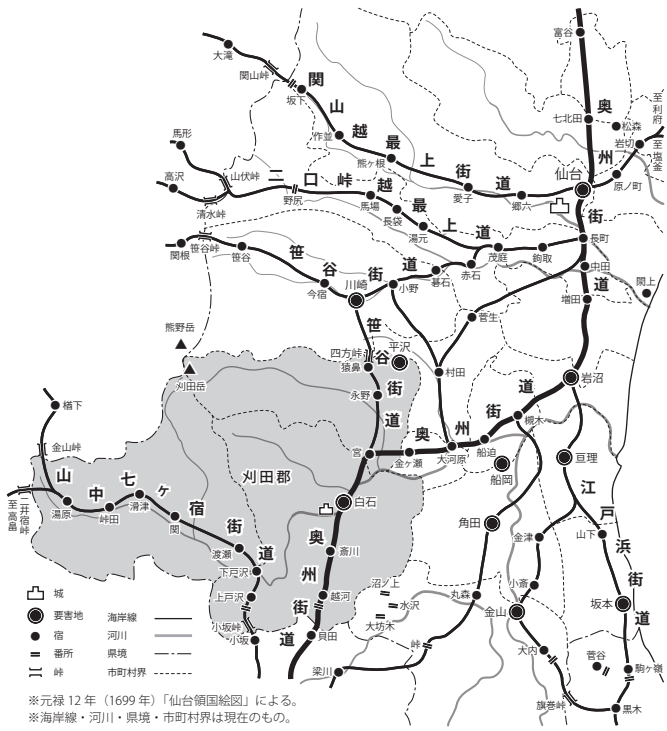
る記事である。これによると刈田郡は柴田郡のうち二郷を分割して設置され、仙南地方では最も遅い建郡であった。陸奥国は7世紀半ばに亘理・伊具地方を北辺として成立し、7世紀後半頃には大崎平野周辺までその範囲を広げていたと考えられている。このため、柴田・刈田郡周辺は陸奥国成立後の早い段階で律令政府の安定した統治下に置かれていたであろう。

平安時代末期には奥州藤原氏の支配下にあったとみられ、丈六阿弥陀如来坐像を安置する阿弥陀堂が建立された。また、奥州合戦について「吾妻鏡」の伝えるところでは、文治5年（1189年）に藤原泰衡軍は刈田郡根無藤（蔵王町円田）に城郭を構え、四方坂（同平沢）との間で源頼朝軍と進退七度に及ぶ戦いの末に敗退したという。このことから、この地域が軍事上重要視されており、根無藤から四方坂を経る道筋が、出羽国へ至る出羽道の一部であったことが窺える。

鎌倉時代以降は白石氏（刈田氏）が刈田郡の中心勢力であった。白石氏は南隣の伊達郡を本拠とする伊達氏との関係が深く、戦国時代には伊達氏の傘下に組み込まれた。天正18年（1590年）に豊臣秀吉による

奥州仕置で刈田郡は伊達領と確定されたものの、翌年の再仕置で伊達政宗が岩出山城へ移封され、刈田郡は長井・信夫・伊達などの各郡とともに会津黒川城に入封した蒲生氏郷に与えられた。慶長3年（1598年）には蒲生氏に代わって会津に入封した上杉景勝の領地となり、家臣甘粕備後景継が白石城主となったが、政宗は慶長5年（1600年）に徳川家康の意を受けて上杉氏を押さえるため白石城を攻めて奪還し、刈田郡は仙台藩領となった。政宗は慶長7年（1602年）に重臣・片倉景綱を白石城主とし、藩境西南の固めを任せた。以後は代々片倉氏が白石城主を務め、江戸時代を通じて刈田郡の過半は片倉氏の知行地であった。

江戸時代には奥羽山脈を挟んで陸奥国を奥州街道、出羽国を羽州街道が縦貫しており、刈田郡内にも奥州街道が白石城下を通過していた。また、奥州街道の宮宿（蔵王町宮）から分岐して永野宿・猿鼻宿・四方峠（蔵王町円田）を経由し、笹谷峠を越えて山形の羽州街道へ抜ける笹谷街道も設けられていた（第4図）。



第4図 刈田郡周辺の街道（風間 1983 原図）

※上記の「蔵王町の環境と歴史」1 および2については、蔵王町文化財調査報告書第21集（蔵王町教育委員会 2016）より転載した。

3. 自然保護区域・指定文化財等

（1）自然保護区域

蔵王国定公園

地 域 宮城県仙台市・白石市・蔵王町・七ヶ宿町・川崎町、山形県山形市・上山市
面 積 39,635ha（うち蔵王町分 5,010ha）
創 立 日 昭和 38 年（1963 年）8 月 8 日

蔵王高原県立自然公園

地 域 宮城県白石市・蔵王町・七ヶ宿町・川崎町
面 積 20,606ha（うち蔵王町分 4,283ha）
創 立 日 昭和 22 年（1947 年）2 月 21 日

（2）指定文化財

国指定文化財

建 造 物 我妻家住宅主屋・文庫蔵・前蔵・板蔵
附 穀蔵・表門・宅地・萬年記
天然記念物 カモシカ（南奥羽山系カモシカ保護地域）

県指定文化財

建 造 物 刈田嶺神社本殿
美術工芸品 丈六阿弥陀如来坐像（保昌寺）
天然記念物 平沢弥陀の杉 附 戒石銘

町指定文化財

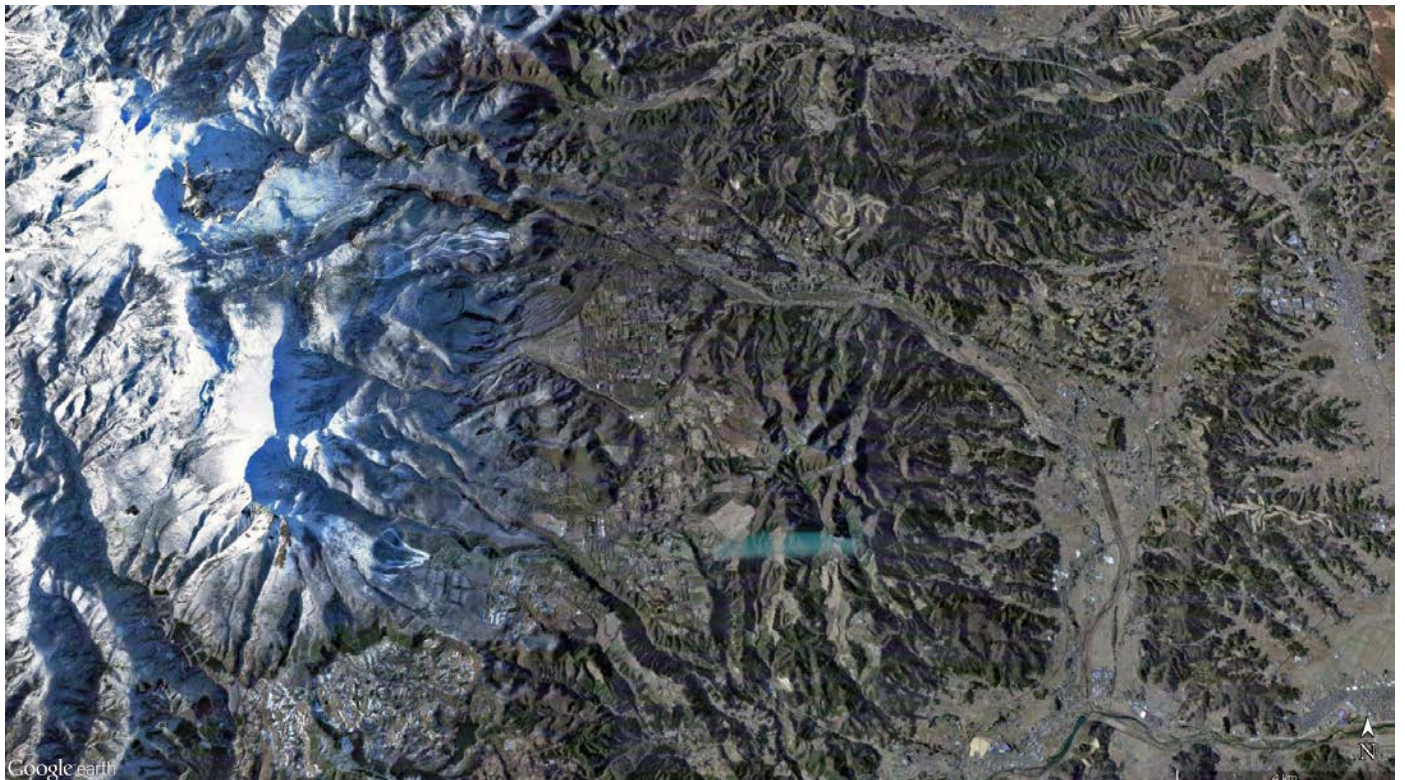
建 造 物 刈田嶺神社拝殿・隨身門
奥平家住宅

美術工芸品	刀剣 太刀（刈田嶺神社）
	工芸品 三尊堂舎（清立寺）
	古文書 高野家文書（261 冊）
	考古資料 願行寺遺跡出土土偶
	歴史資料 高野倫兼遺訓碑
無形民俗文化財	民俗芸能 八雲神社神楽
	榊流東根神楽
	小村崎榊流法印神楽
	平沢榊流神楽
	白山神社神楽
	刈田嶺神社神楽
	小村崎春駒
	小村崎田植踊
有形民俗文化財	信 仰 白鳥古碑群（5 基）
	刈田嶺神社絵馬（21 点）
	敬明講図（絵馬）
	達磨講石造物（3 基）
史 跡	白九頭龍古墳
	岩崎山金窟址
	遠刈田製鉄所高炉跡
	曲竹一里塚 附 古碑群
	安養寺参道跡保存地区
天然記念物	根返しの桜

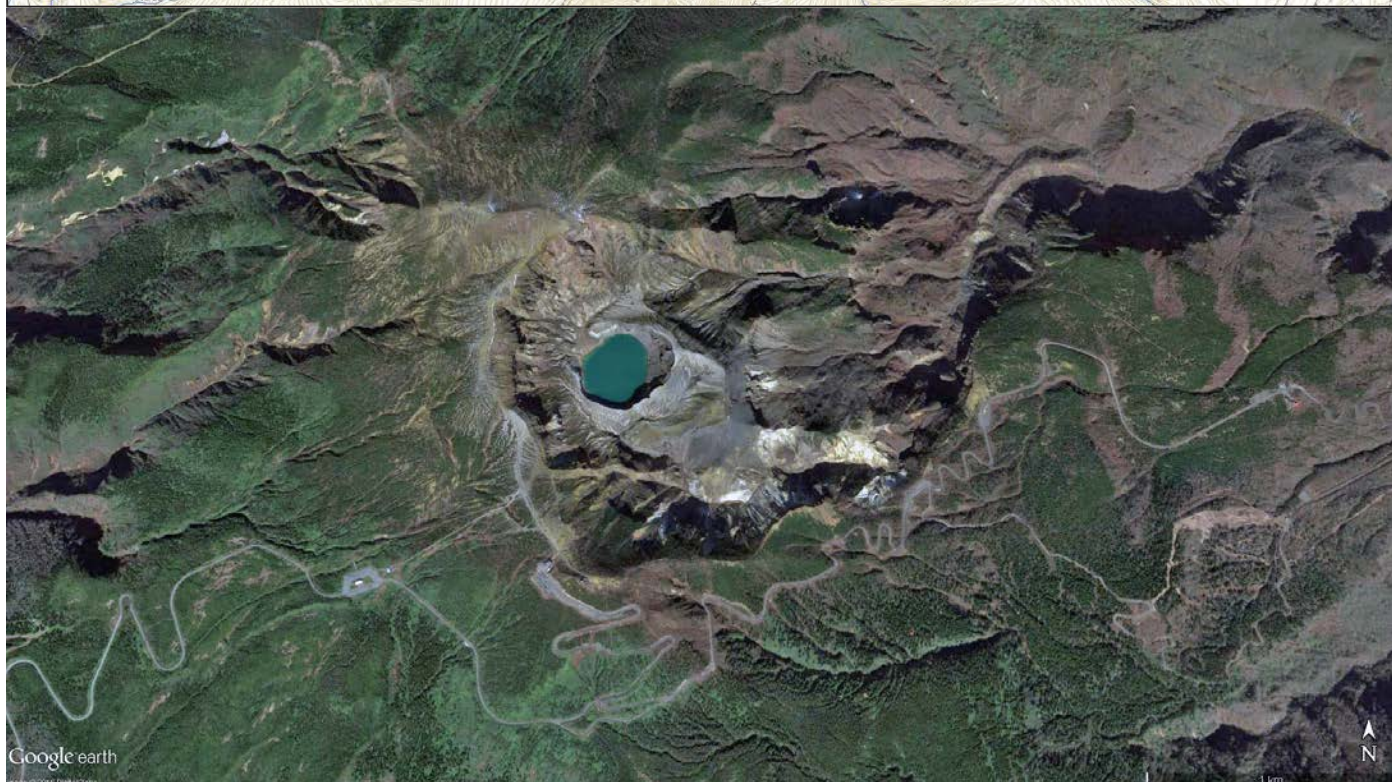
蔵王町（1991年）

疣岩分水工 (2012 年)





ジオサイト候補地位置図
(A 3 折込ページ入る)





名号峰
(隆起した奥羽山脈の花崗岩が蔵王火山の基盤)



ロバの耳岩
(100 万年前に始まる水中噴火で形成された岩体)



駒草平アグルチネート
(3 万年前の爆発的な噴火で噴出したマグマが地表を覆う)



馬の背カルデラ壁
(厚く堆積した玄武岩質の溶岩流の地層が露出する)



五色岳の御釜火口と旧火口
(五色岳は約 2000 年前からの噴火で形成された火砕丘)



御釜火口と五色岳
(火口壁に見える地層の縞模様は繰り返す噴火の履歴)



刈田岳山頂に鎮座する刈田嶺神社奥宮
(山麓の遠刈田温泉にある里宮との季節遷座の伝統を守る)



刈田岳山頂に建立された伊達宗高公名願碑
(寛永の大噴火の際に噴火の沈静を祈願したという)



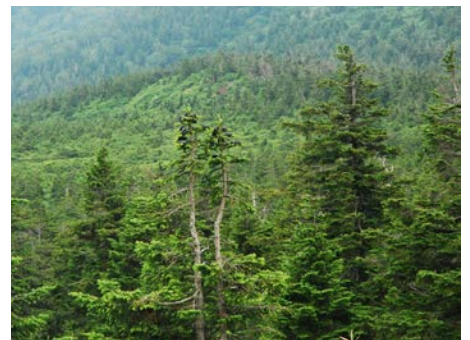
五色岳東方の硫黄鉱山跡
(明治時代に硫黄を採掘した坑道の支柱が今も残る)



不帰の滝
(硬い溶岩流の地層が水流による地形の侵食を阻む)



芝草平
(溶岩流の窪地に形成された高層湿原は高山植物の宝庫)



アオモリトドマツ林
(季節風や雪の重みに耐えながら成育する)



えぼし千年杉
(烏帽子岳山中に単独で生育する推定樹齢 700 年の杉)



コマクサ
(土壌が未発達な地表で生育し群生地を形成する)



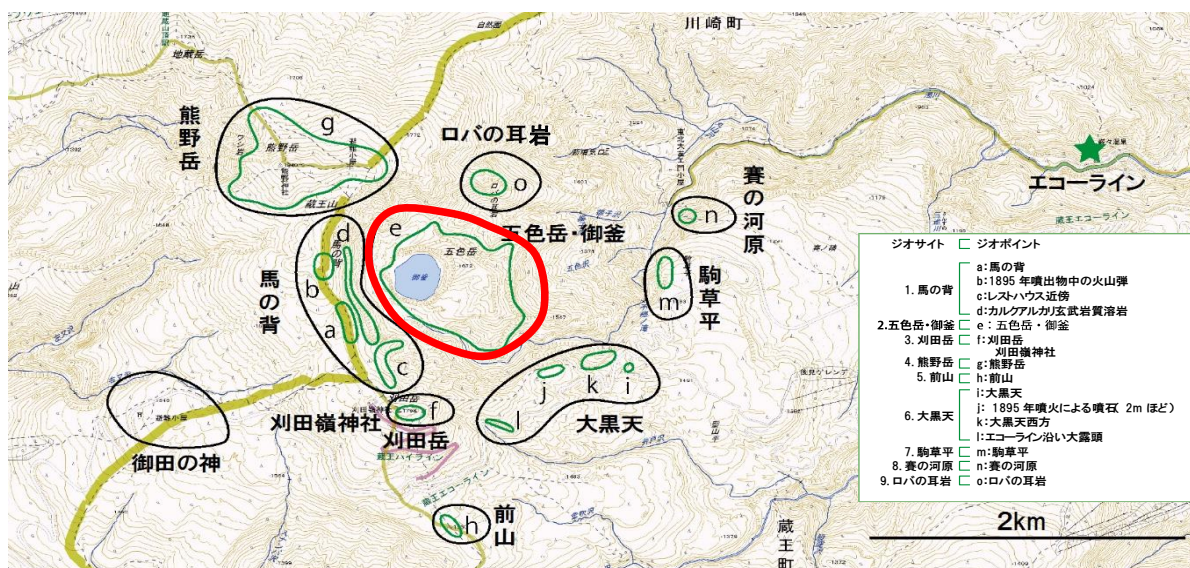
樹氷
(厳冬のアオモリトドマツ林に特殊な条件下で着氷する)

名称		蔵王火山ジオサイト		
テーマ		山の上の火山 ―火口湖に秘められた火山の素顔―		
ジオサイトの概要・説明		四季折々の自然景観を楽しめる山岳観光地として親しまれている五色岳(御釜)を中心とする地蔵山、熊野岳、刈田岳などからなる蔵王火山は、過去に数千回もの噴火を繰り返しながら現在の山体を形成した活火山である。「山の上の火山」とも呼ばれるように山体は隆起した奥羽山脈の上に載っている。その歴史は湖の中での水中噴火とされる100年以上前にさかのぼり、約30万～10万年前には多数の噴火口から溶岩が流れ出て溶岩台地の平らな地形を形成した。約3万年前から現在に至る最近の活動は、馬の背カルデラの形成など爆発的な噴火が主体である。歴史時代に入ってから活動も宝亀4年(773年)の噴火記録を最古に多数知られており、噴火にまつわるいくつかのエピソードも伝えられている。 蔵王火山の山体を覆う溶岩台地や崩壊地形の多くは、「御釜」や「駒草平」などの景勝地となっている。地形がもたらす特殊な気象条件の賜物「樹氷」は、厳冬期に神秘的な姿を見せる。美しい蔵王の風景を少しでも注意深く観察してみれば、蔵王火山のダイナミックな活動の歴史を読み解くことができるだろう。		
ジオポイント	名称		概要	分類
	1	五色岳(御釜)	約2千年前からの噴火で噴出した火山灰の堆積で形成された火砕丘。火口湖の御釜に面した急崖に見える縞模様は、繰り返される噴火の履歴書のようなもの。	A・C・I
	2	刈田岳	約22万年前の火山活動で形成された溶岩ドームで、その上を約3万年前以降の噴火による噴出物が覆っている。地表には最大2mほどの火山弾が見られる。	A
	3	馬の背	約3万年前の噴火で形成された馬の背カルデラの西壁にあたる。詳細に記録された明治28年(1895年)の噴火でもたらされた噴出物などを観察することができる。	A
	4	大黒天	約100万年前からの活動で形成された山体や噴出物を一望し、蔵王火山の成り立ちを知ることができる。また、約3万年前から現在までの火山灰層が見られる。	A
	5	駒草平(不帰の滝・振子滝)	不帰の滝や振子滝を望む高山植物コマクサの群生地。約3万年前の噴火で噴出したしぶき状のマグマが積み重なった「駒草平アグルチネート」が観察できる。	A・C・I・J
	6	賽の碓	蔵王火山ができる以前の地層の上に、約20～30万年前に噴出した溶岩流が積み重なって堆積している。蔵王が「山の上」にできた火山であることが分かる。	A・B
	7	御田の神	約20万年前の噴火による溶岩流が形成した平坦な地形の上に広がる湿原。様々な高山植物に加えて、約3千年前からの噴火で噴出した火山灰層が見られる。	A・I・J
	8	刈田嶺神社(蔵王大権現)奥宮	平安時代の修験者・願行が蔵王山頂に祀ったとされる蔵王大権現が前身。元禄の大噴火の際には社殿と本尊を焼失。現在はご神体を里宮と季節遷座する。	G
	9	伊達宗高公命願碑*	寛永の大噴火の際に仙台藩主・伊達政宗の命で蔵王山へ登り噴火の鎮静を祈った村田城主・伊達宗高の業績をたたえて没後350年の昭和48年に建立された。	A・F・G
	10	滝見台*(不動滝・三階滝・地蔵滝)	澄川溪谷にかかる3つの滝を望む。蔵王山には落差の大きな滝がいくつもあり、いずれも侵食を受けにくい溶岩流の末端から流れ落ちている。	C・I
	11	蔵王古道*	蔵王御山詣りが流行した江戸時代からエコーラインが開通する約50年前まで、多くの人が歩いた古道のルートが近年地元の人々の手で復元された。	G
	12	熊野岳*	約10～20万年前からの火山活動で形成された山体。溶岩や火山噴出物が折り重なって堆積している様子を地表面で観察することができる。	A
	13	前山*	約3千年前からの噴火で噴出した火山灰が層を成して堆積している様子を観察することができる。溶岩や火山弾が折り重なる火口近傍の様子との違いが分かる。	A
	14	大露頭*	エコーライン沿いにある高さ10m以上の露頭で、約3万年前からの噴火で起きた火砕サージ(火山ガスを含んだ高速の火砕流)の堆積物を観察することができる。	A
	15	ロバの耳岩*	約100万年前の水中噴火で形成された山体で、当時一帯がカルデラ湖であった可能性を示している。マグマの通り道である岩脈が観察できる。	A
	16	屏風岳*	約30～10万年前の噴火で形成された火口の西壁が残る。東側は吹き飛ばされて火山泥流となり山麓に流下し、七日原扇状地の地形を作った。	A
	17	硫黄鉱山跡*	明治21年(1888年)に御釜近くに硫黄鉱山が開かれたが、明治28年(1895年)の噴火に伴って大黒天付近に移転した。八千佛に坑道跡が今も残る。	D
	18	えぼし千年杉*	烏帽子岳山中に根を下ろす杉の巨木。樹齢700年と推定され、蔵王修験の山伏が植えたとも伝わる。周囲に杉は生育しておらず、伝承に真実味を感じさせる。	G・J
	19	エコーラインのミズナラ*	蔵王エコーライン沿いにあり、樹齢300年と推定される。ブナやミズナラは落葉広葉樹林の代表的な樹種で、縄文人の食生活や近代の新炭生産を支えた。	J
	20	アオモリドマツ林*	刈田岳・杉ヶ峰・屏風岳・後烏帽子岳に囲まれた広大な範囲で、季節風や雪の重みの影響を受けながら生育。厳冬期には特殊な条件下で着氷し樹氷となる。	J
	21	名号峰*	蔵王火山の基盤である奥羽山脈の隆起を示す中生代白亜紀の花崗岩が山頂に露出する。蔵王火山が「山の上の火山」であることを理解できる。	B
	22	芝草平*	屏風岳と杉ヶ峰に挟まれた南蔵王火山の溶岩流の窪地にある高層湿原。多くの池塘が点在し、高山植物の宝庫である。泥炭層中に火山灰層が保存されている。	A・I

*:調査予定地

名 称	五色岳（御釜）	所 在 地	蔵王山頂周辺
管 理 者	—	管理者連絡先	—
テ ー マ	【蔵王火山ジオサイト】山の上の火山—火口湖に秘められた火山の素顔— A. 蔵王火山の活動史／C. 松川と流域の地形／I. 景勝地		
サイトの説明	蔵王火山の山頂付近では、約2,000年前からの火山活動で形成された五色岳（御釜）、約3万年前の火山活動で形成された馬の背カルデラ、約22万年前の火山活動で形成された溶岩ドームである刈田岳など、蔵王火山を知る上で欠くことのできないジオの見どころが満載である。 五色岳の火口（御釜）はエメラルドグリーンの湖水を湛え、季節や気象条件、光線の状態によって様々な色調を見せることから五色沼とも呼ばれる。直近の噴火は明治28年（1895年）で、周辺ではこの時の噴出物などが間近に見られる。明治28年噴火の噴出物は御釜展望台の周辺でも観察でき、噴出物に含まれる礫や黒曜石の成因など、現在も様々な研究が進められている。 蔵王観光の中心地である御釜周辺の景観と合わせて、活火山としての蔵王を楽しみながら学ぶことのできるジオサイトの魅力も味わいたい。		
ジオ要素	- 蔵王火山の活動史のうち、約2,000年前から形成された五色岳（御釜）を間近に観察しながら、火口付近の活動の様子を知ることができる。 - 直近のやや規模の大きな噴火である明治28年（1895年）の噴火に伴う噴出物が足元に堆積しているのを観察し、噴火の様子を具体的に想像することができる。		
話すポイント	◆五色岳火砕丘（タフコーン） - 蔵王のシンボルである御釜を火口に持つ五色岳は、約2,000年前からの噴火で成長した火砕丘である。火砕丘＝爆発的な噴火で放出された火山砕屑物が火口の周りに堆積してできた円錐形の丘。 - 火砕丘の御釜に面した斜面を見ると縞々の成層構造が見える。この1枚1枚が1回の噴火に相当する。 - 御釜の東側に見える窪地は旧火口で、現在の御釜に火口が移ったのは約800年前と考えられている。 - 御釜に水が溜まっていたことを示す記録は約300年前（江戸時代前期）から。それ以前は不明で、将来の噴火で御釜の景観が大きく変わる可能性もある。 ◆明治28年（1895年）噴火の噴出物 - 五色岳のお釜を火口とする明治28年の噴火は、最近の火山活動の中で少し規模の大きい噴火として知られる。地質学者巨智部忠承（こちべただつね）によって「地学雑誌」に詳細な報告がなされた。 - 地表を覆う灰白色の地層がこの噴火に伴う噴出物で、御釜展望台付近の斜面でも見られる（層厚）。 - 粘土状のきめ細かい白色の火山灰は水蒸気噴火を示し、硫黄の匂いがする（地中で熱水の影響で変質）。 - 火山灰の中に様々な石を含む（下位の地層を取り込んで噴出した⇒過去の噴火の歴史を解読する資料） - この噴出物は、西は御田の神、東はロバの耳岩あたりまで堆積している（降灰は東へ約45km離れた名取市関上までであった） ◆現在の火山活動の中心 - 約3万5千年前以降の火山活動によって大きな窪地ができた（馬の背カルデラ）。 - 馬の背カルデラのカルデラ壁の上部には、南部で約3万5千年前～1万3千年前の噴出物が見られ、西部ではその上に約9～4千年前の噴出物（馬の背アグルチネート）も見られる。 - 約3万5千年前以降、現在に至るまでの蔵王の火山活動の中心は馬の背カルデラ内（五色岳の火砕丘や御釜が中心）。 ◆濁川の源流 - 御釜の水質はpH=3.5の酸性であり、生物は一切生息していない。 - 江戸時代以降の記録から、火山活動によって御釜の水が濁川に溢れ出して松川を下り、流域の魚類が死んだり、農地に大きな被害をもたらしてきたことが分かる。		
注意すべき点	- 火山活動の状況に注意し、非常時の避難体制や立ち入り制限等について確認しておく。 - 新噴気孔に活動の高まりが認められるので周辺では火山ガスに注意する。 - 今後の火山活動によって、御釜火口ではなく山腹に新しい火口が開く可能性も十分に考えられるため、警戒範囲がお釜だけでなく馬の背カルデラ全体の広い範囲となっている（2016年4月現在）。 - 遊歩道を外れると足元が悪いので注意する。 - 山頂付近は天候が変わりやすく、ガスが発生して御釜が見られない場合も多い。美しい景観が見られれば幸運だが、見られなかった場合でもジオの魅力を伝える準備・努力が必要。		
施設、案内板等の整備状況	- 蔵王ハイラインによるアクセス。山頂に広い駐車場あり。大型バス可。 - 山頂レストハウス（買い物・食事・休憩・トイレ）、刈田嶺神社奥宮、蔵王刈田リフト。 - 遊歩道に案内表示あり。蔵王火山や自然についての説明板はない。		
疑問点	地表面に散布する拳大～人頭大の噴出物の中に黒曜石が含まれている。水蒸気噴火とされている1895年噴火のクライマックスで若干のマグマが関与した可能性があり、調査研究が進められている。		
提 案	- レストハウス周辺、御釜の展望場所などに①蔵王火山の活動史や火山地形の図解、②蔵王で見られる主な高山植物を写真で紹介する説明板の設置が必要。火山活動時の非難行動や植生の保護にも有効。 - レストハウスを有効活用し、蔵王火山を解説するパネルやビデオ上映、ミニ火山ジオツアーなどの検討。 - 現在、火山活動は沈静化しているものの、非常時の避難体制や立ち入り制限、ヘルメット着用など、安全上のルールの策定が必要である。 - 歩道を外れると足元が悪いので、ジオツアーとして見るポイント・ルートをあらかじめ決めておくとうまい。 1895年噴火の噴出物の地層断面の写真パネルを用意しておき、説明に用いるとうまい（誰でも掘って良いわけではないので、調査で断面観察した場所を保存しておくとうまい）。 - ガラス質の黒曜石は一見すると分からないが、見つけたときの意外性があるのでぜひ手にとって観察して欲しい（研究中とのことではあるが、生成過程や噴出時の様子などに言及できればなお良い）。		

マップ



代表的な
写真



五色岳（御釜、西から）



五色岳（御釜）と刈田岳（北から）



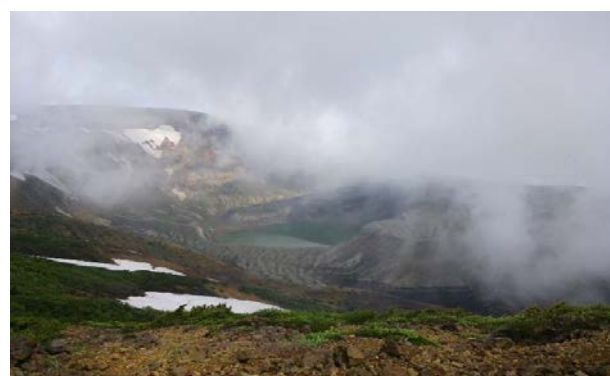
五色岳の旧火口



1895年噴火の噴出物（最上層の白色部分）



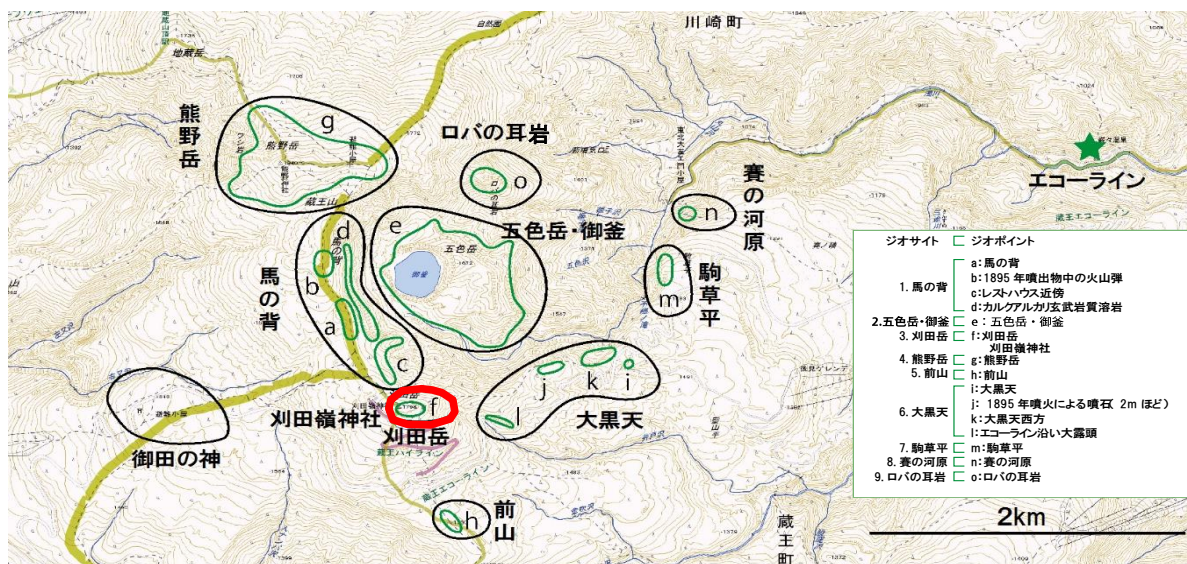
御釜の湖面



山頂付近の天候は変わりやすい

名 称	刈田岳・刈田嶺神社奥宮・伊達宗高公命願碑	所 在 地	蔵王山頂周辺
管 理 者	—	管理者連絡先	—
テ ー マ	【蔵王火山ジオサイト】山の上の火山—火口湖に秘められた火山の素顔— A. 蔵王火山の活動史／F. 大地の脅威／G. 信仰と祈り		
サイトの説明	蔵王火山の山頂付近では、約2,000年前からの火山活動で形成された五色岳（御釜）、約3万年前の火山活動で形成された馬の背カルデラ、約22万年前の火山活動で形成された溶岩ドームである刈田岳など、蔵王火山を知る上で欠くことのできないジオの見どころが満載である。 溶岩ドームからなる刈田岳の山頂には蔵王大権現社があり、江戸時代に流行した蔵王参詣の目的地であった。刈田嶺神社奥宮となった現在も遠刈田温泉にある里宮との季節遷座の伝統を守っている。また、その傍らには約400年前の寛永の大噴火の際に山頂で山の沈静を祈った伊達宗高の命願碑が建てられている。 蔵王観光の中心地である御釜周辺の景観と合わせて、活火山としての蔵王とその歴史を楽しみながら学ぶことのできるジオサイトの魅力も味わいたい。		
ジオ要素	・蔵王火山の活動史のうち、約22万年前の溶岩ドーム（刈田岳）を間近に観察しながら、火口付近の活動の様子を知ることができる。 ・蔵王信仰や参詣登山の歴史を伝える刈田嶺神社奥宮、寛永の大噴火にまつわる歴史を伝える伊達宗高公命願碑などから活火山と人々のかかわりの歴史に触れることができる。		
話すポイント	◆刈田岳は「溶岩ドーム」 ・約22万年前の火山活動で形成された溶岩ドームで、その上を約3万年前以降の噴出物が覆う。 ・約3万年前以降の噴出物は火山弾が積み重なって固まった「アグルチネート」や、高温の火山灰や軽石、ガスが流れ下った「火砕サージ」の堆積物で、上部には2 m大の火山弾が多数見られる。火口付近の激しい火山活動を示す。 ◆刈田嶺神社奥宮（蔵王大権現） ・刈田岳の山頂には蔵王大権現社があり、蔵王参詣の目的地となっていた（蔵王大権現社はもと熊野岳山頂にあり、最上家と片倉家が交代で建て替えていた。後に専ら片倉家の管理するところなり、刈田岳山頂に移された）。 ・1694～1695年（江戸時代前期）の「元禄の大噴火」では、蔵王大権現社は本尊とともに焼失し、白石城主・片倉家によって再建されたことが記録に残る。 ◆伊達宗高の祈り ・1623～24年（江戸時代初期）の「寛永の大噴火」では山麓の村々にまで降灰があり被害が及んだ。 ・村田城主・伊達宗高は、藩主名代として山の沈静を祈願するよう父の仙台藩主・伊達政宗の命を受け、刈田岳山頂に祭壇を設けて鎮火を祈った。 ・噴火の沈静から程なくして死去した宗高は村田・龍島院に葬られ、刈田岳山頂には没後300年・350年を記念して宗高の業績をたたえる記念碑が建てられている。 ◆山腹を覆う灰白色の噴出物 ・五色岳のお釜を火口とする明治28年（1895年）の噴火は、最近の火山活動の中では少し規模の大きい噴火として知られる。地質学者巨智部忠承（こちべただつね）によって「地学雑誌」に詳細な報告がなされた。 ・刈田岳山腹の地表を覆う灰白色の地層がこの噴火に伴う噴出物で、御釜展望台付近の斜面でも見られる。 ・粘土状のきめ細かい白色の火山灰は水蒸気噴火を示し、硫黄の匂いがする（地中で熱水の影響で変質）。 ・火山灰の中に様々な石を含む（下位の地層を取り込んで噴出した⇒過去の噴火の歴史を解説する資料） ・この噴出物は、西は御田の神、東はロバの耳岩あたりまで堆積している（降灰は閑上までであった）。 ◆カルデラ壁に沿う断層 ・刈田岳の山頂付近から北西に向かって、馬の背カルデラの外側に沿うように断層が見られる。 ・火山活動だけで地形ができているわけではなく、断層の様な地殻変動も作用していることを知る。		
注意すべき点	・火山活動の状況に注意し、非常時の避難体制や立ち入り制限等について確認しておく。 ・新噴気孔に活動の高まりが認められるので周辺では火山ガスに注意する。 ・今後の火山活動によって、御釜火口ではなく山腹に新しい火口が開く可能性も十分に考えられるため、警戒範囲がお釜だけでなく馬の背カルデラ全体の広い範囲となっている（2016年4月現在）。 ・遊歩道を外れると足元が悪いので注意する。		
施設、案内板等の整備状況	・蔵王ハイラインによるアクセス。山頂に広い駐車場あり。大型バス可。 ・山頂レストハウス（買い物・食事・休憩・トイレ）、刈田嶺神社奥宮、蔵王刈田リフト。 ・遊歩道に案内表示あり。蔵王火山や自然についての説明板はない。		
疑 問 点	・地表面に散布する拳大～人頭大の噴出物の中に黒曜石が含まれている。水蒸気噴火とされている1895年噴火のクライマックスで若干のマグマが関与した可能性があり、調査研究が進められている。		
提 案	・レストハウス周辺、御釜の展望場所などに①蔵王火山の活動史や火山地形の図解、②蔵王で見られる主な高山植物を写真で紹介する説明板の設置が必要。火山活動時の非難行動や植生の保護にも有効。 ・レストハウスを有効活用し、蔵王火山を解説するパネルやビデオ上映、ミニ火山ジオツアーなどの検討。 ・現在、火山活動は沈静化しているものの、非常時の避難体制や立ち入り制限、ヘルメット着用など、安全上のルールの策定が必要である。 ・歩道を外れると足元が悪いので、ジオツアーとして見るポイント・ルートをあらかじめ決めておくとうまい。 ・1895年噴火の噴出物の地層断面の写真パネルを用意しておき、説明に用いると良い（誰でも掘って良いわけではないので、調査で断面観察した場所を保存しておくとうまい）。 ・ガラス質の黒曜石は一見すると分からないが、見つけたときの意外性があるのでぜひ手にとって観察して欲しい（研究中とのことではあるが、生成過程や噴出時の様子などに言及できればなお良い）。		

マップ



代表的な写真



刈田岳（北から）



刈田岳山頂から馬の背方向を望む（東から）



刈田嶺神社奥宮（刈田岳山頂）



伊達宗高公命願碑（刈田岳山頂）

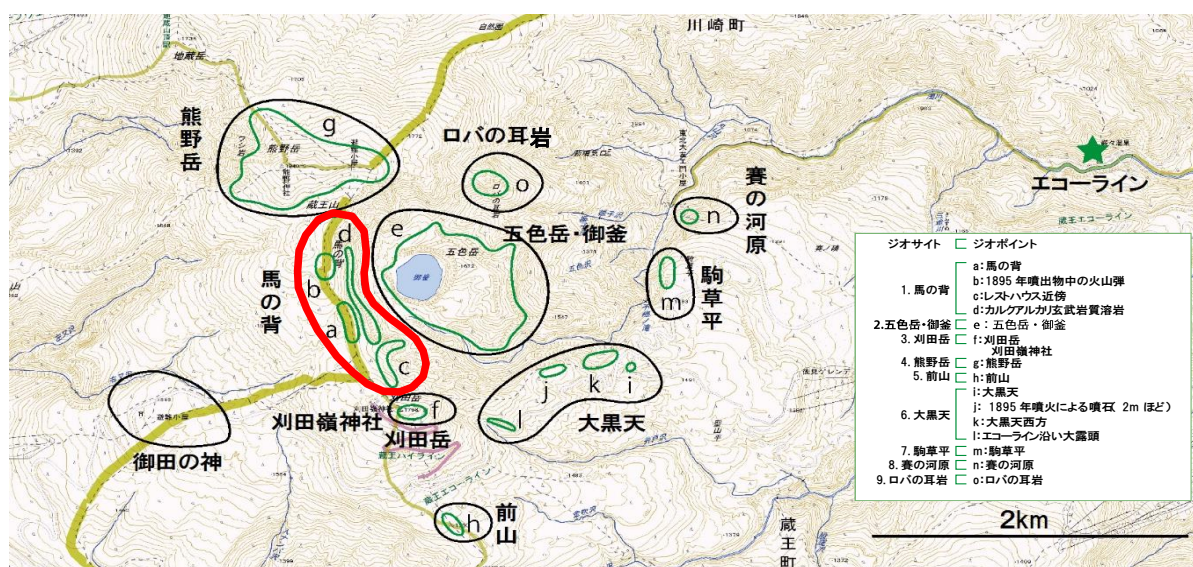


1895年噴火の噴出物（地表を覆う白っぽい堆積物。30cmほどの厚さで堆積している）



名 称	馬の背	所 在 地	蔵王山頂周辺
管 理 者	—	管理者連絡先	—
テ ー マ	【蔵王火山ジオサイト】山の上の火山—火口湖に秘められた火山の素顔— A. 蔵王火山の活動史		
サイトの説明	蔵王火山の山頂付近では、約2,000年前からの火山活動で形成された五色岳（御釜）、約3万年前の火山活動で形成された馬の背カルデラ、約22万年前の火山活動で形成された溶岩ドームである刈田岳など、蔵王火山を知る上で欠くことのできないジオの見どころが満載である。 馬の背カルデラは直径1.7kmほどの巨大な窪地で、五色岳（御釜）を中心とする現在の火山活動もカルデラ内で続いている。カルデラ壁には古い溶岩が露出し、馬の背などカルデラの周囲には各時期の噴出物が堆積しているのを見ることが出来る。 蔵王観光の中心地である御釜周辺の景観と合わせて、活火山としての蔵王を楽しみながら学ぶことのできるジオサイトの魅力も味わいたい。		
ジオ要素	・蔵王火山の活動史のうち、約3万年前に形成され、現在の火山活動の中心となっている馬の背カルデラを間近に観察しながら、火口付近の活動の様子を知ることができる。 ・馬の背登山道などカルデラの周囲に堆積する各時期の噴出物のほか、直近のやや規模の大きな噴火である明治28年（1895年）の噴火に伴う噴出物が足元に堆積しているのを観察し、噴火の様子を具体的に想像することができる。		
話すポイント	◆現在の火山活動の中心 ・約3万5千年前以降の火山活動によって大きな窪地ができた（馬の背カルデラ）。 ・馬の背カルデラのカルデラ壁の上部には、南部で約3万5千年前～1万3千年前の噴出物が見られ、西部ではその上に約9～4千年前の噴出物（馬の背アグルチネート）も見られる。 ・約3万5千年前以降、現在に至るまでの蔵王の火山活動の中心は馬の背カルデラ内（五色岳の火砕丘や御釜が中心）。 ◆非常に珍しい「カルクアルカリ玄武岩」 ・馬の背付近のカルデラ壁の中ほどで横方向に露出している溶岩は「カルクアルカリ玄武岩」と呼ばれ、世界的にも貴重な岩石である。マグマの成り立ちを考える上で貴重な研究試料となっている。 ・溶岩流の下部と上部は急速に冷えるために細かなヒビが入っており、中間の部分はゆっくり冷えるためにヒビが少なく大きな塊になっている。複数の溶岩流が重なって堆積したものは、ヒビの入り方を見ると何回分かが分かる。 ◆明治28年（1895年）噴火の噴出物 ・五色岳のお釜を火口とする明治28年の噴火は、最近の火山活動の中で少し規模の大きい噴火として知られる。地質学者巨智部忠承（こちべただつね）によって「地学雑誌」に詳細な報告がなされた。 ・地表を覆う灰白色の地層がこの噴火に伴う噴出物で、御釜展望台付近の斜面でも見られる（層厚）。 ・粘土状のきめ細かい白色の火山灰は水蒸気噴火を示し、硫黄の匂いがする（地中で熱水の影響で変質）。 ・火山灰の中に様々な石を含む（下位の地層を取り込んで噴出した⇒過去の噴火の歴史を解説する資料） ・この噴出物は、西は御田の神、東はロバの耳岩あたりまで堆積している（降灰は関上までであった）。 ◆カルデラ壁に沿う断層 ・刈田岳の山頂付近から北西に向かって、馬の背カルデラの外側に沿うように断層が見られる。 ・火山活動だけで地形ができていくだけでなく、断層の様な地殻変動も作用していることを知る。		
注意すべき点	・火山活動の状況に注意し、非常時の避難体制や立ち入り制限等について確認しておく。 ・新噴気孔に活動の高まりが認められるので周辺では火山ガスに注意する。 ・今後の火山活動によって、御釜火口ではなく山腹に新しい火口が開く可能性も十分に考えられるため、警戒範囲がお釜だけでなく馬の背カルデラ全体の広い範囲となっている（2016年4月現在）。 ・遊歩道を外れると足元が悪いので注意する。		
施設、案内板等の整備状況	・蔵王ハイラインによるアクセス。山頂に広い駐車場あり。大型バス可。 ・山頂レストハウス（買い物・食事・休憩・トイレ）、刈田嶺神社奥宮、蔵王刈田リフト。 ・遊歩道に案内表示あり。蔵王火山や自然についての説明板はない。		
疑問点	・地表面に散布する拳大～人頭大の噴出物の中に黒曜石が含まれている。水蒸気噴火とされている1895年噴火のクライマックスで若干のマグマが関与した可能性があり、調査研究が進められている。		
提 案	・レストハウス周辺、御釜の展望場所などに①蔵王火山の活動史や火山地形の図解、②蔵王で見られる主な高山植物を写真で紹介する説明板の設置が必要。火山活動時の非難行動や植生の保護にも有効。 ・レストハウスを有効活用し、蔵王火山を解説するパネルやビデオ上映、ミニ火山ジオツアーなどの検討。 ・現在、火山活動は沈静化しているものの、非常時の避難体制や立ち入り制限、ヘルメット着用など、安全上のルールの策定が必要である。 ・歩道を外れると足元が悪いので、ジオツアーとして見るポイント・ルートをあらかじめ決めておくとうまい。 ・1895年噴火の噴出物の地層断面の写真パネルを用意しておき、説明に用いるとうまい（誰でも掘って良いわけではないので、調査で断面観察した場所を保存しておくとうまい）。 ・ガラス質の黒曜石は一見すると分からないが、見つけたときの意外性があるのでぜひ手にとって観察して欲しい（研究中とのことではあるが、生成過程や噴出時の様子などに言及できればなお良い）。		

マップ



代表的な写真



馬の背カルデラと御釜（北から）



馬の背カルデラ壁



馬の背（北から）



カルデラ壁に露出する溶岩
(カルクアルカリ玄武岩)



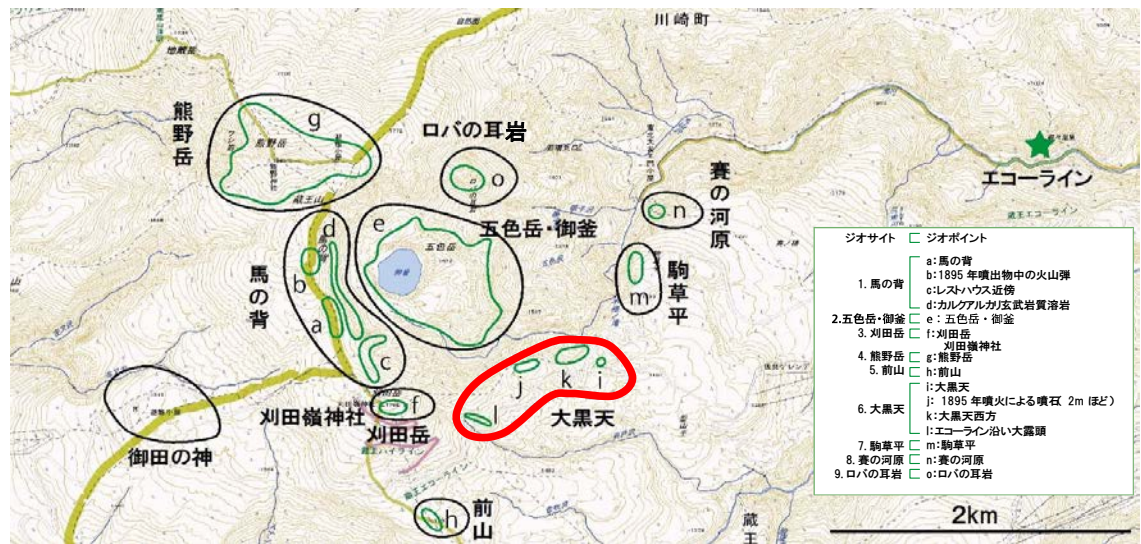
明治28年噴火の噴出物（灰白色の堆積物）



明治28年噴火の噴出物（噴石）

名 称	大黒天	所 在 地	蔵王山頂周辺
管 理 者	—	管理者連絡先	—
テ ー マ	【蔵王火山ジオサイト】山の上の火山—火口湖に秘められた火山の素顔— A. 蔵王火山の活動史		
サイトの説明	蔵王火山の噴火の歴史は、およそ100万年前の水中での火山活動、そして大量の溶岩で山体の骨格を形成した50万～10万年前の安山岩質の火山活動、五色岳を中心とした約3万年前からの激しい火山活動と、大きく3つのステージに分けることができる。 大黒天駐車場からは、約100万年前に始まる蔵王火山の活動の歴史を垣間見ることができる。約100万年前の水中噴火で形成されたロバの耳岩、25～20万年前の噴火で流下し、その後の火山活動で変質し白っぽく変色した溶岩、そしてその上を覆う黒い縞々の地層—五色岳を中心とする3万年前以降の噴出物—を一望にしながら、蔵王火山の活動史に思いを巡らしてみたい。 大黒天から山頂方向へ登山道を進むと、噴石や火砕流など噴火活動に伴う様々な現象の痕跡を見ることができる。注意すれば見れば、足元の縞々模様のひとつひとつが、火山弾を多く含むアグルチネートや、火砕流（火砕サージ）であることがわかり、火山活動が繰り返されてきたことを実感できることだろう。		
ジオ要素	・蔵王火山の活動史の3つのステージを示す堆積物を一望にしながら、各時期の活動の様子を知ることができる。 ・登山道で足元に見られる様々な地層を間近に観察し、それらが噴石や火砕流など過去の噴火活動に伴う様々な現象の痕跡であることを知る。		
話すポイント	◆蔵王火山の形成史 ①約100万年前・・・水中の噴火（水中に噴出し急冷されたマグマ＝「ロバの耳岩」） ②約50万～10万年前・・・地上の噴火（安山岩質マグマ） ③約3万年前・・・激しい噴火活動（3万年前の噴火＝「川崎スコリア」） ◆「ロバの耳岩」 ・約100万年前の水中での噴火でできたと考えられている岩体。ロバの耳の形に似ている。 ⇒蔵王火山の活動の始まり。蔵王火山の形成史を考えるきっかけとして説明する。 ・この岩体に水中で噴火したことを示す構造が残されている（水中で急冷されたマグマ）。 ・この岩体を貫くマグマの通り道（岩脈）も見ることができる。 ◆この岩はどこからきたの？ ・登山道の脇に転がる2m大の岩石は、明治28年（1895年）噴火で火口（御釜）から吹き飛ばされた「噴石」と考えられている。 ・火口からの距離、噴石の大きさ、着地した衝撃でできた割れ目などから、火山噴火の威力を感じる。 ※噴石が吹き飛ばされる範囲は、約7km程度とされている。 ◆足元の地面の色が変わった？ ・地面の色が足元で次々と変化する様子を立ち止まって観察し、繰り返す火山活動の歴史について想像する。 ・地面をよく観察すると、3万年前の噴火の際に柔らかい状態で飛ばされてきて着地の衝撃で変形した餅のような形の「溶岩餅（べい）」や、着地した衝撃で割れ目の入った「火山弾」などを見つけることができる。 ・火砕流堆積物の中に、単斜輝石の大きな結晶を見つけることができる。 ◆流れてきた溶岩？・・・ではない！！（アグロメレート） ・登山道沿いの崖地では、3万年前の噴火で火口から飛ばされてきた無数の熱い火山弾（マグマのしぶき）が積み重なって固まった「アグロメレート」と呼ばれる地層を観察することができる。 ・厚さ3mほどで、1回の噴火でできたと考えられる（1883年の三宅島噴火では一晩で9mの堆積があった）。 ・火山弾の変形の様子から、この近くに当時の火口が位置していたと考えられている。 ⇒当時の火口はお釜の東側にあったと考えられる。 ◆火山を覆うチョコレート？ ・対岸の崖地に見える縞々の地層は、クニャクニャと曲がっているように見える。これはしゅう曲のように地層が変形したのではなく、元々傾斜した斜面に地層が堆積したためにできた模様である。つまり、ケーキをコーティングするチョコレートのように山の表面を覆っている。		
注意すべき点	・危険な場所もあるため見学する際は十分に注意する。 ・駒草平アグルチネートを唯一間近で観察できる地点だが、安全柵の外側となるので注意する。 ・コマクサ群落は駒草平のものよりも大きく見応えのある株が多い。花をつけていない若い株も多いので踏み荒らさないように注意する。		
施設、案内板等の整備状況	・案内看板等はない。 ・駐車場は広く、大型バスも駐車可能		
疑 問 点			
提 案	・「アグルチネート」などの専門用語を使わない、或いはわかりやすく解説する必要がある ・噴石やアグルチネート、火山灰を間近でじっくり観察できる一方、それらが造り出した溶岩台地や火砕丘といったダイナミックな火山地形も観察でき、火山活動の理解が深まる。 ・鉱物の採取や立入りの制限を含め検討が必要である。 ・コマクサ群落を踏み荒らさないよう注意看板あるいは柵などの設置を検討してはどうか。		

マップ



大黒天駐車場から見える 100 万年前以降の噴出物



羅バの耳岩

代表的な写真



噴石と考えられる岩石



地面の色の変わり目



間近に見られる駒草



単斜輝石の結晶



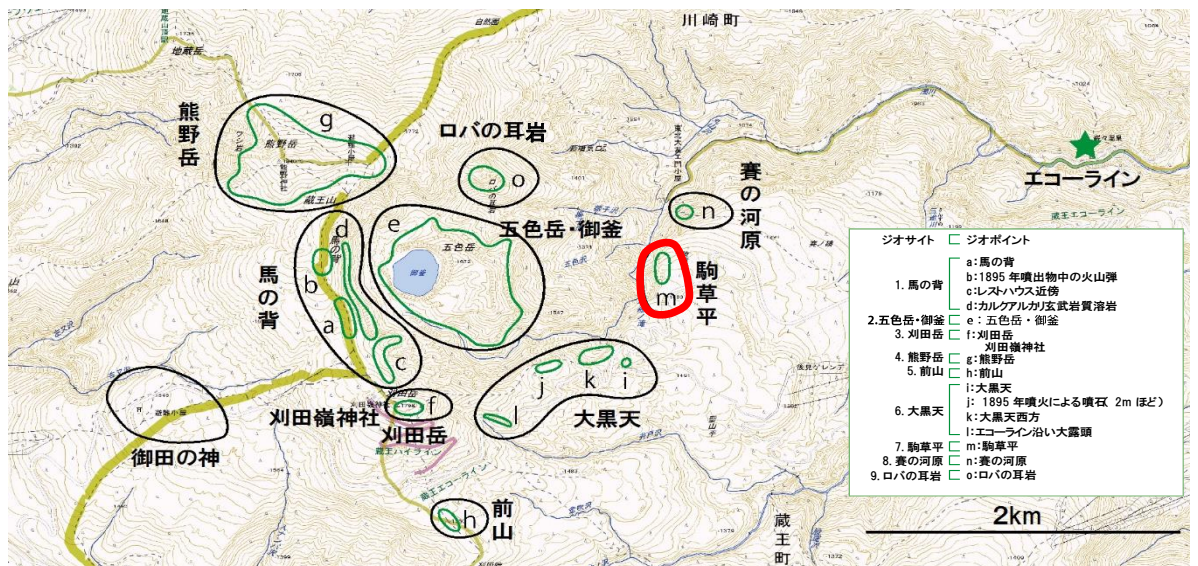
マグマのしぶきがよく含まれる
アグルチネート
お餅のような形⇒溶岩餅 (べい)



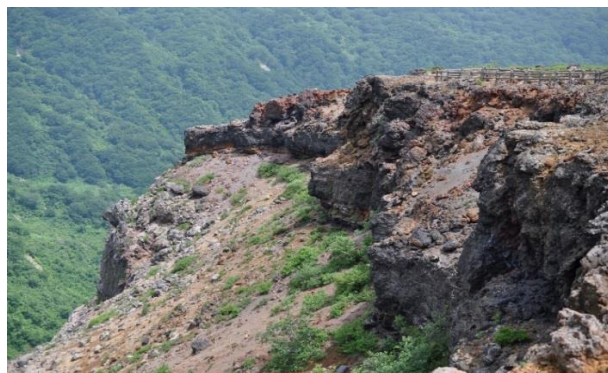
餅のような火山弾が積み重なってできたアグロメレート

名 称	こまくさだいら 駒草平	所 在 地	蔵王山頂周辺
管 理 者	—	管理者連絡先	—
テ ー マ	【蔵王火山ジオサイト】山の上の火山—火口湖に秘められた火山の素顔— A. 蔵王火山の活動史／C. 松川と流域の地形／I. 景勝地／J. 気候と動植物		
サイトの説明	荒涼とした平坦地が広がる駒草平では、群生するコマクサが夏に美しい花を咲かせて登山者やエコーラインを利用して訪れる旅行者の目を楽しませ、展望台からは勇壮な「不帰の滝」と「振子滝」を眺めることができる。また、美しい景観と同時に、積雪や強風に耐えながら地を這うように生育する低木の様子など、厳しい自然環境も垣間見せている。 駒草平周辺に広がる台地状の平坦な地形は、約25～20万年前の活動で流れ出た溶岩流が作り出した。溶岩流の地層の上を覆うのは、約3万年前に始まり現在まで続く最新期活動中で最大の噴火によってもたらされた「駒草平アグルチネート」と呼ばれる噴出物で、展望台からその断面を見ることができる。アグルチネートとは、火口付近でマグマがしぶき状に噴出して堆積したもので、当時の噴火口が駒草平周辺にあったことを物語っている。 「不帰の滝」と「振子滝」が流れ落ちる斜面の地層に目を向けると、滝の上方は硬い溶岩の地層となっているのが分かる。侵食に強い部分が残る一方、火山灰などの侵食に弱い部分が大きくえぐられて沢筋の侵食が進行していく様子が分かる。		
ジオ要素	・溶岩流が造り出した平坦な地形（溶岩台地）の上を覆う「駒草平アグルチネート」を観察し、約3万年前の火口付近の激しい火山活動について知ることができる。 ・群生するコマクサが長い年月をかけて成長し、美しい花を咲かせる様子や、積雪や強風に耐えながら生育する低木の様子から、山頂付近の厳しい自然環境を知る。 ・滝の上部に見える硬い溶岩の地層や沢筋に見える火山灰などの地層から、水の働きによって地形が侵食される様子を観察することができる。		
話すポイント	◆「駒草平アグルチネート」 ・3万年前からの火山噴火で噴出したマグマのしぶきが降り注いで固まった「アグルチネート」と呼ばれる地層が駒草平の平坦地を覆っている。 ⇒駒草平の周辺に当時の火口があった。 ・展望台から崖の斜面を見ると、火砕流堆積物の上を「アグルチネート」が皮のように覆っている様子が観察できる。 ◆「不帰の滝」と「振子滝」 ・溶岩台地から流れ落ちる「不帰の滝」の景観は素晴らしく、対岸に見られる火山地形や「振子滝」とあわせて蔵王ジオサイトの代表的な景勝地である。かつては登山者だけの楽しみであったが、エコーラインを利用することで自家用車で訪れることが可能になり、登山装備なしでも手軽に絶景を味わうことができるようになった。 ・硬い溶岩が侵食に強く残ったためにできた滝の形成過程や、水の流れによる浸食作用で地形が変化していく様子についても理解してもらおう。 【不帰の滝（かえらずのたき）】高さ97.5m、幅14m。御釜から流れ出る濁川の水が溶岩台地の上を流れ、泥絵具で彩色したような無気味な岩肌を噛みながら一気に落瀑する。濁川源流の五色岳東部に深く切り込んでいます。滝の名は、一説によれば「この滝は登れない」⇒「登ろうとしたら生きて帰れない」ことからという。「訪れる人が帰るのを忘れて見惚れる」ことからとも言われている。 【振子滝（ふりこだき）】五色岳の東北を流れる振子沢から流れ落ちる。周辺に雪渓が残っている期間や、雨の後にだけ流れる幻の滝で、繊細な糸状に落ちる二段の滝。滝の名は、風が強い日にはこの滝が左右に降られ、時計の振子のように見えることからという。 ◆高山植物 ・荒涼とした大地に小さく可憐に咲くコマクサの美しさと、周辺の低木が積雪や強風の影響で地面を這うように生育する様子を観察し、厳しい自然環境の中で生き抜く「命の強さ」を感じてもらおう。 ・コマクサは厳しい環境下で成長が遅く、多くの花をつけるまで何年もかかる。また、長い年月の間に地表面の土壌化が進んで栄養分が蓄えられると他の植物が優勢となり、コマクサは見られなくなる。		
注意すべき点	・展望台では不帰の滝から強風が吹きつけることが多いので、帽子や手荷物に注意する。		
施設、案内板等の整備状況	・駐車場は広く、大型バスも駐車可能 ・売店、公衆トイレがあり、休憩にも使用できる		
疑 問 点			
提 案	・「アグルチネート」などの専門用語を使わない、或いはわかりやすく解説する必要がある。 ・「不帰の滝」から丸山沢にかけて見える地層の由来・年代についての理解を整理しておく。		

マップ



駒草平から五色岳方向を望む



駒草平アグルチネート



不帰の滝（上部が硬い溶岩で出来ている）



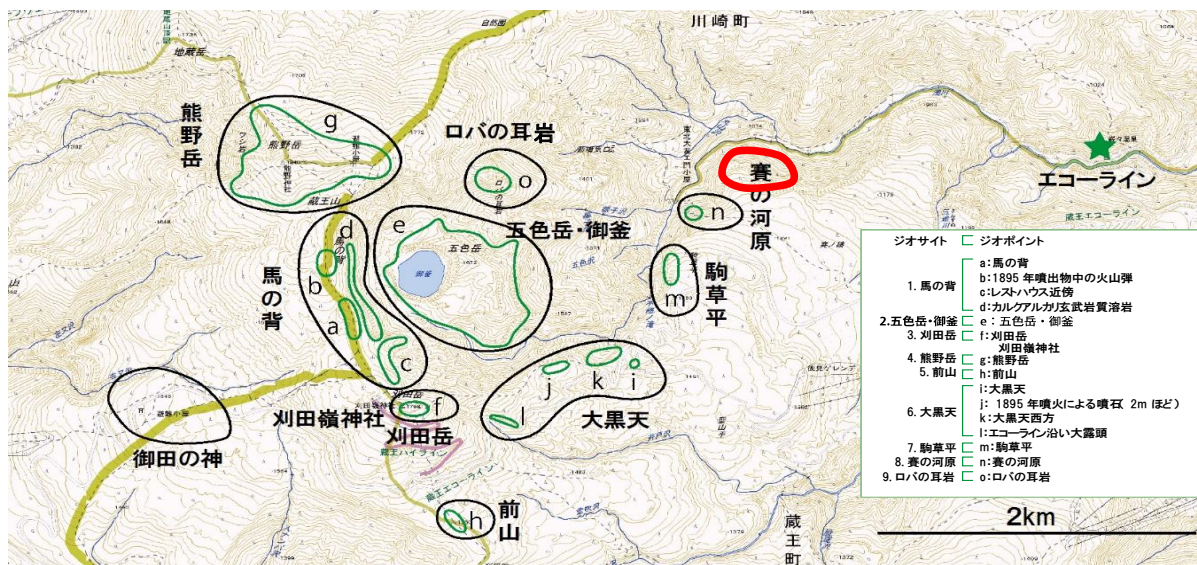
コマクサの群生



強風の影響で斜めに育つ植物

名 称	さいのかわら 賽の磧	所 在 地	蔵王山頂周辺
管 理 者	—	管理者連絡先	—
テ ー マ	【蔵王火山ジオサイト】山の上の火山—火口湖に秘められた火山の素顔— A. 蔵王火山の活動史／B. 蔵王火山の活動前史		
サイトの説明	「賽の磧」、「三途の川」と呼ばれる一帯は、数十年前までは植物の生育がほとんど見られなかった。江戸時代の人々は、そうした大小の溶岩が露出する荒涼とした景観を、あの世とこの世を分ける「三途の川」、そこへ通じる「賽の磧」になぞらえて、生まれ変わりにより功德を積むと信じられた蔵王参詣の通過点とした。 賽の磧周辺に広がる台地状の平坦な地形は、約25～20万年前の活動で流れ出た溶岩流が造り出した。硬い溶岩に覆われていることに加えて、度重なる火山活動の影響で植生が失われた。近代以降の火山活動の中では規模が大きかったとされる明治28年（1895年）の噴火でも、降灰によって植生が失われたことが記録されている。近年は地表面の土壌化が進んで植生の回復が進み、低木に覆われてかつてのような景観ではなくなってきた。明治の噴火から約100年を経て植生が回復してきた様子を見ることができる。		
ジオ要素	・溶岩流が造り出したなだらかな地形（溶岩台地）と、溶岩流の地層が何枚も積み重なっている様子を観察することができる。 ・火山活動で失われた植生が長い時間をかけて回復する様子を観察することができる。 ・火山活動が造り出した景観を江戸時代の人々が「あの世への入り口」である「賽の磧」、「三途の川」になぞらえて蔵王参詣の通過点にしていたことを知る。		
話すポイント	◆蔵王火山の基盤岩と、なだらかな地形を造った安山岩質溶岩流の重なり ・賽の磧のなだらかな地形は、約25～20万年前に流下した賽の磧溶岩が造り出した。 ・登山道沿いを下ると、賽の磧溶岩の下に約30万年前に流下した不帰の滝溶岩が見られる。 ・さらに下方には蔵王火山の基盤岩があり、蔵王火山が底上げされた「山の上の火山」であることが分かる。 ※火山活動に伴う通行規制のため、不帰の滝溶岩、基盤岩は見学できない（2016年4月現在）。 ◆「賽の磧」、「三途の川」の地名の由来 ・溶岩流の硬い地層や、度重なる火山活動が植物の繁茂を阻み、荒涼とした景観を作り出した。 ・江戸時代の人々が、大小の溶岩が露出する荒涼とした景観を、あの世とこの世を分ける「三途の川」、そこへ通じる「賽の磧」になぞらえて、生まれ変わりにより功德を積むと信じられた蔵王参詣の通過点とした。 ◆植生の回復 ・最近では、明治28年（1895年）の噴火による降灰で植生が失われた。 ・現在はキタゴヨウマツ、ミヤマハンノキ、ダケカンバなど低木が繁茂している。 ・約100年間で植生がどの程度回復したか、古写真（絵葉書）などを見ながら確認してもらう（約40年前にはまだ植生はなく、子どもたちが横に広がって並んで登っていたという）。 ・賽の磧では植生が回復したのに、お釜周辺ではほとんど植物が生えていないのはなぜか？ ⇒硫黄など化学物質の影響、土壌が未発達、崩れやすい、風の当たり方の違いなど ◆溶岩に空いた丸い穴 ・丸い窪みのある溶岩の礫が点在しているが、穴の周辺はゴツゴツした岩肌が残っており、水の流れなどで浸食されてできるポットホールとは異なる。 ・溶岩が温度の異なる石を取り込み、その後の風化によって抜け落ちた痕跡と考えられる。 ◆スキー場としての利用 ・大正8年（1919年）に蔵王の女人禁制が解かれ、山岳レジャーの時代が訪れた。 ・大正13年（1924年）には賽の磧付近に「蔵王スキー場」が開設された。		
注意すべき点	・賽の磧～追分間の登山道は、火山活動に伴い通行規制されている（2016年4月現在）。 ・熊出没注意		
施設、案内板等の整備状況	・駐車場は広く、大型バスも駐車可能		
疑 問 点			
提 案	・蔵王植物群落保護林の大きな看板があるが、見られる植物についての説明は無い。季節ごとの代表的な植物を写真付きで紹介する説明板があると良い。 ・蔵王参詣についての説明板（写真つき）や、代表的な通過点の標柱（「賽の磧」「三途の川」など）を設置すると良い。 ・賽の磧の古写真（絵葉書）をパネルで用意しておき、かつての景観を見てもらうと良い。 ・溶岩台地を作った溶岩、地表の火山岩・火山礫の由来・年代についての理解を整理しておく。		

マップ



代表的な
写真



登山道沿いの一部で見られる地表面の様子
(大小の溶岩が見られ、周囲はハイマツなどの低木が繁茂している)



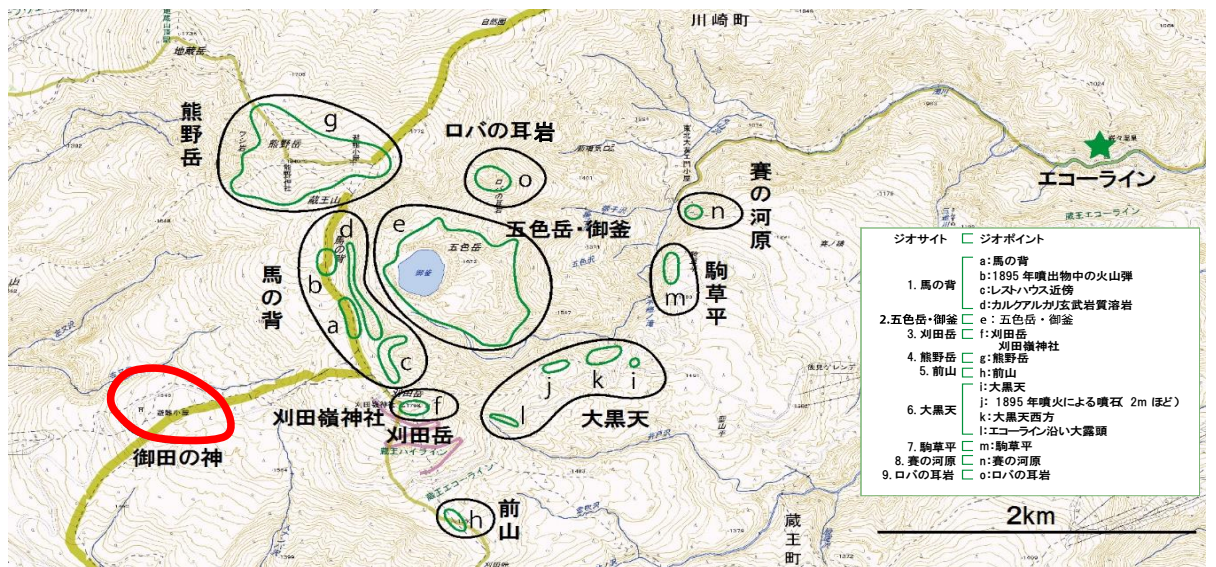
20~30cm大の丸い穴のある溶岩



丸い穴ができてかかっている？

名 称	おだのかみしげん 御田の神湿原	所 在 地	蔵王山頂（蔵王町倉石岳国有林地内）
管 理 者	—	管理者連絡先	—
テ ー マ	【蔵王火山ジオサイト】山の上の火山—火口湖に秘められた火山の素顔— A. 蔵王火山の活動史／I. 景勝地／J. 気候と動植物		
サイトの説明	蔵王山頂の西側に広がる御田の神湿原では、季節ごとに様々な高山植物が咲き誇り、登山者の目を楽しませている。 美しい湿原が広がる平坦な地形は、約20万年前に流下した1枚の溶岩流が造り出した。地層の堆積や侵食の作用が緩やかな湿地では、過去の噴火で降り積もった火山灰などがそのまま保存されていることが多く、ここでは約3,000年前から明治28年（1895年）にかけての噴火の痕跡を観察することができる。こうした火山灰層や土壌を調べることで、かつての噴火について詳しく知ることができる。 美しい高山植物に覆われた湿原の下に記録された大地の履歴書—足元の地層—にも目を向けてみることで、大地の営みをよりはっきりと感ずることができる。		
ジオ要素	- 溶岩流が造り出した平坦な地形（溶岩台地）の上に湿原が形成され、豊かな高山植物を育んでいる様子を観察することができる。 - 湿原の地下に保存された地層の中に、火山灰層など火山活動の履歴が保存されていることを知る。		
話すポイント	◆溶岩流が造り出した平坦な地形 - 御田の神の平坦な地形は、約20万年前に流下した御田の神溶岩が造り出した。 - 平坦地のため周囲からの土砂の流れ込みによる堆積や、水流や風による侵食の作用が緩やかで、安定した湿原が形成された。 ◆足元に眠る火山噴火の歴史 - 湿原や窪地では降り積もった堆積物が水に流されたり風に飛ばされたりすることが少なく、微細な火山灰層などが良好に保存されている。 ⇒過去の火山活動を知る重要な情報源。 - 約3,000年前の噴出物の上に湿地の腐植土層が形成され、その上に五色岳から噴出した約2,000年前以降の火山灰が縞状に堆積している。 ⇒湿原の地層が火山活動の履歴を記録している。 - 最上層に見られる明治28年（1895年）噴火の噴出物は山頂の御釜展望台付近で層厚40cmほどだが、ここでは層厚3cmほどのきめ細かい火山灰である。 - 登山道沿いの斜面を削ると、白黒を繰り返す地層の縞模様が見える。これら1枚1枚が火山噴火の噴出物で、噴火していない時の土壌がそれぞれの間に挟まれて堆積している。 - 黒っぽい噴出物 ⇒ マグマ水蒸気噴火 - 白っぽい噴出物 ⇒ 水蒸気噴火 - 灰色の噴出物 ⇒ マグマ水蒸気爆発 + 水蒸気爆発 - 白色 ⇒ 約2000年前の噴出物 - 橙色（厚さ10～20cm）⇒ 約3000年前の噴出物 - 火山灰層の中にも層構造が見られる（一定期間、噴火が繰り返された） ⇒下位の方が厚い（噴火の最初の方が活発な活動だった可能性を示す） ◆植生 - 湿地の形成と標高・気候の要素が加わり、高地寒冷に適応する植物が生育する。 - ヒナザクラ、チングルマ、ワタスゲ、コバイケイソウ、トキソウ、マイヅルソウ、ゴゼンタチバナ、ウラジロヨウラク、イワカガミ、ツマトリソウ、ハクサンチドリ、アカモノ、モウセンゴケなど多様な高山植物が見られる。 ※エコーライン沿いに見られるフランスギクは、人や車の移動によって入り込んだ外来種。今のところ登山道までは入っていない。		
注意すべき点	- 歩道のない道路を歩く必要があり、道路横断時など注意が必要。 - 湿原のため防水の靴が必要。また、虫が多いので虫除け対策が必要。 - 露頭は保全されておらず、侵食や植生によって見えなくなる可能性がある。 - 湿原の環境と植物の保全に注意する。		
施設、案内板等の整備状況	- 刈田駐車場から徒歩。 - 案内板などはない。		
疑 問 点			
提 案	- 湿原の形成は蔵王火山の活動による偶然の産物と言えるので、「火山の噴火がもたらした奇跡の楽園」としてアピールしてはどうか。 - 湿原の植物観察と地層観察をセットにした学習活動面白い（地層・地質と生育する植物の关系到言及できればなお良い）。 - 火山灰層が挟まった湿原の地層はティラミスに似ているので、「御田の神ティラミス」や「高層湿原お花畑ティラミス」などのジオグルメも考えられるのではないかな。		

マップ



御田の神湿原



ワタスゲ

代表的な
写真



チングルマ



湿原の一角で地層の断面を観察する



800年前の土壌の上に5~6枚の火山灰層が堆積している



黒色の土壌の下に現れた地層は3000年前の噴出物





蔵王連峰と遠刈田温泉街
(松川沿いに広がる平坦な河岸段丘面に立地する)



こけし集落付近から見た遠刈田温泉街
(温泉街の背後には遠刈田段丘面の高台「権現山」がある)



遠刈田温泉 (共同浴場「神の湯」)
(江戸時代には蔵王参詣の拠点として発展した)



七日原扇状地
(屏風岳の活動が美しい扇状地地形を造り出した)



七日原扇状地 (蔵王酪農センター)
(地形や土壌を活かした酪農や高原野菜の栽培が盛ん)



新地こけし集落
(江戸時代から続く木地師の集落。遠刈田こけし発祥の地)



みやぎ蔵王こけし館
(伝統こけしの展示と歴史の紹介、製作実演などを行なう)



刈田嶺神社 (蔵王大権現) 里宮
(蔵王参詣の出発地として多くの参拝者を迎えてきた)



刈田嶺神社 (蔵王大権現) 里宮
(刈田岳山頂の奥宮との季節遷座の伝統を守る)



奉納絵馬「敬明講図」(刈田嶺神社蔵)
(明治時代の蔵王参詣の様子を視覚的に伝える貴重な資料)



権現山の古碑群
(刈田嶺神社の前身である「金峰山蔵王寺岳之坊」と刻む)



岩崎山金山跡 (籠山)
(金山跡の岩山の景観は遠刈田温泉の景勝地に数えられた)



岩崎山金山跡 (籠山)
(鉱床は蔵王火山以前の第三紀の火山活動で形成された)



遠刈田製鉄所高炉跡
(国内で唯一現存する明治時代の高炉跡は近代化の足跡)



蔵王野鳥の森 (ことりはうす)
(山麓の自然に触れ、川遊びやネイチャーラフトを体験)

名称		遠刈田ジオサイト		
テーマ		山の暮らしと温泉 ―火山地形と高原の産業―		
ジオサイトの概要・説明		蔵王火山東麓の遠刈田温泉と七日原高原を中心とする遠刈田ジオサイトは、蔵王火山と山麓の人々の営みが接するエリアである。山麓を流れる松川の源流である清流「澄川」と硫黄が混流する「濁川」は火山山麓の自然環境を象徴し、二つの川が運んだ土砂は遠刈田地区に二段の段丘（平坦な地形）を形成している。また、南蔵王「屏風岳」の噴火によって、七日原に美しい扇状地地形が形成された。大地の恵みの代表とも言える温泉が湧き出す遠刈田では、段丘面上に温泉街が形成され、江戸時代には蔵王参詣の拠点として、近代以降は蔵王の山岳観光の拠点として大いに賑わってきた。また、蔵王山麓の豊かな森林は古くから木地師たちの活躍の舞台となり、開拓の進んだ現在は酪農や高原野菜の栽培がさかんである。蔵王火山の活動が山麓に作り出した火山地形と、災害の脅威にさらされながらもたくましく生き、大地の恵みを活かして独自の文化を作り出した人びとの営みを感じることができるだろう。温泉や高原の観光と合わせて楽しみたい。		
ジオポイント	名称		概要	分類
	1	遠刈田温泉	慶長6年(1601年)発見と伝わり、江戸時代には蔵王参詣の拠点として発展。近代以降は登山やスキー、山岳観光の拠点として賑わいを見せている。	B・D・G
	2	七日原扇状地	屏風岳の噴火による火山泥流や土石流が作り出した美しい扇状地地形。表層は蔵王火山の火山灰由来のクロボク土に覆われ、高原野菜の栽培が盛んである。	A・E・I
	3	蔵王酪農センター (ふれあい牧場ハートランド)	七日原扇状地の高原で牛やヤギを飼育し、蔵王チーズ等の乳製品を生産。バター作りなど各種体験や、牧場で動物とのふれあいを楽しむことができる。	E・I
	4	権現山と遠刈田段丘	刈田嶺神社裏手の段丘崖を登ると湯神社などがあり、温泉街と蔵王山を一望することができる。森林の中を行く遊歩道は自然観察にも良い。	C
	5	岩崎山金山跡 (籠山)	蔵王火山ができる以前の火山活動で形成された鉱床。江戸時代に伊達政宗の支配下で採掘され、仙台城築城の資金になったとも言われている。	D
	6	刈田嶺神社 (蔵王大権現)里宮	江戸時代に流行した蔵王御山詣りの出発地として多くの参拝者を迎え、遠刈田温泉の隆盛を支えた。明治時代の御山詣りを描く「敬名講図」が奉納されている。	G
	7	新地こけし集落	江戸時代から続く木地師の集落で、遠刈田こけし発祥の地としても知られる。集落内には木地師が信仰する山の神や惟喬親王を祀る神社がある。	H
	8	みやぎ蔵王こけし館	宮城伝統こけしの歴史やコレクションを紹介する展示館。こけし館から遊歩道を歩いて段丘崖を登ると、新地こけし集落へ行くことができる。	H
	9	北原尾開拓地*	太平洋戦争の激戦地となったパラオからの引揚者が切り開いた「北のパラオ」。青麻山の西麓に広がる酪農地帯からは、蔵王連峰と七日原扇状地を一望できる。	E・I
	10	澄川*	蔵王火山に源を発する松川上流部の清流「澄川」と、硫黄が混流する酸性の「濁川」という対照的な二つの川。澄川は動植物を育み、用水としても利用されている。	C
	11	濁川*	蔵王火山に源を発する松川上流部の清流「澄川」と、硫黄が混流する酸性の「濁川」という対照的な二つの川。火山活動に伴い濁川は山麓に被害をもたらした。	C
	12	鬼石原扇状地*	五色岳の噴火による火山泥流や土石流が作り出した小規模な扇状地地形。「鬼石原」の地名は巨礫が多いことに由来するのかもしれない。	A
	13	蔵王野鳥の森* (ことりはうす)	蔵王火山の形成史や蔵王の動植物を紹介する展示館と、自然観察のできる野鳥の森からなる。澄川での川遊びや、ネイチャーラフト体験などができる。	C・J
	14	土浮山の露頭*	蔵王火山から噴出した火山灰が堆積した地層の観察地点。山頂付近で見られるダイナミックな火山活動の痕跡との違いや、山麓部への影響を知ることができる。	F
	15	冷水堂の清水* (冷泉堂)	蔵王エコライン入口近くの清水原にある湧水地で、遠刈田地区の水源地となっている。蔵王の修験者や御山詣りの人々もここで喉の渇きを癒したのだろう。	D
	16	わさび沢湧水*	烏帽子岳東麓にある湧水地。蔵王野鳥の森内にあり、散策コースを歩きながら太平洋の眺望や自然観察、澄川での沢遊びができる。	D
	17	遠刈田製鉄所高炉跡	明治41年に完成するも計画中止により一度も稼動しないまま移設され、耐火煉瓦で造られた基礎だけが残る。日本の近代化を伝える産業遺産である。	D
	18	土浮山鉱山* (ベントナイト採掘場)	蔵王火山ができる以前の火山活動で形成された粘土鉱床で、露天掘りで採掘して工業用などに利用。採掘場内では蔵王火山による土石流の地層も見られる。	B・D
	19			
	20			
	21			
	22			

*:調査予定地

名 称	遠刈田温泉	所 在 地	蔵王町遠刈田温泉
管 理 者	—	管理者連絡先	—
テ ー マ	【遠刈田ジオサイト】山の暮らしと温泉—火山地形と高原の産業— B. 蔵王火山の活動前史／D. 大地の恵み I—温泉・水・鉱物—／G. 信仰と祈り		
サイトの説明	慶長6年（1601年）に大沼勘十郎が岩崎山金山の麓に湧き出す温泉を発見し、鉱夫の疲れを癒したのが始まりである。勘十郎は岩崎山から現在の遠刈田温泉にお湯を引き込み、元和4年（1618年）に浴場として整備した。その後、温泉宿も増えて江戸時代を通じて白石城主片倉家の湯治場として繁盛した。江戸時代後期に庶民の蔵王参詣が流行すると、出発点の蔵王寺嶽之坊（現在の刈田嶺神社里宮）が立地した遠刈田温泉は大いに賑わった。近代には首都圏の保養地としての人気も高まり、登山やスキーと言ったレジャーの拠点としての利用が増えた。昭和37年には蔵王エコーラインが開通し、県境を跨いだ山岳観光の拠点として現在に至る。 遠刈田温泉の泉質はナトリウム・カルシウム・硫酸塩・塩化物泉で、神経痛やリウマチ、胃腸病、婦人病、慢性皮膚病などに効能があるとされている。温泉の効能にちなんだ「うなぎとかにの伝説」も生まれた。蔵王火山がもたらす恵みの代表格とも言える遠刈田温泉は、時代を通じて人々に癒しを提供し、また地域の経済も支えている。 温泉街には共同浴場を中心に現在も多くの湯治客を迎え入れる旅館や土産物店、飲食店、こけし工房などが軒を連ね、街並みの散策も楽しい。温泉街の一角には古くから遠刈田温泉の発展を見守ってきた刈田嶺神社（里宮）があり、神社裏手の権現山には、万病を癒す霊湯にちなんで建立された湯神（ゆのかみ）神社がある。刈田嶺神社から権現山を経て岩崎山金山跡のある遠刈田公園へ至る散策路が整備されており、温泉街の散策と合わせて手軽に森林浴と蔵王の眺望を楽しむことができる。		
ジオ要素	・澄川に代表される森林地帯の土壌でろ過されて澄んだ水とは対照的に、蔵王山麓には泉質のバリエーションに富んだ温泉が多数ある。これは、濁川でみた火山としての蔵王の姿であり、活火山として今もなお、活動している大地の恵み「温泉」を楽しむことができる。 ・蔵王火山を中心とした信仰の歴史、豊かな森林資源から生まれた「こけし」、大地を敬い活用してきた「人びとの暮らし」を理解できる。		
話すポイント	◆ウナギとカニの伝説 ウナギとカニの不動滝の主争いと温泉の効能が結びついた説話で、豊かな水、澄川、三階滝、不動滝、またぎと美しい女性が登場する。不動滝の大うなぎが三階滝の大ガニとの戦いに敗れ、切られた尾が流れついたので遠刈田の湯は足腰の病に効くといわれている。 ◆特産品 乳製品や高原大根、こけしなどの特産品とジオの関係について理解してもらう。 ◆温泉の歴史 江戸時代に発見され、片倉家の湯治場として整備された。江戸時代後期には御山詣りが流行し蔵王参詣の拠点になり、近代はレジャーや山岳観光の拠点となっている。 東の湯（現在の公共浴場「寿湯」）は享保16年9月7日の大地震で湧出し、寛保元年に曲竹村の我妻四郎右衛門が白石城主に願い出て浴場として整備した。		
注意すべき点	・遠刈田温泉の発祥について、岩崎山の金を掘って財を成した金売橋次が霊泉を発見したのが始まりとする伝説もある。伝説の域を出ないが、ここでも温泉と金山が結びついている。		
施設、案内板等の整備状況	・公共浴場「神の湯」前の広場には無料の足湯や観光案内所が併設しており朝市も開かれる。 ・神の湯東側に町営駐車場（60分まで無料）、西側に共同無料駐車場がある。		
疑問点	・泉質のバリエーションはおおよそ何種類になるか？		
提 案	・温泉の歴史や泉質の種類、流出経路など、温泉とジオとの関わりに関する基礎資料の整理をする必要がある。 ・昔の絵地図や写真との対比、古い遺構の分布確認によって温泉街の見どころを整理し、案内できるようにする。 ・温泉街の町並みの一体感を創出したり、商店街や町全体でのサービス向上を図ると良い。 ・温泉街や周辺の散策コースなどと合わせ、滞在型のツアーの拠点とする工夫が必要である。 ・火山防災も含め、地元住民とともにジオへの理解を深め、協力体制を構築しながら活動を展開することが必要である。 ・神社脇の源泉で温泉卵を作ることができる（所要約40分）ので、周辺の散策と合わせて楽しめるようにしてはどうか（温泉卵は源兵衛・大忠・大沼旅館でも提供している）。		

マップ



代表的な
写真



共同浴場「神の湯」 (左側に足湯と観光案内所)



遠刈田温泉 (権現山・古峯神社付近から)



遠刈田温泉 (遠刈田小学校付近から)



湧出する源泉
(神の湯裏手の源泉井戸)



開湯400年記念看板
(刈田嶺神社裏手)



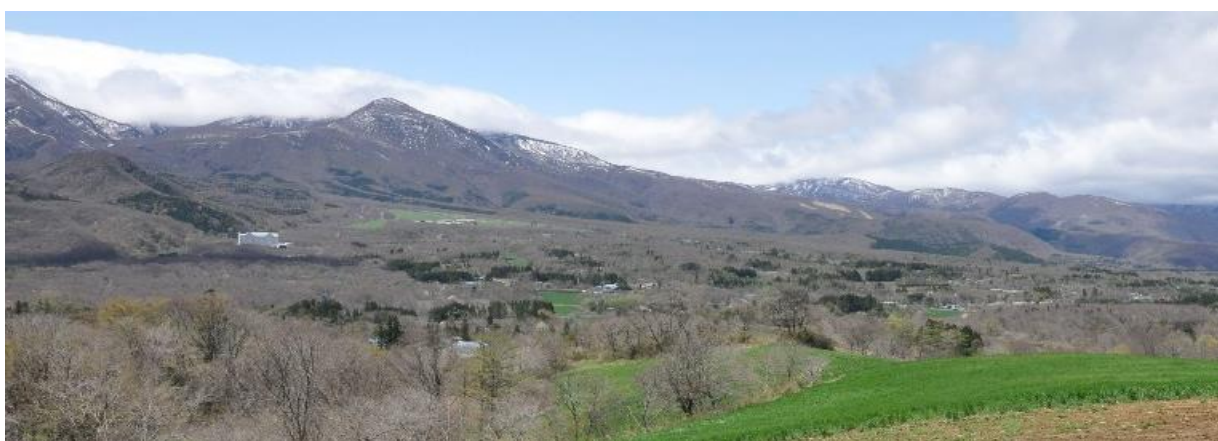
遠刈田温泉 (新地こけし集落付近から)

名 称	七日原扇状地・蔵王酪農センター	所 在 地	蔵王町遠刈田温泉七日原
管 理 者	蔵王酪農センター ほか	管理者連絡先	TEL：0224-34-3311 FAX：0224-34-3313
テ ー マ	【遠刈田ジオサイト】山の暮らしと温泉－火山地形と高原の産業－ A．蔵王火山の活動史／E．大地の恵みⅡ－地形と土壌－／I．景勝地		
サイトの説明	蔵王火山の噴火を元とする火山泥流や土石流の堆積によりできた地形で、同じく蔵王火山から噴出した火山灰に由来するクロボク土壌が広がっている。なだらかな傾斜を持つ扇状地の地形を利用した牧場や、根菜類の栽培に適した水はけの良いクロボク土壌を利用した高原野菜の栽培が盛んである。牛乳やチーズといった乳製品や高原大根など多くの特産物を生み出し、例年行なわれる大根狩りは秋の風物詩となっている。避暑地としても人気が高く、観光牧場や飲食店、農産物直売所などは週末に賑わいを見せている。また、扇状地の地下にはミネラルを含んだ良質な地下水が流れ、その湧水を利用した豆腐作りも行われている。 江戸時代には白石城主の片倉家が軍馬の生産を行ってきた。「七日原」の地名は、7日かけてようやく周ることのできる広大な土地であったことに由来すると言われている。明治25年には鬼石原、清水原、七日原の広大な土地を利用した早川牧場が創業し、高冷地農業・植林事業などを展開した。当初乳牛を飼育したが販路が振るわず戦前までに荒廃したようである。戦後は入植者による開墾が行われて昭和39年には蔵王酪農電化センター（現在の蔵王酪農センター）が開設された。農耕地の開墾とともにクロボク土が蔵王おろしの強風で飛ばされるのを防ぐ目的で防風林が植えられ、現在の景観を作り出した。また、クロボク土は水はけが良く根菜類の栽培に適したが、栄養分は極端に少ない土壌のため、畑として利用できるまでには時間をかけた土づくりが必要であった。このように様々な試行錯誤の結果として、現在の七日原の人々の暮らしと土地利用がある。 なお、七日原扇状地の南東側にある青麻山南西麓の北原尾地区は、パラオからの引揚者によって戦後に拓かれた開拓地で、酪農が盛んである。北原尾開拓地からは蔵王連峰と七日原扇状地の全景を望むことができ、美しい高原の景観を楽しむことができる。		
ジオ要素	・火山灰を起源としたクロボク土が豊かな恵みをもたらしている。なぜここでは美味しい作物が採れるのかを説明する（気候、クロボク土の性質、土づくり）。 ・火山灰起源のクロボク土は乾燥すると軽く風で吹き飛ばされやすいため、防風林で防いでいる。 ・秋山沢周辺の火口跡を起源とする堆積物が、典型的な扇状地地形を作り出した様子を外から（北原尾）、中から（ハートランド）観察できる。 ・不忘山、屏風岳などを一望でき、火山活動と地形の形成史について学ぶことができる。 ・蔵王火山の恵みとして、高原野菜、果樹、乳製品（チーズ、牛乳）を食したり、チーズ・アイス・バター作りなどが体験できる。 ・蔵王の湧水を利用した豆腐製造（七日原：はらから工場、遠刈田温泉：大本豆腐店、はせがわ屋）が行なわれている。		
話すポイント	◆扇状地の成因 火山の噴出物などが土石流により堆積してきた地形。その上に火山灰等が堆積し、水はけのよい黒ボク土を形成し根菜類の栽培に適している。 ◆開拓の歴史 江戸時代に仙台藩片倉家が軍馬の生産を行っていた。クロボク土そのものには栄養分が無いので、野菜の栽培が成功するまでには長い時間をかけた土づくりがあった。 ◆名前の由来 7日かけてようやく周ることの出来る広大な土地であったため「七日原」と名前がついたと言う。 ◆現在の利用 牧場や畑としての利用が多い。酪農センターやハートランドでは、牛やヤギを飼育し、蔵王チーズ等の乳製品を生産している。土壌の特長を活かした高原大根の栽培が盛んである。		
注意すべき点	・乾燥したクロボク土は目に入ると取れにくく痛いため、風の強いときには土埃に注意する。 ・牧場地は道幅が狭く、大型の農機も行き来するため駐車場所等に留意する。		
施設、案内板等の整備状況	・県道白石上山線、国道457号線沿いにハートランド、チーズ工場の案内看板がある。 ・国道457号線沿いの秋山沢に公衆トイレと駐車場、ハートランド、チーズ工場も広い駐車場あり。		
疑問点	・扇状地内の地盤がどのように構成されているか。⇒ 秋山沢などの谷底を泥流堆積物（安山岩亜角礫など）が覆って扇状地形を形成し、その上を厚さ4mの火山灰層（上部50cmがクロボク層）が覆う。 ・黒ボク土は七日原以外にもあるのか。⇒ 青麻山東麓の曲竹地区や円田盆地周辺の塩沢・東根地区などの丘陵地にも黒ボク土が見られ、里芋や蒟蒻芋の栽培が盛んである。		
提 案	・扇状地の立体模型があると説明しやすい。 ・酪農センターやハートランドに遊びに来た人に関心を持ってもらう枠組みを考える。 ・酪農センター様々な体験企画があるので、それらとタイアップできると良い。 ・酪農センターはお土産・食の拠点として重要。また、チーズ・バター作りなどで調理体験の体制が整っており、ジオチェックなどでの協力が得やすいのではないか。⇒例：「七日原高原野菜の火山扇状地カレー」、「七日原クロボクティラミス（下部は火山泥流を模してゴロゴロした何かが入っている）」、「澄川・濁川カクテル」（酸性河川だから酸っぱい？ヨーグルト系？森林を流れる澄川はミントで爽やかさを演出？）など		

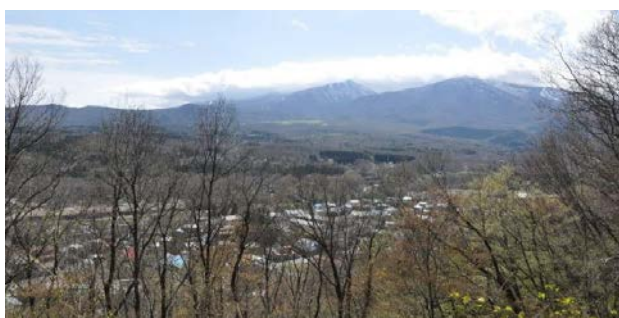
マップ



代表的な
写真



北原尾開拓地から見た七日原扇状地



権現山から見た遠刈田温泉街と七日原扇状地



ハートランドでは牛やヤギを飼育



広い駐車スペース



チーズ等の乳製品を販売

名 称	権現山と遠刈田段丘	所 在 地	蔵王町遠刈田温泉遠刈田北山
管 理 者	—	管理者連絡先	—
テ ー マ	【遠刈田ジオサイト】山の暮らしと温泉—火山地形と高原の産業— C. 松川と流域の地形		
サイトの説明	権現山と通称される遠刈田温泉北側の高台には、湯神(ゆのかみ)神社、愛宕神社、古峯(こばはら)神社が祀られている。 湯神神社は元禄8年(1695年)に遠刈田温泉の湯守(源泉の管理人)であった大沼久兵衛が四十八戸の住民とともに「蔵王湯神」の石碑を建立したのが始まりと伝えられている。以来、湯神神社の祭日には毎年「湯神祭り」が行なわれてきた。現在は祭日(毎年7月の土用の丑の日)にあわせて遠刈田温泉旅館組合による「お湯かけ祭り」が行なわれている。 愛宕神社、古峯神社はいずれも火伏せ・防火の神様として信仰されている。遠刈田温泉は明治中期と昭和初期の2回、大火に襲われた歴史があることから、地域では古峯神社の神様を「こばはらさん」と呼んで信仰している。古峯神社のある場所は眺望が開けており、遠刈田温泉の街並みと蔵王火山を一望にすることができる。 刈田嶺神社から権現山を経て岩崎山金山跡のある遠刈田公園へ至る散策路が整備されており、温泉街の散策と合わせて手軽に森林浴と蔵王の眺望を楽しむことができる。		
ジオ要素	・遠刈田温泉北側の高台は遠刈田段丘面で、松川が造り出した平らな地形。権現山も岩崎山もいわゆる山ではなく段丘の張り出し部分に当たる(温泉街から見ると山に見える)。 ・遠刈田温泉のある場所も平らな地形が広がる。これも松川が造り出した新しい段丘面。 ・蔵王火山や七日原扇状地、眼下に温泉街を望むことができるため、ジオパークの概要を説明するポイントとして活用できる。 ・権現山へ至る歩道には金鉱山の坑道跡が残る。遠刈田温泉発展の歴史と合わせて解説する。		
話すポイント	◆地形 対岸で七日原扇状地の先端を松川が削っている様子を見ることができる。 遠刈田温泉は松川が形成した平らな地形である河岸段丘面に立地している。 温泉街の北側の高台も平らな地形で、さらに古い河岸段丘面である。この段丘面の張り出しの部分は温泉街から見ると山のように見えたので、「権現山」「岩崎山」と呼んで景勝地にした。 ◆神社 元禄8年に湯神神社、明治～昭和期に愛宕神社、古峯神社が建立された。遠刈田温泉の裏山にあたり、地元の人々の信仰の場として親しまれてきた。 ◆植生・動物 権現山から岩崎山までの散策路周辺には落葉広葉樹林が広がり、森林浴と植物観察に良い。通常はこれより標高の高いところに多く成育するブナとイヌブナも見られる。また、オオルリやキビタキなどが見られ、野鳥観察にも良い。		
注意すべき点	・遊歩道として整備されているが、やや急斜面を登る箇所があるので履物に注意する。 ・坑道跡の横穴が開いている箇所があり見学できるが中に入らないよう注意する。 ・季節によりヘビ・ハチなどに注意する。 ・落葉期以外は眺望が制限され、手前の温泉街は見渡せないことがある。		
施設、案内板等の整備状況	・遊歩道が整備され、展望できる広場がある。 ・刈田嶺神社脇と遠刈田公園に遊歩道の案内看板がある。 ・遊歩道の経路：刈田嶺神社～権現山～岩崎山～遠刈田公園～金山坑道跡。延長約1.5km、片道約60分(遠刈田公園～刈田嶺神社は麓の道路で約0.8km、約15分)。		
疑問点	・実は山ではない？⇒ 段丘面の張り出し部分に「権現山」「岩崎山(籠山)」などの名前が付けられ、温泉街周辺の景勝地として親しまれてきた。 ・遠刈田温泉がある場所と権現山一帯の北側の高台とは約70mもの落差があるが、この段差はどうしてできたのか。⇒ 蔵王火山の活動と松川のはたらき、段丘面の形成について整理が必要。 ・高台の段丘面上には一部巨礫が見られる。これはどこから来たのか。⇒ 高台の堆積物が馬の背カルデラの崩壊、温泉街から鬼石原にかけての堆積物が五色岳東側の崩壊地と対応するという見解もある。一方、遠刈田には流れ山地形など山体崩壊を特徴付ける地形が見られない。詳細が未解明で、結論は出ていない。今後の火山防災上も重要な情報となるので、さらなる調査・研究が必要とされている。		
提 案	・比較的大きな礫が上端付近でも確認され、地形発達史について学術的な裏付けが必要。 ・火山との距離関係や防災も含めて学習できるサイトになる可能性がある。 ・遊歩道を歩くと勾配もありほど良い運動になるので、健康づくりや森林浴と合わせて気軽にジオに触れながら楽しんでもらおうと良い。 ・展望台の整備・眺望確保のための伐採などの検討が必要。 ・遊歩道脇に横穴が開いており、活用・保全・安全管理の観点での検討が必要。		

マップ



----- 段丘崖 (段差)

代表的な
写真



刈田嶺神社付近から権現山を望む



古峯神社付近からの眺望



遠刈田公園へ至る遊歩道の案内看板



遠刈田公園へ至る遊歩道の入口



遠刈田温泉の発展を見守る
湯神神社



刈田嶺神社の前身である「金峰
山蔵王寺岳之坊」と刻む石碑



遊歩道脇にある横穴
(金鉱山の坑道跡?)

名 称	岩崎山金山跡（籠山）	所 在 地	蔵王町遠刈田温泉字遠刈田北山（遠刈田公園）
管 理 者	蔵王町建設課	管理者連絡先	TEL：0224-33-2214 FAX：0224-33-3297
テ ー マ	【遠刈田ジオサイト】山の暮らしと温泉―火山地形と高原の産業― D. 大地の恵み I―温泉・水・鉱物―		
サイトの説明	遠刈田温泉の北西にある岩崎山は金や銀、銅などを含んだ鉱山で、戦国時代末期には金の採掘が始まっていたとみられる。江戸初期には仙台藩主伊達政宗の支配下で採掘され、仙台城築城の資金になったとも伝えられている。その後、坑道に多量の出水があつてやむなく閉山となり、政宗はこの事故で犠牲になった数十人の鉱夫を弔うため、坑道の奥に金の観音像を祀ったと伝えられている。 当時の採掘法は、鉱脈を手繰るように掘り進む「たぬき掘り」で、細い坑道が縦横無尽に巡り、岩肌の至るところに開口してカゴの目のようであったことから、「籠山」とも呼ばれた。遠刈田公園の一角にある岩崎山金山跡では、現在も坑道跡を見ることができる（「岩崎山金窟址」として町指定文化財に指定されている）。 明治時代には、武骨な岩肌と夜空の月の対比が美しいので「籠山の新月」として知られ、遠刈田温泉の名所の一つとなっていた。 刈田嶺神社から権現山を経て岩崎山金山跡のある遠刈田公園へ至る散策路が整備されており、温泉街の散策と合わせて手軽に森林浴と蔵王の眺望を楽しむことができる。		
ジオ要素	・金、銀、銅を含む鉱山で、蔵王火山形成以前、第三紀の火山活動で鉱床が形成された。 ・金鉱脈は幾筋にも別れ、細い鉱脈をたどりながら掘り進めるたぬき掘りによって採掘された。その結果、山肌がかごの目のように見えたことから籠山と呼ばれるようになった。 ・岩場が張り出しているので「岩崎山」、箆の目のように見えたので「籠山」と呼ばれた。地形や景観から生まれた地名。 ・金鉱山の開発に伴って温泉が発見され、現在の遠刈田温泉の発展につながっている。 ・坑道跡の入り口からは、夏でもひんやりと冷たい空気が流れ出ている。		
話すポイント	◆金の成因 金、銀、銅を含む鉱山で、蔵王火山形成以前、第三紀の火山活動で鉱床が形成された。金鉱床の形成について「火山＋水＝金」の公式を示し、興味をもたせる。 ◆伊達家との関わり 江戸時代初期には伊達政宗の支配下で採掘され、仙台城築城の資金となったと伝わる。 ◆籠山観音 金山跡の犠牲者の慰霊のため伊達政宗が祀ったと伝わる。 大正時代に遠刈田地区の女性らによって観音講が始められ、近くに札所として観音堂が建てられた。 ◆五輪堂 京の公家であった三条盛実の娘、お萬姫の乳母の墓碑とされる五輪塔がある。 岩崎山金山にまつわる炭焼き藤太と金売橋次の伝説が伝えられている。		
注意すべき点	・地形や金鉱脈の形成、温泉の湧出など、ジオの観点での解説が必要。 ・金山跡の崖がオーバーハングしており、安全対策や立入り範囲の明示が必要。 ・五輪堂への経路は細道で分かりづらい。		
施設、案内板等の整備状況	・遠刈田公園の一角にあり、駐車場、トイレが整備されている。 ・駐車場は入口に傾斜があり大型バスの進入は難しい（遠刈田公民館隣の町営無料駐車場を利用）。 ・言い伝えなどが記された看板が複数設置されている。 ・坑道入口は封鎖されているが、亀裂の発達した岩盤がオーバーハングしており危険である。		
疑問点	・なぜこの場所だけ岩場が露出しているのか？ 金鉱脈のある地層はどこまで広がっている？ ・五輪堂の中央にお祀りしてある石像について、賽ノ神信仰との関係はないのか。⇒ 五輪塔は古くからある墓碑の形態。遠刈田の五輪塔の由来は不詳。		
提 案	・かつて遠刈田温泉の景勝地とされた「籠山の新月」としての写真を撮影して活用してはどうか。 ・松の木が多く繁茂し「籠山の新月」と呼ばれた当時の景観ではなくなっている。不要木を伐採して遠刈田公園内や県道から眺められるようにしてはどうか。松林で暗いイメージがあるので安全対策と合わせて改善が必要。		

マップ



----- 段丘崖（段差）

代表的な
写真



金山跡全景



ごつごつとした岩肌



岩盤に開けられた坑道の横穴



坑道の入口は安全のため封鎖されている



説明看板

名 称	刈田嶺神社（蔵王大権現）里宮	所 在 地	蔵王町遠刈田温泉仲町 1
管 理 者	刈田嶺神社	管理者連絡先	TEL：0224-34-2620
テ ー マ	【遠刈田ジオサイト】山の暮らしと温泉―火山地形と高原の産業― G. 信仰と祈り		
サイトの説明	蔵王山を修行の場として活動した修験寺院の嶽之坊（だけのぼう）を前身とする神社。江戸時代には金峯山蔵王寺（きんぷせんざおうじ）と号し、蔵王山頂に鎮座する蔵王大権現社を司った。また、山頂が雪に閉ざされる冬季の十月八日から翌四月八日までの間、御神体を安置する蔵王大権現御旅宮（おかりのみや）の役割も担った。このように蔵王寺嶽之坊と蔵王大権現社は古くから密接に関連していたので、明治初期の神仏分離令を契機に合一し、蔵王刈田嶺神社と改めて今日に至る。「刈田嶺」は、この地に蔵王大権現が請来されて蔵王山と呼ばれる以前の呼称である。蔵王山頂の刈田嶺神社奥宮と遠刈田温泉の刈田嶺神社里宮との間で行なわれる季節遷座の伝統は、現在も脈々と受け継がれている。 江戸時代の嶽之坊は蔵王参詣表口も司り、庶民の間で御山詣りが流行した江戸後期以降には多くの参詣者を山頂の蔵王大権現へと導いた。遠刈田温泉を出発して刈田岳山頂を目指す蔵王参詣は戦後まで続くブームとなり、遠刈田温泉の隆盛に大きな影響を与えた。刈田嶺神社拝殿内には、明治時代の蔵王参詣の様子を描いた絵馬「敬明講図」が安置され、当時の様子を伝えている。 平成26年には地元有志らによって蔵王古道が復元され「蔵王御山詣り」が催されている。		
ジオ要素	・蔵王火山を巡る信仰の歴史と山名の由来、遠刈田温泉の発展の歴史について知ることができる（火山噴火と畏れ、信仰、温泉と地域経済の発展）。 ・境内の入口には源泉井戸から温泉が流れており、大地の恵みである「温泉」を実感できる。		
話すポイント	◆ 3つの刈田嶺神社 蔵王町内には、蔵王山頂、遠刈田地区、宮地区に3つの刈田嶺神社がある。季節遷座する蔵王山頂の刈田嶺神社（奥宮）と遠刈田温泉の刈田嶺神社（里宮）は平安時代に請来されたと伝わる修験道の本尊・蔵王大権現を祀る。宮地区の刈田嶺神社は古くは刈田嶺神（神山・刈田嶺）を祀り、山そのものを神とした古来からの信仰を伝えている。 ◆ 名称の変遷 江戸時代には蔵王寺嶽之坊と称し蔵王大権現を祀ったが、神仏分離令により明治5年に水分神社（祭神：蔵王大神）、明治8年に刈田嶺神社（祭神：天之水分神・国之水分神）と称するようになった。 ◆ 敬明講図（絵馬） 明治期の蔵王参詣の様子を描いた絵馬「敬明講図」が拝殿内に奉納されている。明治38年に仙台の蔵王参詣講である宮城敬明講が奉納したもの。蔵王町指定文化財。 ◆ 蔵王修験と蔵王参詣 平安時代に当地に請来されたと伝わる蔵王大権現を本尊とする願行寺系修験は末寺四十八坊を擁して発展したが、奥州藤原氏の滅亡を契機に衰退した。江戸時代後期に御山詣りが流行すると、わずかに存続していた願行寺系寺院の嶽之坊が蔵王参詣表口を担って出発地の遠刈田温泉とともに発展した。		
注意すべき点	・ジオパークの中でのストーリー性を意識して、蔵王信仰の話だけに終わらせずジオとのつながりを持たせた話を工夫する。 ・敬明講図は拝殿内に安置されており、見学する際は事前に神社へ申し出る必要がある。		
施設、案内板等の整備状況	・町指定文化財「敬明講図」は拝殿内に安置。境内に写真入りの説明看板あり。 ・参拝者用の駐車場は数台分。見学者は周辺の温泉街駐車場などを利用されたい。		
疑 問 点	・蔵王の噴火に関連する資料はないか？⇒ 1694年（元禄7年）「刈田岳噴火 蔵王大権現宮殿焼く」 ・江戸時代に続いた噴火が蔵王山の知名度を高め、蔵王参詣の隆盛に影響したのではないか？ ・入口の鳥居に掲げられたプレートの石版はなぜ山の形をしているのか？		
提 案	・神社の記録などに噴火のことが伝わっていないか調査してはどうか？ ・狛犬や社殿の細工など、神社の見どころについて共有できるように整理すべきである。		

マップ



刈田嶺神社



「蔵王大権現」の鳥居

代表的な
写真



蔵王参詣を描いた敬明講図
(明治時代に奉納された絵馬)



丸みのある狛犬



敬明講図の説明看板



境内入口脇を流れる源泉

名 称	新地こけし集落	所 在 地	蔵王町遠刈田温泉新地43
管 理 者	—	管理者連絡先	—
テ ー マ	【遠刈田ジオサイト】山の暮らしと温泉—火山地形と高原の産業— H. 歴史と文化		
サイトの説明	遠刈田温泉に近い七日原扇状地の裾野にある新地地区はこけし工人集落で、「遠刈田こけし発祥の地」とも言われている。江戸時代中期の元禄14年（1701年）の記録には「新地と申す所に木地挽八人、年久しくまかりあり」とあり、古くから続く木地師集落であることが分かる。かつては山から木を伐り出して椀や皿、盆や杓子といった生活に密着した日用雑器を中心に作っていた人々で、戦国時代末期に伊達政宗が現在の福島県会津地方から七ヶ宿町周辺に移住させた木地師たちの末裔と言われている。昭和30年代にこけしが趣味の収集対象として注目されると、遠刈田温泉街で土産物として販売されたこけしと木地玩具が生産の中心となった。 蔵王山麓の豊かな森林を舞台に木地師たちが活躍した長い歴史の中でこけしが生み出され、現在もその伝統が脈々と受け継がれている。江戸時代後期以降の遠刈田温泉の発展に支えられながら土産物としての木地製品やこけしの生産・販売が発展した。明治期には東北木地業の先進地として発展し、弥治郎・蔵王・肘折・南部など各系統のこけしやその創始にも大きな影響を及ぼした。 新地地区には現在の多くのこけし工人が工房を連ねており、歴史ある集落を散策しながら工房めぐりを楽しむことができる。集落内には集落の人々が信仰する山神社や惟喬神社があり、屋敷地にはこけしの仕上げ磨きに用いるトクサが繁茂している様子も見られる。		
ジオ要素	・森の恵みである豊かな森林資源を、自然の中で上手に活用してきた。 ・下記の条件がそろったために木地師が集まり「こけし」が生まれた。 —扇状地などの緩斜面が広がり、利用しやすい地形であった。 —寒暖の差が大きく良質な木材を得られる（気象条件）。 —温泉地が近い（人々が集まり土産物の需要があった）。 ・トクサやミズギの人工林など、こけし作りに必要な材料が生活の中で手に入る環境が作られている（大地の恵みを上手に活用してきた）。 ・集落の外れにある神社など、山を大切にしながら利用してきた信仰の歴史。		
話すポイント	◆新地木地師の歴史 新地・弥治郎（白石市）の木地師は、湯原、稲子、後沢（現在の七ヶ宿町）からの移住と推定され、戦国時代末期に伊達政宗が現在の福島県会津地方から移住させた会津系木地師の末裔と考えられている。なお、新地の木地師について一説には、会津系木地師の移住以前から蔵王東麓で活動していた土着の木地師であるとも言われている。 ◆集落内にある神社 山の神様を祀った山神社、木地師の祖とされる惟喬親王を祀った惟喬神社、商売の神様を祀った稲荷神社、火災防火の神様を祀った古峰神社の社がある。集落の人々の信仰の中心は山神社。仕事場である山の守り神であり、山の自然への感謝・畏敬が込められている。「山神講」の風習が今も息づく。なお、惟喬神社は各地の多くの木地集落と同様、明治時代後期に請来したもの。 ◆地形 こけし館からの遊歩道沿いに見られる段差は、扇状地を松川が削ってできた段丘崖であり、そこを登ると緩やかな扇状地地形が広がる。集落西方の神社はさらに一段高いところにあり、急斜面の参道を登ると七日原扇状地によって埋まりきらなかった古い段丘面がある。 ◆こけしに関連する植物 こけしの材料：落葉広葉樹のミズギ、こけしの仕上げ磨きに用いるヤスリ：トクサ		
注意すべき点	・こけし館からの導入など、ストーリー性をもたせた案内が必要である。 ・新地のほかに鳴子、福島県土湯が「三大こけし発祥の地」と言われている。 ・集落入口にある「木地発祥の地」の表現は誤りである（「伝統こけし発祥の地」であれば可） ・集落内の散策・見学では住民の生活空間でもあることに留意し迷惑にならないよう注意する。		
施設、案内板等の整備状況	・集落入口の道路沿いに案内看板や位置図が整備されている。 ・数軒のこけし製造販売所がある。 ・こけし館脇から森林の中を抜けて集落へ続く遊歩道がある（遊歩道の案内看板もあるが、入口が分かりづらい）。		
疑問点	・集落内を流れる小川はろくろの動力に使ったのか？ ⇒ 使われたことはない。 ・水路の水は扇状地の湧水なのか？ ⇒ 扇状地の湧水である。 ・神社の向きが蔵王を向いているのでは？ ⇒ 生活や生業の場としての山への信仰。		
提 案	・こけし工人の方々とも連携をはかり、地元で経済効果をもたらす仕組みを検討すると良い。 ・こけし工人の方々に取材をすると、もっと生活や景色と密着した関係が見えるのではないか。（現在も続く信仰や風習、過去の歴史なども調べられると面白い）。 ・ミズギ人工林やトクサが植えられている場所に説明表示物があると良い。 ・「こけし集落」と「こけしの里」どちらかに統一した方が良いのではないか。 ・集落内の散策や宅地内の植物を観察するにあたり、住民の同意が必要ではないか？		

マップ



代表的な
写真



こけし館脇から集落へ続く遊歩道
「こけしの道」が整備されている

新地こけし集落



光沢を出す磨き上げ用の
ヤスリとして使用した
「トクサ」が群生する



集落内の高台にある神社には
山神など四柱の神様を祀る



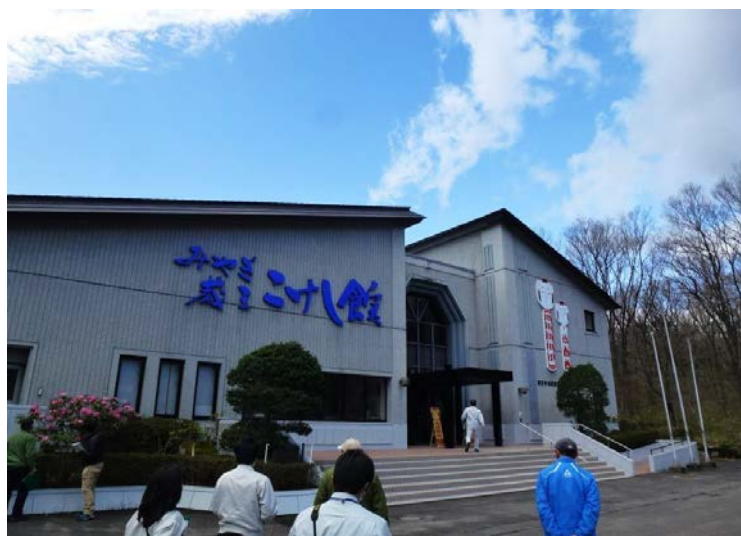
神社の入口に建てられた
「山神」などの石碑群

名 称	みやぎ蔵王こけし館	所 在 地	蔵王町遠刈田温泉字新地西裏山36-135
管 理 者	蔵王町観光物産協会 (指定管理者、所管：蔵王町農林観光課)	管理者連絡先	TEL：0224-34-2725 FAX：0224-34-2772
テ ー マ	【遠刈田ジオサイト】山の暮らしと温泉―火山地形と高原の産業― H. 歴史と文化		
サイトの説明	全国に愛好者を持つ東北地方のこけし。そのなかでも遠刈田温泉に近い新地こけし集落は「こけしの発祥の地」とも言われている。こけしの始まりは木地師が子ども向けの玩具として製作したものとされ、戦後に伝統工芸品として紹介されたことにより収集・観賞の対象として全国的な注目が集まった。土産物を買求める湯治客で賑わう遠刈田温泉に近いことや、こけしを含む木地生産に適した木材を生み出す蔵王山麓の豊富な森林資源が、この地にこけしを根付かせた。 みやぎ蔵王こけし館（蔵王町伝統産業会館）は、新地こけし集落を背にして蔵王山や遠刈田温泉を間近に望む松川の河畔に昭和59年5月に開館した。伝統技術の保存と後継者の育成、ならびに「宮城伝統こけし」を広く紹介することを目的に設立された。館内の工房で工人の作業を見学したり、こけしの絵付け体験などができ、伝統工芸品のこけしを身近に感じさせてくれる。 ※木地師：ロクロを用いて木製の日用雑器などを製作する工人。		
ジオ要素	・新地の木地師は古くから豊かな森林資源を活用して生活用品や子ども向けの玩具を製作してきた。 ・宮城県内で製作されるこけしには大きく鳴子系・弥治郎系・作並系・肘折系・遠刈田系の5つの系統があり、遠刈田新地は「こけし発祥の地」として知られている。 ・温泉地に近い立地から、土産物として「こけし」が人気を博し、人びとに愛されてきた。 ⇒ジオの恵み（森林資源と温泉）が「こけし」の誕生と発展に影響した。 ・木地の材料に適した樹木（まっすぐに伸び、適当な硬さである）が良く育つ環境であった。 ・円田盆地の十郎田遺跡では鎌倉時代の木器づくりの跡が発見されており、蔵王山麓が古くから木地生産に適した環境であったことが分かる。		
話すポイント	◆新地木地師の歴史 新地・弥治郎（白石市）の木地師は、湯原、稲子、後沢（現在の七ヶ宿町）からの移住と推定され、戦国時代末期に伊達政宗が現在の福島県会津地方から移住させた会津系木地師の末裔と考えられている。なお、新地の木地師について一説には、会津系木地師の移住以前から蔵王東麓で活動していた土着の木地師であるとも言われている。 ◆こけしの誕生 子どもの玩具として、江戸時代後期には製作が始まったと言われている。 ◆こけしの材料 現在は主にミズキを利用。成長が早くまっすぐに伸び、白い木肌で加工しやすい。		
注意すべき点	・展示はこけしの美術・歴史的な内容が中心なので、ジオ関係の内容（なぜ木地師が移り住んだのか、森林資源をどう利用したのかなど）についても触れるようにすると良い。 ・木材資源が再生可能な資源であり、木地師たちは森林を保全しながら上手に利用してきたことも強調する（資源や環境の保全はジオパークでも重要なポイント）。		
施設、案内板等の整備状況	・県道白石上山線沿いに案内看板が設置されており、アクセスが良い。 ・駐車場は広く大型バスも駐車可能、館内にトイレが整備。 ・館内の工房で工人によるこけし製作の見学や体験ができる。こけしや関連商品を展示販売。 ・案内者（ガイド）による展示の説明があると、内容の理解が飛躍的に向上する。		
疑問点	・一番古いこけしは、いつ頃のもののなのか？ ⇒ 幕末～明治期とされるものがある。 ・顔料やその他の材料でジオに関連するものがないか。		
提 案	・展示の内容にジオ関係の内容も充実させると良い。 ・新地の木地師集落より早くから蔵王山麓で職人の手による木地製作が行なわれていたことを示す十郎田遺跡出土の木製品を、こけし館に展示できると良い。 ・こけし館内にジオパーク常設展を設置し、蔵王ジオパークの拠点としてはどうか。 ・「ざおうさま」のこけしが人気とのことで、ジオとの関係を理解できる商品開発や、コマ、だるま落としの「ざおうさま」バージョンなど、バリエーションの工夫も協働できると良い。 ・新地木地師の遊びだった「ドンコロ回し」の展示と説明をしても良い。 ・昔遊び（コマ回し、お手玉、おはじき等）のできる場所があると面白い。 ・こけし館前のフリースペースや裏庭は、有効活用できるのではないか。		

マップ



代表的な
写真



こけし館の外観



広い駐車場とフリースペース



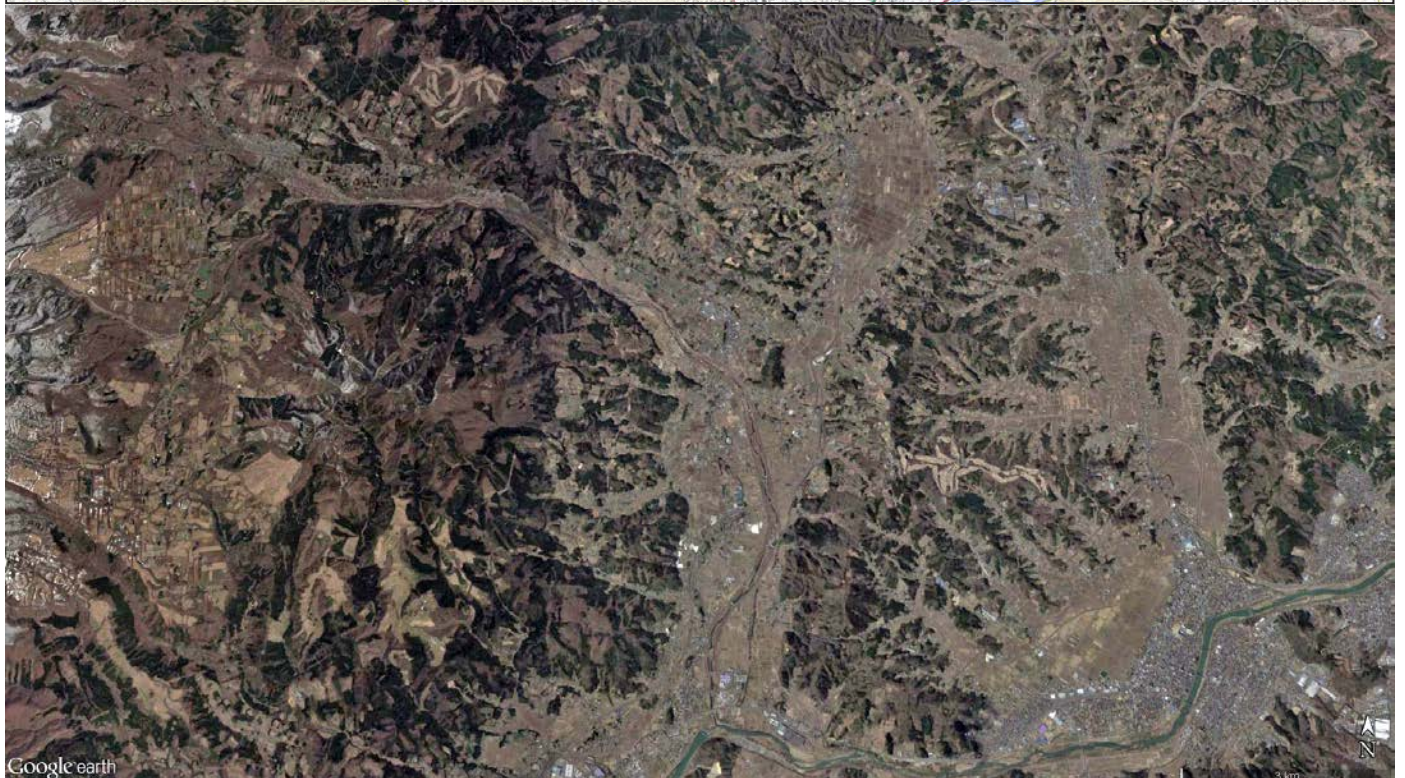
売店にはこけしや
木製玩具など



館内の展示



「ざおうさまこけし」
(ざおうさまとジオとの
コラボで新たに
商品開発できないか?)





澄川・濁川合流点
(森林地帯を流れる澄川と火山地形を流下する濁川が合流)



澄川・濁川合流点
(水質の異なる川の水が混じり合って色調が変化する)



澄川・濁川合流点付近の巨礫
(蔵王火山からの火砕流や土石流の痕跡か)



澄川取水口
(清流澄川の水を取水して水力発電や農業用水に利用)



疣岩分水工
(水力発電に利用した水をサイフォンで対岸に導水し分配)



黒沢尻用水 (仙台真田家史跡付近)
(澄川から水力発電、分水工を経て山麓の水田地帯を潤す)



松川
(澄川・濁川を源流として蔵王町を東流し白石川に注ぐ)



松川河岸段丘 (永野段丘面の段丘崖)
(松川が運んだ土砂が階段状の平坦地形を造り出した)



松川河岸段丘 (永野段丘面) からの眺望
(眼下に矢附段丘面。青麻山の裾野を松川が東流する)



段丘面上の巨礫群 (曲竹一里塚付近)
(矢附段丘面上に見られる巨礫は土石流などの痕跡か)



とんがり山からの眺望
(青麻山と蔵王連峰、松川流域の地形と景観を一望する)



仙台真田家史跡
(松川の屈曲部に面した平地は水害の常習地でもあった)



段丘面上の縄文遺跡群 (鞘堂山遺跡)
(見晴らしの良い高台は縄文人の生活適地だった)



段丘面上の果樹園
(水はけの良い段丘面は現在県内有数の果樹園地帯である)



松川の旧流路
(白石川との合流地点付近では松川が分岐して流れていた)

名称		松川ジオサイト		
テーマ		二つの川の物語 ー火山山麓の災害と恵みー		
ジオサイトの概要・説明		蔵王火山東麓を流れる松川中流域を中心とする松川ジオサイトは、火山山麓の河川流域に早くから人びとの暮らしが息づいてきたエリアである。蔵王火山から大量の土砂を運んだ松川は中流域に段丘地形をつくり、水はけの良い段丘面上は縄文人の生活の舞台として、また現在おいしい桃や梨を生産する果樹園として利用されている。また、遠刈田で硫黄の混流する濁川を避けて澄川から取水した用水は松川沿いの地形を利用した水力発電に利用された後、松川流域や近隣の水田に灌漑されている。土壌が不安定な火山山麓の河川は、火山泥流や洪水による災害を引き起こすこともあった。そうした歴史を段丘面上に顔を出す巨礫が物語り、現在も続く火山砂防工事からも知ることができる。 火山山麓の河川流域での火山災害や土砂災害の脅威と、そうした大地の営みが山麓につくり出した段丘地形や肥沃な土壌を舞台とした人びとの暮らしの営みを知り、果樹園や直売所で食の恵みに触れながら大地と水とのかかわりに思いを巡らせてみたい。		
ジオポイント	名称		概要	分類
	1	澄川・濁川合流点	蔵王火山に源を発する清流・澄川と、硫黄が混流する酸性の濁川という対照的な二つの川が合流して松川となる。水質の異なる三つの川の水の色の違いに注目。	C
	2	松川河岸段丘	蔵王山から松川が運んだ土砂の堆積と大地の隆起によって発達した小規模な段丘地形。水はけの良い特長を生かしてさまざまに利用されてきた。	C・E
	3	疣岩分土工	遠刈田発電所から松川の下を潜るサイフォンで対岸へ導水し、澄川用水と黒沢尻用水へ常に7:3の割合で分配する。止め処なく噴出する水の勢いは圧巻。	D
	4	とんがり山	松川流域と青麻山、蔵王火山を一望し、蔵王ジオパークの全体像が分かる展望地。絶景を前に蔵王火山の活動と山麓の人々の暮らしに思いを巡らせてみよう。	B・I
	5	仙台真田家史跡	真田幸村子孫と伝わる仙台真田家の史跡が残る矢附地区。屈曲する松川の氾濫によってたびたび洪水被害に見舞われ、共同墓地は山の斜面に移された。	F・H
	6	松川*	遠刈田で合流する澄川と濁川を源流として、白石川へと合流する松川。その流れは山麓部に段丘地形や肥沃な平野を作り、時に水害や火山災害をもたらした。	C
	7	段丘面上の巨礫群*	段丘面上のところどころで地面から顔を覗かせている数メートル大の巨礫。蔵王火山の噴火による火砕流や土石流でもたらされたものだろうか。	C・F
	8	段丘面上の縄文遺跡群*	段丘面上では数多くの縄文遺跡が発掘され、集落の跡が発見されている。見晴らしの良い段丘面上は、縄文人の生活適地だったようだ。	E・H
	9	段丘面上の果樹園*	水はけの良い段丘面上は果樹栽培に適しており、桃・梨・りんごなどの県内有数の果樹園地帯となっている。実りの季節にはフルーツ狩りを楽しむことができる。	E・H
	10	松川砂利採掘場*	松川沿いの平野部には、蔵王火山から松川が運んだ大量の土砂が堆積している。山麓部の程よい粒径の砂利は利用しやすく、露天掘りによる採掘が盛ん。	C・D
	11	松川の旧流路*	蔵王火山から約1800mの標高差を流れ下った松川は宮地区で白石川と合流。明治時代には八筋の流れに分かれていたという旧流路の痕跡は今も残る。	C・F
	12	遠刈田発電所*	澄川取水堰から導水し、松川が削り取った青麻山の裾野からの落差を利用した水力発電所。用水はその後、疣岩分土工を経由して山麓の水田に灌漑される。	D
	13	曲竹発電所*	遠刈田発電所と同様に水力発電を行なう。蔵王山麓の標高差と、松川が削り取った青麻山の裾野の急斜面を効率的に利用した環境にやさしい発電。	D
	14	澄川用水*	疣岩分土工から導水し、円田盆地や村田町の一部の水田に灌漑されている。昭和6年に完成し、度重なる干害で水不足に悩む地域の人々を救った。	D
	15	黒沢尻用水*	蔵王火山の硫黄が混流する松川流域では、古くから蔵王山の裾野に水源を持つ黒沢川の清流が利用され、火山山麓での稲作を支えてきた。	D
	16	松川砂防公園*	蔵王火山を望む松川河岸に整備された親水公園。山麓部を洪水被害から守るための砂防施設のミニチュアがあり、火山砂防事業について知ることができる。	F
	17	松川火山砂防工事現場*	火山噴出物など大量の土砂を押し流す松川の氾濫から山麓部の暮らしを守るため、長年続けられている火山砂防工事。工事では現地の河床礫を積極活用。	F
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			

*:調査予定地

名 称	澄川・濁川合流点	所 在 地	蔵王町遠刈田温泉字遠刈田字宇上ノ原
管 理 者	－	管理者連絡先	－
テ ー マ	【松川ジオサイト】二つの川の話—火山山麓の災害と恵み— C. 松川と流域の地形		
サイトの説明	蔵王町を流れる松川は、蔵王山が生み出した全く性質の異なる二つの川が合流して誕生する。二つの川のうち一つは屏風岳・芝草平周辺を源流として森林地帯を流れる清流「澄川」。もう一つは御釜周辺に源を発して荒涼とした火山地形を流れ下り、硫黄が混流する酸性の川「濁川」。生命の源とも言うべき澄川に対して、濁川は魚も住めない酸性河川と対照的である。同じ蔵王山を起源としながらも、異なった性質を持つこの二つの川の合流地点は、遠刈田温泉街のほど近くにあり、そこではまさにその松川誕生の瞬間を見ることができる。その日の光の当たり具合によって御釜と同じエメラルドグリーンの水面を映すこともあり、蔵王山とのつながりを感じることができる。 なお、合流点の手前で澄川から取水された水は遠刈田発電所で水力発電に利用された後、疣岩分土工で澄川用水と黒沢尻用水に分けて農業用水として水田に灌漑されている。疣岩分土工は学術的にも貴重な歴史的土木施設として、公益社団法人土木学会により選奨土木遺産に認定されている。		
ジオ要素	・「火山の恵み」と「森の恵み」の合流点であり、蔵王のジオストーリーの起点と言える。 ・全く性質の異なる２つの川が反応し、光の当たり具合によって御釜のような美しいエメラルドグリーンの色調になる。 ・「澄川⇒水力発電⇒分土工⇒農業用水」に繋がる森の恵みのストーリー。 ・河床に点在する巨礫から、段丘面に分布する巨礫群の成因について学習する。 ・河原の石や水質などから、澄川、濁川の違いと意味「なぜ？」を考える		
話すポイント	◆ 2つの川の違い 濁川：火山（御釜）から流下する強酸性の河川であり、生物は殆ど生息していない。 澄川：澄んだ透明な清流でイワナ、山菜などを生み出し恵みが豊かである。 澄川の清流を利用したイワナやヤマメの釣り堀・養魚場もある。 ◆ エメラルドグリーンの水 異なる起源の2つの川が合流し、美しいエメラルドグリーンの色調に変化する様子を見てもらい、大地が創り出す造形を楽しんでもらう。 ◆ 水の利用 合流点の上流側には水力発電の取水口（澄川）があり、発電に用いられている。 また、発電後の水は疣岩分土工で分水され、農業用水としても利用されている。 ◆ 蔵王連峰の眺望 合流点から上流を見ると真正面に後鳥帽子岳が見え、とても美しい。		
注意すべき点	・合流点までの経路は、巨礫があり足元が不安定で低木や笹が多く繁茂している。 ・岩が多く足場が悪い上、岩の表面に苔が生えており、とても滑りやすい。 ・河川敷での見学となるので、水深の深い場所や、降雨後の増水に注意する。 ・川沿いで見られる巨礫は、火山泥流や土石流で直接運ばれたものだけでなく、川の働きで上流部から二次的に流されてきたものもある。		
施設、案内板等の整備状況	・案内看板等は設置されておらず、アクセス路も未整備である。 ・こけし館入口の河川敷に駐車場がある。合流点入口には2台程度駐車可能か。		
疑問点	・なぜ、エメラルドグリーンに見えるのか？ ・川岸に降りなくとも見える場所はあるのか？ ・電力の取水口の近くにある高所アンテナは何なのか？ ・水力発電の取水口に入れば面白いのだが、入れないものか？ ・雨後の濁り具合に差があるのだろうか。裸地を流れる濁川の方が浸食作用大きく濁る？		
提 案	・合流点までの経路は刈り払いや下地整地による遊歩道の整備が必要。 ・河川敷での見学なので水深の深い場所や増水に注意を促す警告看板等の設置が必要。 ・合流点の河原では石の種類が豊富なため、見た目では判断できるものについて個々の石がどちらの川に起因し、どのような石なのかを説明すると良い。 ・氾濫原の河床にも巨礫が分布していることを確認し、段丘面上などで地層の侵食によって巨礫が顔をだす様子と対比する。また、こうした巨礫を人の手で取り除かなければならなかった開拓の歴史と絡めると良い。 ・エメラルドグリーンの話は事前に話さず、現地ではじめて説明した方がインパクトがある。 ・エメラルド色に見える原理を再現し説明できる簡易実験装置があれば良い。 ・合流点の写真は蔵王ジオパークを象徴するものなのでポスターなどに積極的に活用する。 ・ジオツアー兼調査活動として参加者が各地点の水質調査や水生生物の調査を行っても良い。 ・釣魚に関しては釣り人への聞き取りも良い。		

マップ



↓遠刈田発電所へ導水



澄川・濁川合流点

代表的な
写真



河原までの道は未整備で足場は良くない
川沿いには巨礫が多く見られる



色や性質の異なる澄川と濁川の水が混じり合い、
エメラルドグリーンの色調に変化する

名 称	松川河岸段丘	所 在 地	蔵王町大字円田字愛宕山ほか
管 理 者	—	管理者連絡先	—
テ ー マ	【松川ジオサイト】二つの川の物語—火山山麓の災害と恵み— C. 松川と流域の地形／E. 大地の恵みⅡ—地形と土壌—		
サイトの説明	蔵王から流れ下る松川は長い年月をかけ川底を削り、段丘（階段状の平らな地形）を形成した。水場が近く見晴らしの良い段丘面は、水はけもよく生活に適しており、多くの縄文遺跡が残されている。現在も畑や果樹園として利用されている。 一方、大雨による洪水が頻繁に発生し、川が大きく屈曲する矢附地区や、白石川に合流する宮地区では、明治時代の洪水で集落や桃園が流失する大きな被害を受けてきた。また、蔵王火山の活動が活発化すると、硫黄を含んだ水や土石流がもたらされる被害もあった。現在、被害軽減のため堤防や砂防設備の整備が進められている。また、段丘面上には、所々数メートルもある巨石が顔をのぞかせている。岩の表面は丸く、火山泥流や土石流で流れ下った際に削られたものと思われる。 江戸時代に笹谷街道の宿場としてつくられた永野宿の町並みは、矢附段丘面につくられている。永野宿を見下ろす永野段丘面の崖線にある八雲神社は、もとは松川のほとりに祀られていたものが元禄元年（1688年）に松川の氾濫で流失し、現在地に再建されたものである。		
ジオ要素	・川の侵食（削りこみ）による河岸段丘の形成過程が理解しやすい。 ・大雨や火山活動によって繰返されてきた洪水や土石流災害の過去を、多くの砂防設備から窺い知ることができる（災いの側面）。 ・繰返す氾濫は肥沃で水はけの良い段丘面を形成し、縄文時代から生活適地として利用されてきた。近代以降には、特産の桃や梨等の果樹園が発展する礎となっている。 ・作物育成に不適な硫黄が桃の栽培には好適（病害防止、恵みの側面）とされ、幕末～明治期にかけて火山活動の影響で耕作地に硫黄が沈着した松川の下流域を中心に稲作から桃の栽培への転換があった（現在は水田に戻っている）。 ・段丘沿いの巨石は、松川の氾濫や泥流で運ばれ、侵食や開墾により地表に現れた（移動が困難なために残されている）。		
話すポイント	◆地形 段丘の形成過程（侵食・堆積・隆起）や土地利用の歴史（縄文集落・果樹栽培）について解説する。 水はけの良い段丘面で盛んな果樹栽培について解説。巨礫の分布と開墾の歴史にも触れる。 段丘の形成はおおよそ2万年～7万年前程度と考えられ、段丘を形成した長い年月と蔵王の噴火史との関係について解説する。 松川の屈曲部にあたる矢附地区で氾濫が多かった（川沿いに川や谷のつく地名が多い）。 ◆くらし 縄文集落が営まれた数千年前には既に段丘地形は形成されており、この場所で現在も人々の暮らしが続いている。⇒人が暮らしやすい環境（恵み）がある。 青麻火山が一望でき、火山の形成史、信仰の歴史、青麻山東麓の縄文遺跡や果樹・サトイモ栽培（蔵王おろしを避けられる場所だから？）等の説明ができる。		
注意すべき点	・段丘地形は、説明がないと理解しにくいので、航空写真や図解を利用した説明が必要。 ・下方の平坦面（矢附段丘面）だけでなく、背後の果樹園も古い段丘（永野段丘面）である。		
施設、案内板等の整備状況	・看板等無し。 ・墓地の駐車場は広く、車によるアクセスは良い。		
疑問点	・谷地遺跡は、段丘上の水はけが良い地形にあるのになぜ湿地が想像される地名なのか？⇒周囲の微地形を観察すると遺跡のある場所はわずかに小高く、窪地上の低い部分に面しているのが分かる。「谷地」地名はこの低い部分を指し、松川の後背湿地（段丘面の形成過程で、松川が運んだ土砂の背後に低い部分が残った）と考えられる。同様に、西浦B遺跡は二つの後背湿地に挟まれた小高い場所にあるのが分かる（地形の性質を理解した上で暮らしやすい場所を選んでいる）。 ・河岸段丘のでき方から、昔の松川の流れを知ることができるのでは？		
提 案	・各段丘面の離水年代と蔵王山の活動との関係、矢附段丘面の果樹園などで見られる巨礫の由来について裏づけが必要である。 ・段丘地形は説明なしでは理解できないため、説明板やリーフレットが必要ではないか。 ・古い地形図や航空写真を利用しながら松川の流れの変化と段丘地形の形成について説明すると良い。 ・縄文集落の想像図などがあると当時の暮らしがイメージしやすい。 ・蔵王火山起源の泥流についても説明しやすいポイントで、火山との距離関係や防災についても学習できるのではないか。		

マップ



----- 段丘崖（段差）



永野段丘面上の展望地（役場裏）から見た矢附段丘面
青麻山の裾野を松川が流れる



展望地からの見学風景



矢附段丘面（手前）と永野段丘面（右手）の段差が続く



墓地の駐車スペース（展望地）



展望地の隣と段丘崖の斜面には墓地、背後の平坦地には果樹園



縄文時代の集落跡（韃堂山遺跡）

代表的な
写真

名 称	疣岩（いぼいわ）分土工	所 在 地	蔵王町大字円田字棚村地内
管 理 者	水土里ネット澄川（村田町役場内）	管理者連絡先	TEL：0224-83-2111 FAX：0224-83-5740
テ ー マ	【松川ジオサイト】二つの川の物語ー火山山麓の災害と恵みー D. 大地の恵み Iー温泉・水・鉱物ー		
サイトの説明	疣岩分土工は円田字棚村地内の県道沿いにあり、現在の農業振興の基盤として重要な施設で、県内では一番最初に出来た分土工と言われている。 遠刈田発電所で発電用に使った澄川の水の一部をこの分土工に導水し、7割が澄川用水路に、3割が黒沢尻用水路の方に分水され、850haの水田に活用されている。 時代をさかのぼること約百年前、大正初期のこの時代は毎年干ばつに見舞われ、旧円田村、村田町などの地域では、農作物を栽培するための水不足に悩まされてきた。「我らに水を与えよ。しからざれば死を与えよ。」と村人たちが嘆くほど干害による被害が続いた。村人たちは新たな水源として澄川に水を求め、分水施工から完了まで2年を要したこの施設は、昭和6年に完成し80年以上経った今なお使われている。 平成23年には公益社団法人土木学会により、学術的にも貴重な歴史的土木施設として選奨土木遺産に認定されている。		
ジオ要素	・蔵王を起源とする澄川から取水し、発電を行った水を更に稲作用の水として活用する為の分土工。取水口は澄川・濁川合流点にあり、恵みと災害の観点から一連で説明しやすいサイトの一つ。 ・蔵王火山で生まれた良質の水が円田盆地を経て、村田町の水田を潤す恵みの水として昭和初期から現在も利用されている。 ・蔵王山起源の水の利用、遠刈田発電所（出力2400KW）、曲竹発電所出力（890KW） ・公益社団法人土木学会により選奨土木遺産として認定されている。		
話すポイント	◆経緯と概要 円田村・村田町・沼辺村の灌漑用水不足の解消のために建設され、昭和6年に完成。 澄川から取水し、遠刈田水力発電所で利用したものの一部を導水し（残りは曲竹水力発電所へ）、澄川用水と黒沢尻用水に分配する施設。黒沢尻用水は蔵王町東部（松川沿い）・大河原町、澄川用水は蔵王町東部（円田盆地）・村田町西部（谷山）に灌漑されている。 円周の切り方で流量を調整し（出口を角度で7：3に分ける）、誰の目にも明らかな分配で争いを避けたことなど、先人の知恵を知ってもらう。 澄川の水の恵みの一部であることを説明（発電と農業用水）。 ツアーで澄川・黒沢尻用水を通過する場合、事前に説明しておく（真田家史跡など）。		
注意すべき点	・駐車スペースが無い。交通量の多い県道沿いなので安全なアクセスに注意が必要。 ・ガイド等の案内がないと施設の機能以外のストーリーがわからない。 ・用水路は幅があるが柵は無く、転落の危険がある（注意喚起ポスター有り）。		
施設、案内板等の整備状況	・案内表示、説明板とも設置されていない。		
疑問点	・松川の対岸にある遠刈田発電所から疣岩分土工までどうやって水を引いているのか？ ⇒松川の下を横断するトンネルを掘り、発電所と分土工の高低差を利用したサイフォンの原理で水を引いている。澄川取水口から発電所への導水路もほとんどがトンネルになっているので、地図では水路が破線で表記されている。		
提 案	・説明を受けると面白さが全く違うので、説明看板が必要である。 ・アクセス性の問題があるので、立ち寄れない場合には関連するほかの場所（取水口、発電所、用水など）で写真パネルを用いて説明すると良いのではないかな。 ・難工事の様子をイラストなどで解説できると良い。勾配を計算しているとか、かなり湾曲している合理的な理由などが分かれば説明に加える。 ・水の力強さを実感できる箇所、ジオのまとめとして訪れても良い。 ・写真にすると面白い画になり水に見えない（得体の知れない物体に見える）ので興味を持たせるきっかけになる。		

マップ



サイフォンで地下から勢い良く流れ出す水



左手は澄川用水へ、右手は黒沢尻用水へ

代表的な
写真



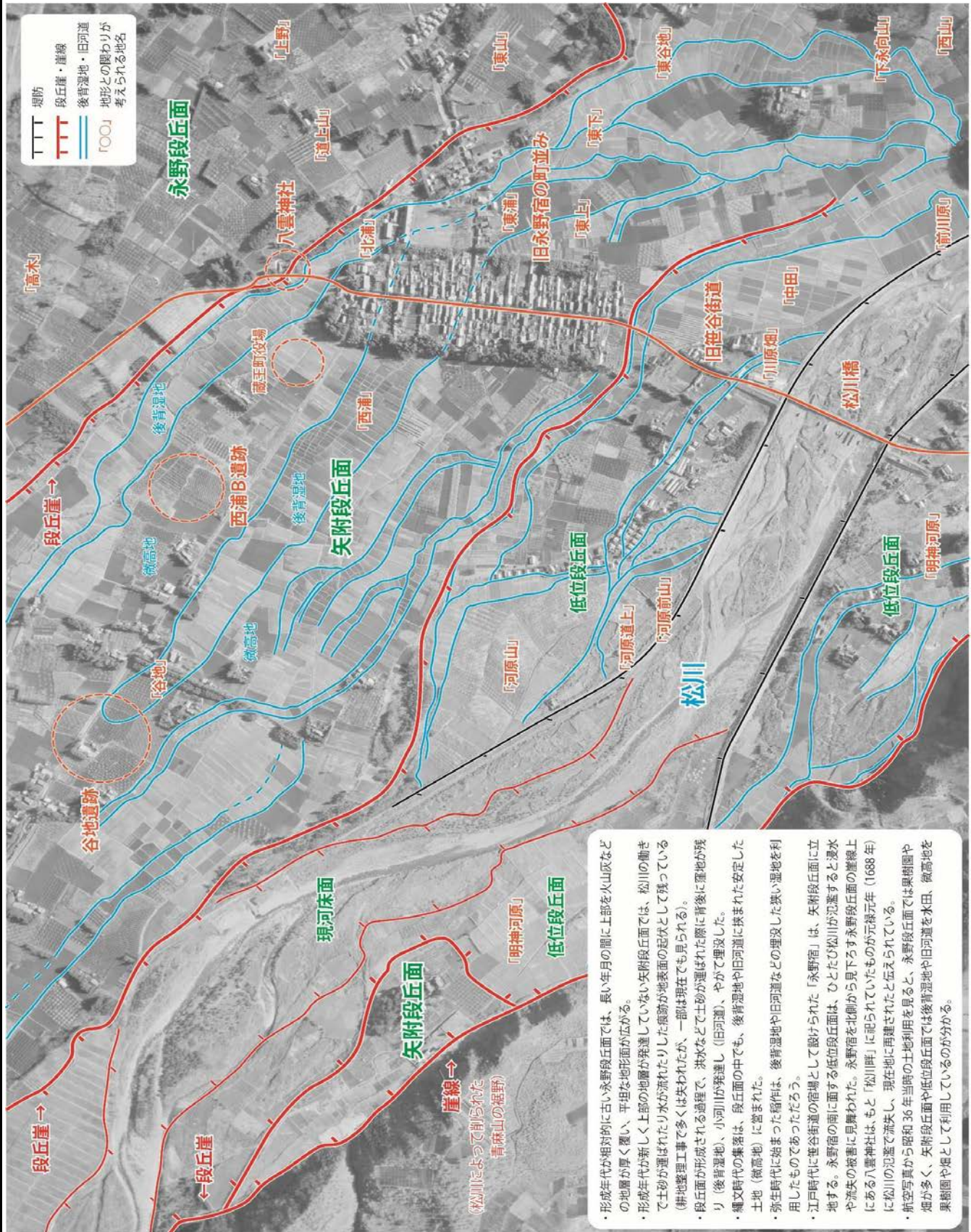
分水工から流れ落ちる黒沢尻用水



水利用標識



分水工の全景

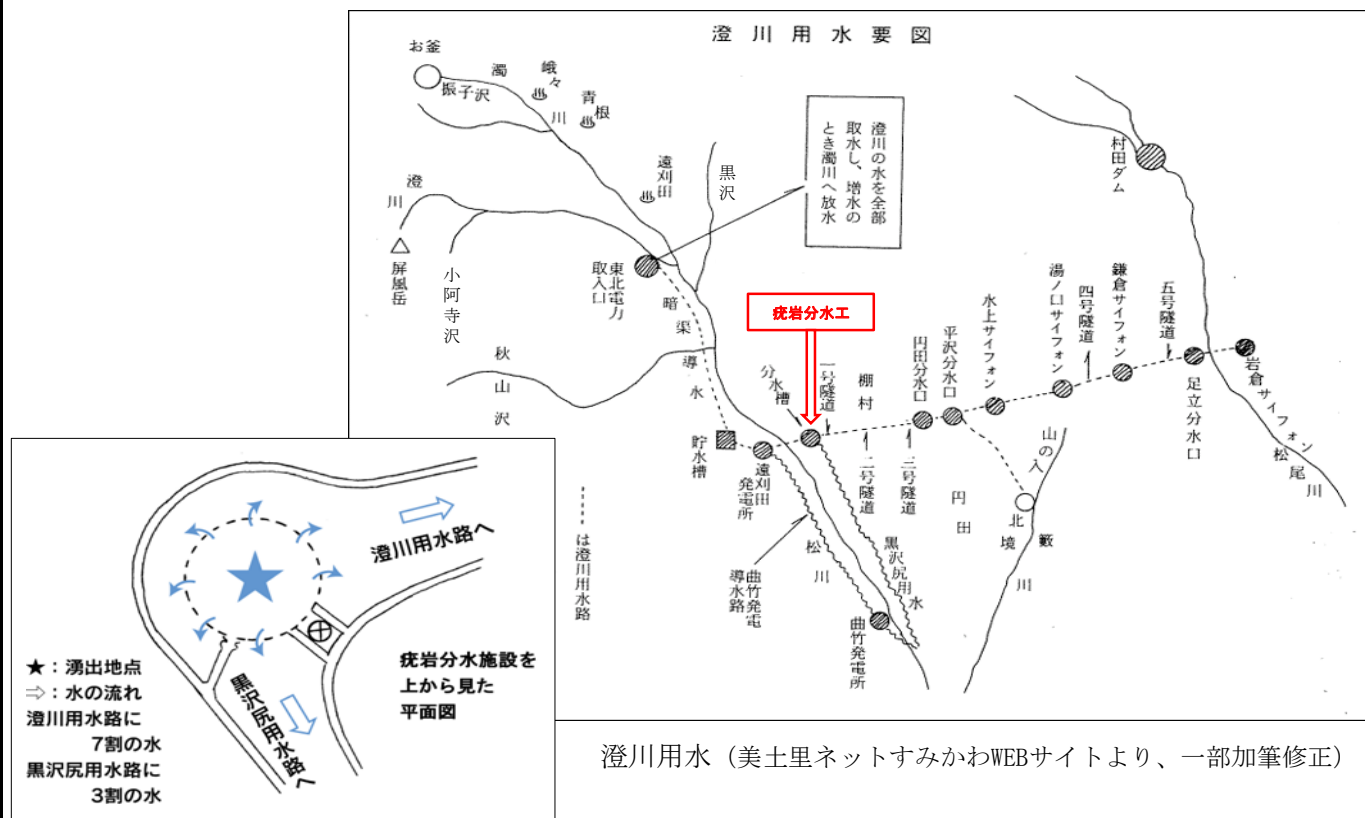


昭和36年・米軍撮影航空写真（MTO613-C6A-2 国土地理院 1961）

永野地区周辺の矢附段丘面上に残る微地形



澄川用水と黒沢尻用水（宮城県大河原地方振興事務所WEBサイトより、一部加筆）



疣岩分水工の平面図（蔵王町WEBサイトより）

名 称	とんがり山	所 在 地	蔵王町宮字原入（共有地・原入山）
管 理 者	－	管理者連絡先	－
テ ー マ	【松川ジオサイト】二つの川の物語－火山山麓の災害と恵み－ B. 蔵王火山の活動前史／I. 景勝地		
サイトの説明	通称「とんがり山」と呼ばれる小高い山の山頂は、蔵王から吹き下ろす「蔵王おろし」を利用したパラグライダーの離陸ポイントとして整備され、周辺の地形を一望することができる。 全方位に開けていることから、蔵王連峰、青麻山、松川、白石川、河岸段丘、円田盆地など山、川、田、畑、森など様々なジオポイントを含む町全体を一望できる。蔵王の成り立ちなどについてガイドを通して説明しながら眺めるとジオパーク（大地・地球の公園）を体感できるスポットである。特に、青麻山の成り立ち（カルデラ形成と溶岩ドーム）や松川の氾濫の歴史（河川の屈曲・段丘地形・砂防施設）などを良く観察できる。 また、パラグライダーの離陸ポイントまでの歩道沿いには、新第三紀の凝灰岩や火山岩が分布しており、蔵王火山形成以前の地質を観察することができる		
ジオ要素	・山から吹き下ろす「蔵王おろし」について説明し、パラグライダーが上昇気流を得て飛んでいること（恵み）と、風が強く厳しい環境についても解説する。 ・松川の蛇行の様子が良く観察でき、災害と防災・減災の取り組みを見て取ることができる。 ・青麻山の北方に安達火山（川崎町）やセツ森（大和町）の方角を遠望し、恐山まで続く火山列について解説、脊梁火山列とともに火山フロントについて説明する。 ・ルート沿いや歩道には、新第三紀の凝灰岩や火山岩が分布しており、蔵王火山形成以前の地質を観察することができる。 ・凝灰岩は、仙台の広瀬川の河岸で観察できる地層に相当するもの（向山層、竜の口層等）で、福島沿岸まで広域に分布している。		
話すポイント	◆景色・地形 ・見晴らしが良く快晴時には絶景と呼ぶにふさわしい。まずはとにかく景色を楽しんでもらう。 ・蔵王ジオパークの広範囲（特に青麻山から里エリアにかけて）を一望しながら、蔵王連峰、青麻山、松川、白石川、河岸段丘、円田盆地等について説明する。 ・青麻火山の成り立ちについて説明（カルデラ形成と溶岩ドームがよくわかる）。 ・蔵王連峰と青麻火山を一望にしながら、両者の山容の違いを観察する。 ・松川沿いの土地利用を見ると、低位段丘面や自然堤防の微高地に集落があり、後背湿地のような低地に水田が広がっているのが分かる。 ・堤防が整備された現在は川の流路は一定しているが、以前は大きな洪水によって流路が変わったり枝分かれしたりすることがあった。地形の細かい起伏を見るとその痕跡が残っている。		
注意すべき点	・駐車場やアクセス道路が狭く、大型車両は進入できない。 ・頂上の施設（単管組）は天板の劣化が顕著で、立入禁止も含めた案内が必要。 ・街灯はないので、日没にかけての見学時には注意が必要。		
施設、案内板等の整備状況	・航空機航路との関係などから現在パラグライダーの離陸ポイントとして利用されていないため、日常管理は行われていない。 ・案内看板等はない（手倉森山展望台への案内板に従って登り、途中から枝分かれする）。		
疑 問 点	・とんがり山の尖った地形はどうしてできたのか？⇒ 山の西側を松川の流が削って急斜面となった。		
提 案	・とんがり山と周辺の地形発達史について整理することが必要。 ・実際のパラグライダーの動画や画像を見ながら解説できると面白いのではないかな。 ・各方向に見える山などの案内図（展望台などによくあるもの）を設置してはどうか。 ・初日の出を見るポイントにもなるのではないかな。東側の手倉森山展望台からは大河原町方面や太平洋まで見通せる。 ・山頂部分のパラグライダーの離陸ポイントは危険箇所があり、整備や維持管理、安全対策の面で課題が残る。伐採や斜面の保全、通路の再整備なども必要である。		

マップ



西：青麻山と蔵王連峰



北：蔵王町役場方向

とんがり山からの眺望（360° 見渡すことができる）

代表的な
写真



とんがり山の頂上
(パラグライダーの
離陸ポイント) の様子



南から見たとんがり山



とんがり山の概要説明看板



林道沿いの露頭

名 称	仙台真田家史跡	所 在 地	蔵王町大字矢附字川原畑
管 理 者	矢附真田の会・個人	管理者連絡先	－
テ ー マ	【松川ジオサイト】二つの川の物語－火山山麓の災害と恵み－ F. 大地の脅威／H. 歴史と文化		
サイトの説明	慶長20年（1615年）に大坂夏の陣で討ち死にした真田幸村公の子どもたちが伊達政宗により保護され、仙台藩士として代々暮らしたと伝わる矢附地区。現在は明治時代の「幸村十一世」と刻まれた真田豊治の墓碑や、真田幸清筆子塚の碑が残されている。 真田家は江戸時代を通じて明治時代までこの地で暮らしたが、屋敷のあった場所などは分からなくなっている。それは、この場所が松川が大きく屈曲する地点の外側にあるため、堤防が十分に整備されていない時代には大雨で増水した松川が氾濫し、繰返し洪水の被害を受けたことによる。「川原畑」の地名が表すように、屋敷跡もある時期に洪水の土砂に埋もれた可能性がある。 矢附地区北側の山の急斜面に貼り付くように共同墓地が造られているのも、洪水で流されたものを移したものである。畑の周りに江戸時代の墓石がいくつも放置されているが、洪水時に埋没したものが、耕作時に出てきたものと思われ、巨礫も複数点在している。 現在の矢附地区では、疣岩分土工から枝分かれした黒沢尻用水の水路が田畑を潤している。田園地帯から望む青麻山の景観も美しく、幾多の災害を乗り越えてきた農村風景が今は穏やかな佇まいを見せている。		
ジオ要素	・真田幸村の子孫が蔵王山麓の地に安穏と生活していたわけではなく、繰り返される洪水被害を乗り越えて暮らしていた実情を想像する。堤防などが十分に整備されていない時代、人びとと大地がもっと身近だったこと（災いの側面）を直観的に理解しやすい。 ・矢附地区は松川沿いにあり、川が大きくカーブする外側に位置するため洪水の被害が絶えなかった。一方で洪水によって堆積した土砂等により肥沃な土壌がもたらされた。 ・山の急斜面に貼り付くように共同墓地が造られており、洪水のために移したものであると言われている。平成に入ってから松川橋下流側で増水時に堤防の侵食があった。		
話すポイント	◆歴史 ・戦国武将として人気がある真田幸村の子孫ゆかりの地と言われている。歴史の話をきっかけに、ジオの側面から生活環境についても理解することができると面白い。特に、繰返す洪水被害に直面したであろう子孫の暮らしぶりについて、石碑、墓地、周辺に点在する墓石などから、直感的に理解しやすい。 ◆松川とのかかわり ・当時の洪水被害の大きさを、現在の墓地の位置や地名、洪水の影響で所在地が不明になったと思われる真田家の屋敷跡などから想像することができる。 ・矢附地区で松川が青麻山を回りこむように流路を変えていること、その周辺に「川原畑」「谷地」「逆川」など川に関連する地名が多いことが地形図や航空写真から確認できる。 ・大正2年の大洪水では大量の砂礫が田畑を覆い尽くし、復旧工事で集められた砂礫がいくつもの山を作り、「矢附の砂山群」として名所となり多くの見物人が訪れたと言う。		
注意すべき点	・歴史的な要素が強いので、ジオとの関係について意識しながら説明する。		
施設、案内板等の整備状況	・案内看板、説明板が整備されている（仙台真田氏の歴史、真田豊治墓碑、真田幸清筆子塚）。 ・見学者用駐車場と墓碑までの散策路が整備されている。		
疑問点	・ほかに洪水の痕跡や、洪水の影響を避けるために作られたものがないか。 ・散策路沿いにある桑の木等の樹齢がわかれば、時代を考える上で面白いのでは。 ・なぜ真田家は矢附・曲竹に領地が与えられたのか。		
提 案	・地形分類図で見ると、矢附地区の矢附段丘面が円田盆地南側の開口部を閉塞しており、これによって円田盆地内の沖積作用が促進されたように見える。⇒円田盆地の沖積面と矢附段丘面の形成年代による裏づけが必要。 ・航空写真などを用意しておき、現地でも松川との位置関係などを確認すると、堤防がない時代には洪水がダイレクトに来てしまうことを実感できるのではないかと。		

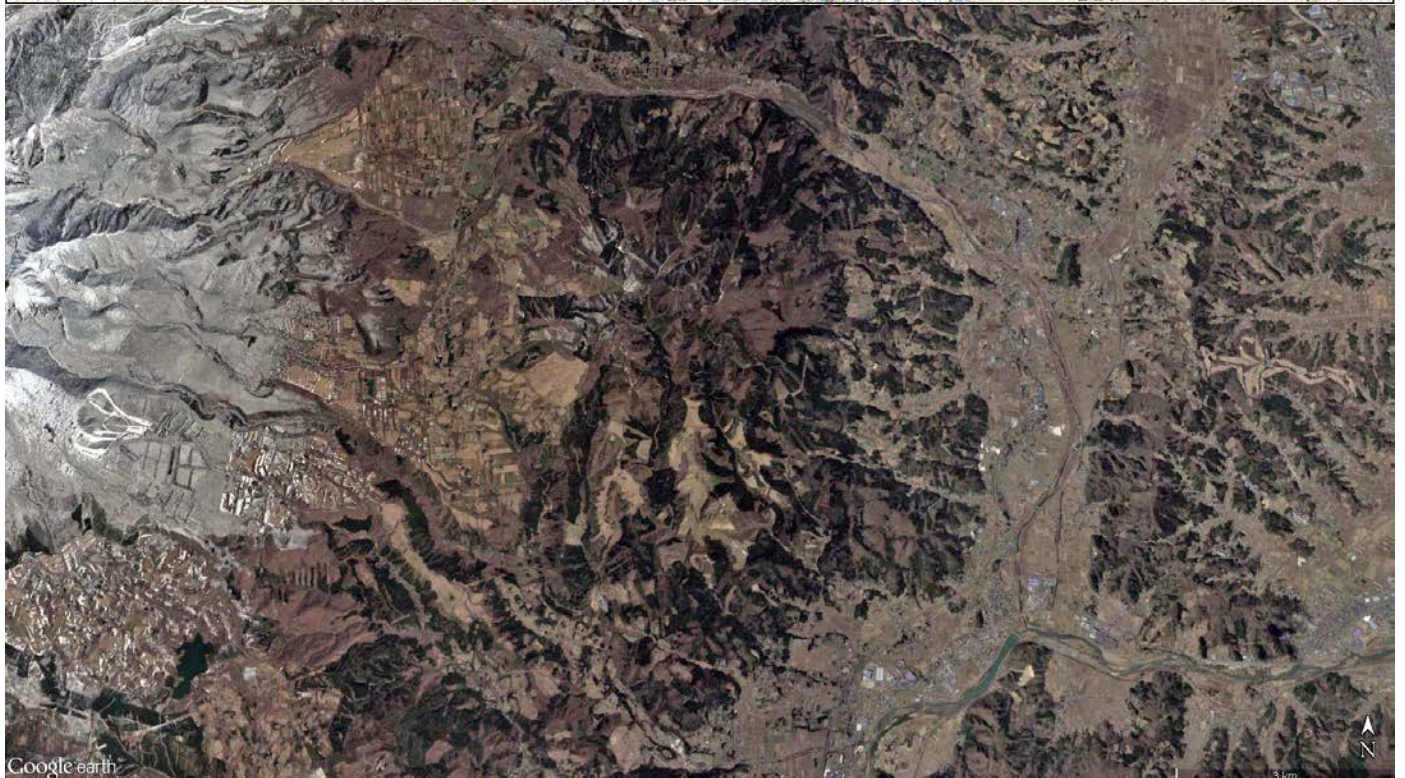
Topographic map of the Maeda family site area in Maeda, Gunma Prefecture. The map shows the Maeda family site (真田家史跡) marked with a red dot, the Maeda family site museum (真田家史跡館), and the Maeda family site (真田家). The map also shows the Maeda River (真田川), the Maeda River Bridge (真田川橋), and the Maeda River (真田川). The map includes a scale bar (300m) and a north arrow.



代表的な
写真

[illegible]

61





青麻山（大苅田山）

（山頂の溶岩ドームと周囲の外輪山が柔らかな稜線を見せる）



青麻山山頂

（古くは蔵王火山を遥拝する刈田嶺神社が山頂に鎮座した）



青麻山山頂からの眺望

（松川と白石川との合流点付近の景観や太平洋を一望する）



刈田嶺神社（白鳥大明神）

（蔵王火山を神山とする古代以来の信仰を今に伝える）



伝願行寺跡

（蔵王山頂に「蔵王大権現」を祀った願行ゆかりの地）



馬頭観音の巨礫

（青麻山から流れ下った巨礫が目印や信仰の対象とされた）



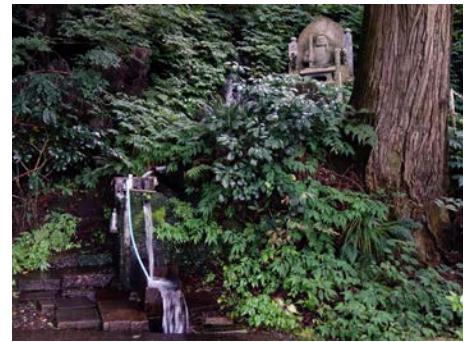
宝龍権現社

（青麻山の裾野に顔を出す岩場の上に鎮座する）



宝龍権現清水

（岩場の裂け目から湧き出す清水に多くの人が集まる）



恵水不動の清水

（青麻火山の噴出物が露出する岩肌を勢い良く流れ落ちる）



恵水不動付近の露頭

（松川の侵食によって現れた青麻火山の噴出物の地層）



向山桃園跡（山家安治君頌徳碑）

（明治期に火山災害を克服するため稲作から桃栽培へ転換）



曲竹丸沢果樹園団地

（果樹栽培に適した地形と土壌を活かして青麻東麓に造成）



青麻山麓の縄文遺跡群（鍛冶沢遺跡）

（青麻山が障壁となって蔵王おろしを避けることができた）



我妻家住宅（江戸中期）

（長大な建物が青麻東麓での豪農層の暮らしを伝える）



笹谷街道（旧羽前街道保存地区）

（陸奥と出羽を結んだ江戸時代の街道の景観を良く残す）

名称		青麻山ジオサイト	
テーマ		眠れる山から祈る ―自然神信仰と修験道―	
ジオサイトの概要・説明		蔵王火山東方の青麻山と松川下流域を中心とする青麻山ジオサイトは、蔵王火山にまつわる古くからの信仰が息づいてきたエリアである。柔らかな稜線が美しい青麻山は、約40万年前に形成された小規模な成層火山で、比較的短期間で活動を休止した。蔵王火山を望む山頂には、かつて蔵王火山を神山として信仰する刈田嶺神社が鎮座していた。その青麻山の裾野は、「蔵王山」の山名の由来となっている蔵王大権現を蔵王山頂に祀ったとされる平安時代の修験者・願行ゆかりの地と伝わる。また、厳しい蔵王おろしを遮る青麻山東麓の穏やかな土地は気候が寒冷化した時期の縄文人の生活の舞台となり、現在は里芋や蒟蒻といった豊かな農産物の生産地となっている。松川と白石川の合流点には、江戸時代の街道の分岐点となった宮宿も置かれ、大いに賑わった。 現在も活動が続ける蔵王火山より古い時代の火山活動の様子を示す青麻山と、そこを舞台として息づいてきた歴史ある山岳信仰や地域の人びとの暮らしの営みに触れてみたい。	
ジオポイント	名称		分類
	1	刈田嶺神社 (白鳥大明神)	F・G
	2	伝願行寺跡	G
	3	馬頭観音の巨礫	F
	4	宝龍権現清水	D
	5	青麻山*	B・E・G・I
	6	恵水不動の清水*	D
	7	向山桃園跡* (山家安治君頌徳碑)	E・F
	8	曲竹丸沢果樹園団地*	E
	9	青麻山東麓の縄文遺跡群*	E・H
	10	我妻家住宅*	H
	11	奥州街道と笹谷街道*	H
	12	曲竹一里塚*	H
	13		
	14		
	15		
	16		
	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		

*:調査予定地

名 称	刈田嶺神社 (白鳥(しろとり)大明神)	所 在 地	蔵王町宮字馬場1
管 理 者	刈田嶺神社	管理者連絡先	TEL：0224-32-2615
テ ー マ	【青麻山ジオサイト】眠れる山から祈る―自然神信仰と修験道― F. 大地の脅威／G. 信仰と祈り		
サイトの説明	各地で活動する火山は、人びとに大自然への畏怖や畏敬の念を抱かせ、神山として信仰の対象になった。古くは「刈田嶺」と称された蔵王火山も「刈田嶺神」として古くから信仰を集めた。遅くとも奈良時代には信仰されていたと見られ、平安時代の「続日本後期」には、朝廷が刈田嶺神に祭祀料を贈与したことや、位階を授けたことが記されている。当時活発だった蔵王火山の噴火活動を「刈田嶺神」の怒りと考え、これを鎮めることが目的だったと考えられる。 平安時代の「延喜式神名帳」にも記載された由緒ある神社で、江戸時代には刈田郡全体の守り神を意味する「刈田郡総鎮守」とされ白石城主片倉家の保護を受けた。現在の本殿も江戸時代中期に片倉家によって寄進されたものである。 かつては蔵王火山を直接望むことができる「大刈田山(おがったやま、青麻山)」に鎮座したが、後に集落に近い東麓(西宮)に、さらに街道の発達に伴い現在地(宮)に場所を移した。本来、蔵王火山を遥拝する西の方角に建立すべきところだが、現在は街道に沿った方向で建設されている。神社のあり方も時代とともに変化してきたことがわかる。 毎年1月14日に「どんと祭」暁詣りが開催、百貫締縄の奉納が行われ大勢の人で賑わう。 ※「刈田」は中世以前には「荊田」と表記されていた。 ※刈田嶺神社本殿(享保3：1718年建築)は県指定文化財、拝殿(文化14：1817年建築)・隨身門(文政10：1827年建築)・太刀(貞享5：1688年奉納)・白鳥古碑群(寛文13：1673年建立)・刈田嶺神社絵馬(江戸中期～大正)が町指定文化財に指定されている。		
ジオ要素	・噴火する蔵王火山を神山として崇めた信仰の歴史を知ることができる。 ・かつては蔵王火山を遥拝する場所として青麻山の山頂に神社があったが、その後、時代とともに信仰の形も変化し、青麻山東麓の西宮を経て街道沿いの現在の位置へ移った。 ・噴火活動が活発だった蔵王火山の鎮静を祈る上で、刈田嶺神社が地域の人々にとって大きな拠りどころとなっていた。		
話すポイント	◆歴史 蔵王火山を神山として遥拝する神社であった(大地＝神とする古い信仰)。 信仰と遷座の歴史。人びとの暮らしや旧街道との関係について。 古代には青麻山の山頂に神社があり、そこから蔵王火山に対して祈りを捧げていた。 平安時代には朝廷が「刈田嶺神」に対して位階を授けたり祭祀料を贈与したりしており、火山活動や大地震との関連で山や大地を鎮めようとした意図が窺える。 ◆地形 境内にはイチョウや杉の巨木が多く見られ、昔から安定した環境であることが分かる。 刈田嶺神社のある場所は周囲より小高く小さな山のようにっており、これは松川や青麻山から流れる川が、青麻山の裾野を削り取った後に残った丘である。 宮地区の南にある井戸井山も同じようにしてできた丘。井戸井山には、テレビ番組でも話題になった宮小学校自慢のジャンボ滑り台(全長47m)がある。 ◆その他 ・日本武尊伝説、白鳥碑、坂上田村麿伝説。白鳥大明神。 ・江戸中期に建築された本殿と、江戸後期に建築された拝殿に見られる建築様式の違い。		
注意すべき点	・ジオパークの中での位置づけ(ストーリー性)を意識した説明を工夫する。		
施設、案内板等の整備状況	・国道4号線や県道白石上山線沿いに案内看板がある。 ・境内には白鳥伝説や文化財に関する説明板がある。 ・駐車場は境内入口付近に数台分がある。		
疑 問 点	・遠刈田温泉の刈田嶺神社の狛犬によく似た石像があったのはなぜ？		
提 案	・神社の縁起や歴史、建造物などについて説明を受けた後、敷地を出て青麻山を展望できる場所まで歩いて行くと、遷座の話や街道のイメージが湧くのではないかな。 ・ジオとの直接的な関連が薄いので、景観と併せて関連付けた説明にすると良い。 ・白石城主の片倉家とのゆかりが深く、歴史が好きな人にジオパークに興味を持ってもらう入り口になるのではないかな。		

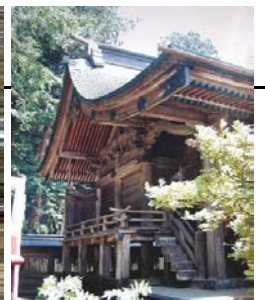
マップ



随身門



拝殿



本殿



イチョウの巨木



拝殿脇の狛犬



拝殿の彫刻



白鳥古碑群

代表的な写真



境内の様子

名 称	伝願行寺（がんぎょうじ）跡 馬頭観音の巨礫	所 在 地	蔵王町宮字願行寺
管 理 者	－	管理者連絡先	－
テ ー マ	【青麻山ジオサイト】眠れる山から祈る－自然神信仰と修験道－ F．大地の脅威／G．信仰と祈り		
サイトの説明	平安時代に蔵王火山を修業の場とした修験者の願行が、山頂に吉野金峯山寺蔵王堂から蔵王大権現を分祀したと伝えられ、蔵王山の山名の由来とされている。願行の死後、弟子たちによって僧坊の跡地に建立された「願行寺」は平安時代後期には奥州藤原氏の庇護を受けて四十八坊の末寺を擁する大寺院となったが、奥州藤原氏の滅亡とともに衰退し、戦国時代末期には宮本坊（みやほんぼう）、山之坊（やまのぼう）、嶽之坊（だけのはう）の３寺院だけになった。江戸時代になると山の坊は廃寺、宮本坊は蓮蔵寺となり、遠刈田の嶽之坊が山頂の蔵王大権現（現在の刈田嶺神社）を管理した。江戸時代に御山詣りが流行すると、嶽之坊は蔵王大権現の管理と合わせて蔵王参詣表口を統括し、遠刈田温泉は蔵王参詣の拠点として大いに隆盛した。 伝願行寺跡近くの小さな十字路の道端には馬頭観音などが刻まれた巨石がある。表面が丸く削れているので、過去の火砕流や土石流で青麻火山から流れ下った岩石と思われ、古くから土地の人々が目印や信仰の対象として大切にしてきたことが分かる。 ※願行は修験の創始者とされる役行者（えんのぎょうじゃ）の叔父と伝えられる人物。		
ジオ要素	・「蔵王」の名前の由来となった蔵王大権現を請来した願行ゆかりの寺院跡と伝わる地。 ・願行の死後、弟子たちが僧坊を願行寺として引き継いで発展させたと伝わる。 ・願行の足跡は蔵王ジオパークの広域に及び、蔵王修験や蔵王信仰の起点となった。 ・願行寺跡近くに巨礫があり、馬頭観音が刻まれている。大きな巨礫を運んだ自然の力の凄さを感じることができる。 ・青麻山東麓は「蔵王おろし」を避けることができ、暮らしやすかったためか縄文遺跡も多く見つかっている。 ・根菜類の栽培に適したクロボク土が見られる山裾の緩斜面（曲竹段丘面）ではサトイモが生産され、非常に美味であることから人気も高い。		
話すポイント	◆歴史 願行寺に関わる遺構が見られるわけではなく、口頭での解説が中心となる。 願行寺跡と青麻山、蔵王火山の位置関係を地図などで示しながら説明する。 青麻火山の泥流起源と思われる巨礫が点在し、願行もその上で修行したのでは？と思いを馳せるのも楽しい。 ◆地形 馬頭観音が刻まれた巨礫は噴火で飛んできたものではなく、泥流や火砕流等で運ばれ侵食や開墾で地表に現れたものであることを解説（最初に「なぜこんな所に大きな石があるのでしょうか？」と問いかけてから解説するのも良い）。 青麻山東麓の曲竹段丘面（願行寺、鍛冶沢、山田沢など）で見られる巨石の由来にもふれ、松川周辺の巨礫との違いや共通点について考えてもらう。		
注意すべき点	・伝願行寺跡は途中から道幅が狭く未舗装の道路になる。マイクロバスは進入不可。 ・伝願行寺跡そのものの痕跡は残っていないので、解説がないとイメージがしにくい。		
施設、案内板等の整備状況	・案内板無し。現在は薬師堂や蓮蔵寺住職の墓碑がある。 ・道が狭く未舗装のため、ツアーでは途中から徒歩での移動が必要。		
疑問点	・伝願行寺跡そのものがジオとはなりにくいが、蔵王おろしの影響を受けにくい緩斜面を願行が修行の場として選んだのには、ジオと繋がる理由があるのでは？ ・願行たちはどのような修行・生活を行っていたのか。		
提 案	・願行の足跡とジオストーリーとの関係性について整理が必要（青麻火山は信仰の対象なのか、自然の地形・環境を活かした修験の行の方法はどのようなものだったのかなど）。 ・伝願行寺跡周辺を探索し、当時の僧坊の痕跡を見つけることができないか。 ・馬頭観音の刻まれた巨礫は、大きさを調べて推定重量を算出し、説明に加えてはどうか。 ・青麻火山起源の礫と蔵王火山起源の礫は組成が異なるはずなので、その違いについても見目で分かる程度の内容で解説ができると良い。		

マップ



伝願行寺跡周辺の様子

代表的な
写真



薬師堂



江戸時代の蓮蔵寺住職の墓碑



薬師堂裏の巨礫



薬師堂下方の緩斜面



馬頭観音の巨礫



様々な文字が刻まれる

名 称	宝龍権現清水 (ほうりょうごんげんしみず)	所 在 地	蔵王町宮字沢北
管 理 者	－	管理者連絡先	－
テ ー マ	【青麻山ジオサイト】眠れる山から祈る－自然神信仰と修験道－ D. 大地の恵み I－温泉・水・鉱物－		
サイトの説明	青麻山東麓の丘陵が水の働きで開析されてできた沢地形（山田沢）に岩場が露出しており、その割れ目から清水が湧出している。青麻山登山道へ続く道筋にあり、古くから人びとの喉の渇きを潤してきた。宝龍権現がいつから祀られているのか、その由緒については詳らかでないが、岩場から清水が湧き出す景観に、いにしえの人々も霊験を感じて水や農業の神とされる宝龍権現が祀られたと考えられる。		
ジオ要素	・地形的に青麻山からの地下水が湧出していると考えられる。 ・周辺の岩盤や河床の礫は、青麻火山に由来する。 ・蔵王や青麻山ができる前の時代に凝灰岩が固まってできた大きな岩。 ・宝龍権現社は江戸時代からあるが、由緒については詳らかでない。 ・宝龍権現は北関東から東北に多く分布し、水や農業の神とされる。		
話すポイント	◆湧水 青麻山の麓にあり、古くから地域の水源として利用されてきた。 今も青麻山へ登る登山者の喉を潤し、また人気のある湧水で遠くから汲みに来る人も多い。 昔から利用されてきた水を実際に飲んで、喉を潤してもらおう。 ◆宝龍権現社 湧水のある岩場の上に宝龍権現社がある。 岩場からの湧水に霊験を感じて、宝龍権現が祀られたのではないかな。 宝龍権現社の由緒は詳らかでないが江戸時代からあり、水や農業の神である。		
注意すべき点	・水を汲みに来ている人が多いので、駐車場所や説明場所を占有しないよう配慮する。 ・水質調査結果は掲示されており飲用に関しては問題ないとされているが、個人の体質・体調等により健康上の問題が生じる可能性を理解していただき、あくまで自己責任での利用とする。		
施設、案内板等の整備状況	・案内板等はない。 ・駐車スペースは道路脇に普通車1、2台程度。		
疑 問 点	・岩場は青麻火山の噴出物が堆積してできた凝灰岩という理解で良いか。⇒ 溶岩、凝灰岩等の露頭と考えられるが、地質図では青麻山起源の泥流堆積物となっており確認が必要（巨礫の可能性が有る）。 ・宝龍権現清水は信仰とのかかわりで清めの水に使用されたのではないかな。		
提 案	・水質や地質との関係、水文環境（雨水がどのような経路を経て湧水しているか）について整理して解説できると良い。 ・湧水を使ってそばを打ったり、お茶を淹れて味わうなど、何らかの体験と併せて利用すると参加者も楽しめるのではないかな。 ・町内のほかの湧水を含めて、子どもたちのジオパーク活動として地元の小・中・高校生に水質調査を体験してもらおうと良いのではないかな（実際の調査・研究を兼ねて、水温・PH・流量の測定、リトマス試験紙を用いた実験など）。 ・湧水スタンプラリー等のイベントも面白いのではないかな。		

マップ



宝龍権現社



宝龍権現清水（水源地）

代表的な
写真



宝龍権現清水（水汲み場）



駐車スペースはない



川沿いの湧水地点





円田盆地からの眺望
(蔵王連峰と青麻山、山麓の丘陵地帯を一望する)



円田盆地を流れる雁柄川
(かつては谷地が入り組む複雑な地形を蛇行して流れた)



塩沢大山果樹園団地
(なだらかな丘陵地の地形を活かして大規模に造成された)



塩沢大露頭
(新第三紀の水成堆積物や火砕流の地層が見られる)



小山田峠付近の小露頭
(蔵王火山の約3万年前の噴火による噴出物が見られる)



湯口清水
(寛永の大噴火の時に温泉が清水に変わったと伝わる)



水神社(湯口清水)
(清水によって早魃から救われた土地の人々が建立した)



平沢弥陀の杉
(平安時代に阿弥陀堂の杉並木として植えられたと伝わる)



平沢弥陀の杉
(樹高約45m、幹周リ約9.7mの大杉を大人7人で囲む)



鎌倉沢(鎌倉温泉)
(蔵王火山形成以前の第三紀の地層が見られ化石も産出)



鎌倉沢甌穴群(ポットホール)
(硬い岩盤と川の浸食作用が造り出した美しい造形)



円田珪藻土採掘跡
(一帯が広大な湖だった新第三紀の堆積物を採掘して利用)



平沢新町の町並み
(用水を各家に引き入れて洗い場として利用している)



兵糧館跡からの眺望
(鎌倉沢に面した中世の山城跡から円田盆地を一望する)



奥平家住宅
(小高い丘の上から盆地を見渡す江戸時代後期の肝入屋敷)

名称		円田盆地ジオサイト		
テーマ		埋もれた湖の謎 ―蔵王火山前史を紐解く―		
ジオサイトの概要・説明		蔵王火山とその東麓に広がる広大な丘陵に抱かれた円田盆地ジオサイトは、地形を活かした稲作が古くから根付いてきたエリアである。円田盆地は蔵王火山ができる以前に一帯に広がっていた広大な湖の痕跡である。湖底に堆積した地層のひとつである「円田珪藻土」は七輪などの材料として昭和30年代まで盛んに採掘され、地域の経済を支えた。また、盆地では弥生時代以降の遺跡が数多く発掘され、稲作に適した盆地の地形が早くから利用されてきたことが分かる。かつて温泉が湧き出していたという湯口清水は、蔵王火山の寛永の大噴火の時に冷泉に変わったという記録が残り、以後この地での稲作を支えている。山麓の暮らしも火山とつながりを持ち、その恵みを受けていることを知らせてくれる逸話である。 蔵王火山ができる以前の大地の営みを知らせてくれる円田盆地と、そこを舞台として息づいてきた歴史ある山麓の人びとの暮らしの営みを知り、果樹園や直売所、清水では食の恵みにも触れてみたい。		
ジオポイント	名称		概要	分類
	1	円田盆地	蔵王火山、青麻山とその裾野に広がる広大な丘陵を背景に、盆地には水田地帯が広がる。盆地で発掘された数多くの遺跡が、古くからの稲作を裏付けている。	B・E・I
	2	塩沢大山果樹園団地	円田盆地と青麻山、蔵王火山を一望し蔵王ジオパークの全体像が分かる展望地。大露頭に見えるのは蔵王火山ができる以前、一帯が湖だった時代の地層。	B・E・I
	3	湯口清水 (水神社)	蔵王火山の寛永の大噴火の時に温泉が冷泉に変わったという記録が残る。付近の地名は「湯口」。今もこんこんと湧き出す清水は地域の水源となっている。	A・D
	4	平沢弥陀の杉(だるま杉)	樹高約45mの巨杉で、平安時代に建てられた阿弥陀堂の参道杉並木の名残と伝わる。約9.7mの幹周りは、両手を伸ばした大人7人でやっと一周できる。	H・J
	5	一本杉の湧水	天正8年(1580年)に開山した清立坊の参道杉並木の名残と伝わる一本杉の付近から、近年の道路工事の際に湧き出した清水。	D
	6	鎌倉温泉* (鎌倉沢)	平安時代末期の奥州合戦にまつわる伝説が残る秘湯。鎌倉沢には蔵王火山が出来る以前の地層が見られ、二枚貝やサメの歯の化石が見つかっている。	B・D
	7	円田珪藻土採掘跡*	蔵王火山ができる以前、円田盆地や青麻山の一帯は広大な湖だった。珪藻土は当時の湖底の堆積物で、かつて七輪などの材料として盛んに採掘された。	B・D
	8	向山不動尊の湧水*	丘陵麓から湧き出す清水。近年は湧出量が減少している。円田盆地の周囲を囲む丘陵は、一帯が湖だった時代の地層が隆起したものである。	D
	9	大鳥神社*	蔵王参詣道筋の「三の鳥居」があったと伝わる場所で、「大鳥」の地名は「大鳥居」を連想させる。近くに大鳥神社が祀られ、蔵王権現石像が安置されている。	G
	10	白山神社の杉並木*	北境村の領主・秋保家が大阪夏の陣凱旋の際に奉納した杉の名残と伝わる。小高い丘の上にある境内からは円田盆地を一望することができる。	H・J
	11	平沢要害と新町*	江戸時代の平沢領主・高野家の居館だった平沢要害と、家臣の屋敷が連なる新町。屋敷の地割が今もそのまま残り、往時の景観を偲ばせている。	D・H
	12	円田盆地の遺跡群*	円田盆地では弥生時代から近世までの数多くの遺跡が発掘されている。稲作の開始とともに、生活の場は河岸段丘や丘陵上から盆地周辺に移動した。	E・H
	13	ひがしね古墳の森*	円田盆地東側の丘陵上には多くの古墳が造られた。地区住民によって散策路が整備され、古墳のある丘陵上からは円田盆地と蔵王火山を一望できる。	H
	14	兵糧館跡* (兵衛館跡)	円田盆地の最奥部にある中世の山城跡で、円田盆地が一望できる。土塁や空堀跡が明瞭に残る。北面は断崖で、鎌倉沢が丘陵地を開析する様子が見られる。	H・I
	15	十郎田遺跡*	鎌倉時代の武士の屋敷跡の一角から、大量の木器が出土。遠刈田に木地師の集落ができる以前から、蔵王山麓は木地師が活躍する土地だった。	H
	16	奥平家住宅*	小村崎村の肝入を務めた奥平家の住宅で、江戸時代後期の文化6年(1809年)に建てられた。盆地北部の低い丘の上にあり、盆地全体を見渡すことができる。	H
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			

*:調査予定地

名 称	円田盆地	所 在 地	蔵王町大字円田・塩沢・平沢・小村崎
管 理 者	—	管理者連絡先	—
テ ー マ	【円田盆地ジオサイト】埋もれた湖の謎—蔵王火山前史を紐解く— B. 蔵王火山の活動前史／E. 大地の恵みⅡ—地形と土壌—／I. 景勝地		
サイトの説明	円田盆地は蔵王山麓の東にある小さな盆地である。新第三紀中新世（500万年前以前）の火山活動で形成されたカルデラ地形と考えられており、「古円田湖」と呼ばれるカルデラ湖を、その後の地層（火砕流、珪藻土等）が埋めて、現在の盆地状の地形が形成された。「古円田湖」の時代に堆積した珪藻土は七輪などの材料として利用価値が高く、明治～昭和30年代まで地域の産業として採掘された歴史がある。 盆地内には氾濫を引き起こすような大きな河川はなく、周囲の山麓からいくつもの小さな川が流れ込む。盆地内には弥生時代以降の遺跡が多く発見されており、縦横に流れる小河川によって潤された盆地の底面が古くから米づくりに適していたことが分かる。 円田盆地で多く発見される弥生土器は、赤彩され特徴的な文様を描くので考古学者によって「円田式土器」と命名された（西浦周辺で発見された円田式土器の長頸壺が東北大学に所蔵されている）。弥生時代以降も各時代の集落跡などが発見されており、現在に至るまで脈々と米づくりが続けられてきたことが分かる。 円田盆地から西を眺めると、蔵王火山とその山麓に広がる広大な森林や丘陵、盆地を一望にできる。ここに蔵王山麓の人々の暮らしがある。		
ジオ要素	・蔵王火山や青麻火山形成前の大地の成り立ちを理解するのに適している。特に、カルデラ湖の形成からその後の火山活動や湖の堆積物など、蔵王火山が形成される土台となった当時の周辺環境を理解しやすい。 ・氾濫を引き起こすような大きな河川はなく、山麓からいくつもの小さな川が流れ込むため、潤された盆地は古くから米づくりに適していた。盆地内の遺跡からは稲作を行っていた弥生時代以降の土器が多く出土する（水はけの良い河岸段丘面上には縄文時代の遺跡が多く、弥生時代の遺跡は少ない。稲作の開始によって人々の生活の場が変化した）。 ・珪藻土を資源として活用してきた地域の歴史を学ぶことができる。		
話すポイント	◆地形 高速道路を利用して村田ICから訪れる場合、蔵王ジオパークへの入口となるので、蔵王・青麻両火山と円田盆地を一望しながら、蔵王ジオパークの概要や全体説明を行なう。 特に、カルデラ湖の形成からその後の火山活動や湖の堆積物等、蔵王火山が形成される土台となった当時の周辺環境について解説する。 造成前の古い地形図や航空写真などを用い、藪川など多くの小河川が盆地に流れ込み、細かく分かれた谷が当時の稲作に適していたことを説明。 ◆歴史 稲作の歴史が弥生時代までさかのぼり、昔から氾濫が少なく耕作に適した環境であったこと（恵み）、稲作開始以前の縄文時代の遺跡の分布との違いについて説明。 珪藻土の採掘にも触れ、資源として活用してきた地域の歴史を説明する。		
注意すべき点	・駐車スペースもなく、歩道もないので大勢での見学は難しい。 ・遺跡を直接見ることはできないため、広域的な地形の広がりも含め説明資料が必要。		
施設、案内板等の整備状況	・道路脇の盛土の上から展望でき、円田水田（みやぎ蔵王三十六景）の看板がある。 ・付近に駐車スペースはない。		
疑 問 点			
提 案	・円田盆地の形成史の詳細について、学術的な整理が必要である。 ・高速道路を利用して村田ICから訪れる人には蔵王ジオパークの入口となるので、ここに蔵王ジオパークの看板があるとPR効果が高い。また、車の人にも見えるような案内看板等を設置すると良い。 ・展望できる盛土部分の刈払いや駐車場の確保など、整備が必要である。 ・各方向に見える山などの案内図（展望台などによくあるもの）や、ジオの説明板を設置してはどうか。 ・季節ごとに変わる景色も見どころになるので、様々な写真を用意して活用する。 ・古地図や古い空中写真があると盆地の地形などが理解しやすく、説明しやすいのではないかと。		

マップ



円田盆地全景（道路脇の盛土より撮影）

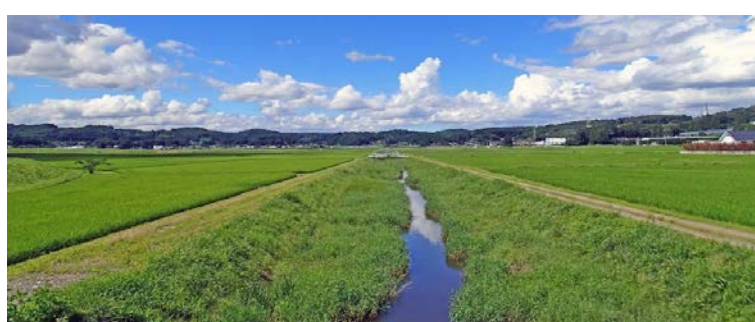
代表的な
写真



円田盆地から見た蔵王連峰



展望地（道路脇の盛土）の状況



円田盆地の中央を流れる雁柄川（藪川の支流）

名 称	塩沢大山（だいやま）果樹園団地	所 在 地	蔵王町大字塩沢字大山周辺
管 理 者	－	管理者連絡先	－
テ ー マ	【円田盆地ジオサイト】埋もれた湖の謎－蔵王火山前史を紐解く－ B. 蔵王火山の活動前史／E. 大地の恵みⅡ－地形と土壌－／I. 景勝地		
サイトの説明	蔵王町は県内一の梨の産地、蔵王の気候・風土が梨の栽培に適していることから、大正のはじめころ（約100年前）から栽培が始まり、町内の各所に梨団地がつくられた。塩沢大山果樹園団地もその一つで、昭和54年の県営農地開発事業で整備された。 山の斜面一帯に梨が植えられており、ゴールデンウィーク頃には白い花が一面に咲く美しい光景を見ることができる（「みやぎ蔵王三十六景」の一つに選定されている）。また、青麻山やその背後の蔵王連峰の山並みを一望でき、眼下に円田盆地を望むことができるため、蔵王火山の形成史や円田盆地を中心とした解説を行うのに適したロケーションとなっている。 周辺には、円田盆地の形成からその後の火山活動を物語る地層を各所で観察でき、薄木層の火砕流堆積物の中には、僅かであるが黒曜石が含まれている。ここから産出したと考えられる黒曜石で作られた石器が町内の縄文遺跡から出土し、縄文人が利用していたことが分かっている。		
ジオ要素	・果樹園脇の道路から、円田盆地や松川河岸段丘が観察できる。蔵王火山や青麻山も遠望でき、蔵王ジオパークの全体説明の場所としても利用できる。 ・新第三紀の地層（海～陸）を観察し、蔵王火山形成前の大地の成り立ちを学ぶ。 ・一帯は第三紀の火砕流堆積物の薄木層が厚く堆積している。薄木層の中に少量ながら黒曜石が含まれ、縄文人が石器の材料として利用していた。 ・塩沢大露頭（Loc. 1）に見える主な地層は上層から蔵王-川崎スコリア層、大山火山砕屑物あるいは土橋火山灰、新第三紀の薄木層、砂礫からなる水成堆積層と考えられる。 ・小山田峠付近の露頭（Loc. 3）では薄木層中に含まれる黒曜石を間近に観察できる（上部を不整合に覆う地層は大山火山砕屑物あるいは土橋火山灰か）。 ・小山田峠付近の道沿いに見られる小露頭（Loc. 4）では蔵王-川崎スコリア層を間近に観察でき、給源の蔵王火山も望むことができる。		
話すポイント	◆地形 蔵王火山や青麻山、円田盆地や河岸段丘などが見渡せるので、蔵王ジオパーク全体の地形の成り立ちを説明する。 青麻山北側の谷から流れ出た松川が、青麻山北東～東側に土砂を堆積させて段丘地形を発達させた。 大きな川のない円田盆地では緩やかに沖積作用が進行し、盆底面に肥沃な耕土を形成した。 露頭での観察により、クロスラミナや河川の侵食の痕跡など、砕屑物（礫・砂・泥等）の運搬過程について学習できる。 ※クロスラミナ：河川の堆積に特徴的な地層の縞模様。上下の葉理（ラミナ）が平行でなく、互いに斜交する現象。堆積物を運搬する風や水流の強さや方向がしばしば変化したために生じる。 ◆梨の栽培 蔵王町の梨栽培は大正の始め頃（約百年前）に始まり、気候風土が適していたことから県内一の生産を誇るようになった。		
注意すべき点	・駐車スペースが無いので状況を考えて路上駐車となる。農作業の支障にならないよう注意する。 ・バスで来た場合、カーブが多いので停車スペースも確認が必要。 ・露頭を観察する場合は、地権者の立入許可等が必要。		
施設、案内板等の整備状況	・「みやぎ蔵王三十六景」の看板が設置されている。 ・駐車場なし		
疑 問 点			
提 案	・梨狩り体験とあわせて、目に入る景色についてジオの解説を加えると良いのではないか。 ・露頭は比較的大きく小学校でも観察会を実施しているので、簡単にスケッチしてもらってから、堆積構造の成因や見え方について説明をすると良いのではないか（難しくなりすぎないように注意し、「模様で上下がわかる」程度の説明をする）。 ・周辺の露頭も確認し、見学者の立ち入りが可能であれば黒曜石の採取体験も楽しい（要保全計画）。 ・各方向に見える山などの案内図（展望台などによくあるもの）や、ジオの説明板を設置してはどうか。		

マップ

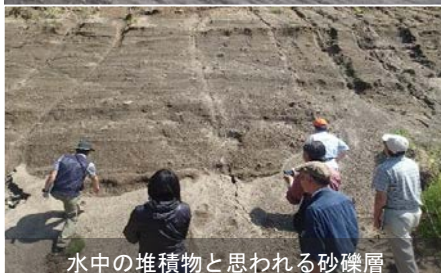


果樹園団地から青麻山及び蔵王を望む

代表的な
写真



新第三紀の火砕流堆積物には黒曜石が含まれている



水中の堆積物と思われる砂礫層



蔵王-川崎スコリア層（約3万年前の蔵王火山の噴出物）

周辺の露頭の様子（私有地は立ち入り許可が必要）

名 称	湯口清水（水神社）	所 在 地	蔵王町大字平沢字湯口２９
管 理 者	－	管理者連絡先	－
テ ー マ	【円田盆地ジオサイト】埋もれた湖の謎－蔵王火山前史を紐解く－ A. 蔵王火山の活動史／D. 大地の恵み I－温泉・水・鉱物－		
サイトの説明	周辺に多数ある湧水の一つで、今も地域の飲用水に利用される清水が湧き出している。しかし、この地の地名は「湯口」であり、なぜ、冷たい湧水の湧くこの地が湯口と呼ばれていたのであろうか。 この地ではかつて湯が湧き出しており、元和９年（1623年）に起こった蔵王火山の噴火（寛永の大噴火）を境に清水に変わったと伝えられている。元々、干ばつによる水不足に悩まされてきた地域住民は、田に引く水に困ることが無くなったことに感謝し、水神社（すいじんじや）を建立したといわれている。 東日本大震災による断水時にも、各地区の湧水が生活用水として利用されるなど、地域を支える水として大切に守られている。 また、周辺にもいくつかの湧水が知られる。「一本杉の湧水」は近年の道路工事で新たに湧出したもので、一帯が水に恵まれた土地であることを再確認させてくれる。 ※一本杉は天正８年（1580年）に開山した清立坊（現在の清立寺）の参道杉並木の名残と伝わる。		
ジオ要素	・蔵王の恵みである湧水のポイント、噴火や地震による水脈の変化、水神社の起源について解説する。大地が動いていることを説明しやすい。 ・お湯が湧いていたが、元和９年（1623年）の噴火（寛永の大噴火）を境に清水に変わった。 ・貴重な水資源として稲作に重用されてきた。 ・ジオ的には「湯口」⇔「清水」（温泉ではない）の意外性に着目させる説明がよい。		
話すポイント	◆寛永の大噴火 江戸時代はじめの慶長16年（1611年）には慶長三陸地震・津波が起こり、東北地方の太平洋側に大きな被害があった。この４年後には蔵王火山の活動が活発化し、以後80年間に12回の噴火が記録されている。中でも元和９年から寛永元年（1623～1624年）の活動は「寛永の大噴火」と呼ばれ、山麓の村々に火山灰などが降って大きな被害があったと記録されている。 ◆歴史・経緯 湯口清水と呼ばれるまでの経緯について説明。現在も地域住民の貴重な水源である。 ⇒噴火によって大きな被害もあったが、現在まで続く恵みも得られた。 ⇒大地は生きていて、地下水の流れも変化する。 ⇒温泉が水に変わった・・・ということはまた温泉に戻る可能性がある？ ◆地質 一本杉の湧水は、周辺地域の地下水の豊富さを説明するのに適している。 北側の鎌倉沢には鎌倉温泉があり、前九年の役（1051-1062年）にまつわる伝説が残る。		
注意すべき点	・水質調査結果は掲示されており飲用に関しては問題ないとされているが、個人の体質・体調等により健康上の問題が生じる可能性を理解していただき、あくまで自己責任での利用とする。 ・現在、水神社の湧水は蛇口でしか見ることができない。 ・道がかなり狭く、歩行者もいるので、通行の際には注意が必要である。 ・大型バスの進入はできない。 ・一本杉の湧水は量も多く立ち寄りやすいが、実際の湧水箇所からは離れている。		
施設、案内板等の整備状況	・普通車数台分の駐車場と説明看板がある。 ・説明看板には湯⇒水の解説もあり、ジオ的な内容も含んでいる。		
疑 問 点	・なぜ、お湯が水に変化したのか。水質的な変化は？ ・湯の湧いていた場所と湧水地点は同一地点なのか？ ・東日本大震災を境に湧水量に変化があったのか？		
提 案	・湯⇒水のストーリーは変化を感じることができ良いが、人工的な蛇口からというのがもったいないので、地中から湧出する様子を見せられないか。 ・名水巡りジオツアーとして、それぞれの湧水地を回り、由来、利用方法等の説明、また、いずれの湧水もおいしいので味わってもらう方法（コーヒー、蔵王山果実水割り、ガリガリ君等）も考えられるのではないかな。 ・子どもたちに水の温度やPHの測定、リトマス試験紙などを使った実験を体験してもらうと面白いのではないかな。		

マップ



湧水地点（水源地）



水汲み場（パイプで導水され蛇口になっている）

代表的な写真



水神社と説明看板（清水と神社の由緒）



蔵王権現像



水神龍桜



一本杉



一本杉の湧水

名 称	平沢弥陀の杉（だるま杉）	所 在 地	蔵王町大字平沢字丈六 7 8 － 1
管 理 者	蔵王町生涯学習課	管理者連絡先	TEL：0224-33-2328（文化財整理室） FAX：0224-33-3831
テ ー マ	【円田盆地ジオサイト】埋もれた湖の謎ー蔵王火山前史を紐解くー H．歴史と文化／J．気候と動植物		
サイトの説明	樹高約45m、幹周約9.7m、推定樹齢850～900年という県下有数の大杉である。高さ10m付近で複数の枝幹に分かれている。根元に空洞があるほかは健全で、樹勢は今もお盛んである。かつて「丈六阿弥陀如来坐像」を安置した阿弥陀堂の参道杉並木の名残で、阿弥陀堂の建立と同時に植えられたものと考えられている。往時は25本が並木となっていたが、阿弥陀堂の修理費用などのために江戸時代半ばから明治時代初頭までに多くが伐採され、現在の一本を残すのみとなった。 阿弥陀堂は明治時代初頭までに荒廃したが、「丈六阿弥陀如来坐像」は現在、保昌寺に安置されている。平安時代末期の作風で平泉中尊寺金堂阿弥陀如来像と類似しており、当時の東北地方を支配した奥州藤原氏によって造られたものと考えられている。 幕末から明治時代初頭には、産科医の五十嵐汶水（ぶんすい）がこの地に安産祈願のだるま講を開いた。これは、当時あまり民衆に受け入れられていなかった西洋医学の知識を「だるま様の教え」として広めようとするものであった。汶水はこの杉を守ろうと「村役方、この大杉を永世伐らせないで下さい」と刻んだ戒石銘（かいせきめい）を建立した。その後、この杉はだるま講のご神木「だるま杉」とも呼ばれるようになり、平沢地区のシンボルとして今日まで守り続けられている。 ※「平沢弥陀の杉 附 戒石銘」として宮城県指定文化財（天然記念物）に指定されている。 ※「丈六阿弥陀如来坐像」（保昌寺）は宮城県指定文化財（美術工芸品）に指定されている。		
ジオ要素	・推定樹齢900年にもなる県内最大級の大杉であり、歴史的背景と周辺地域の環境変化との関係についても解説する（火山活動や水害と人びとの暮らしに絡める）。 ・古いものを処分（伐採）してきた歴史と、それを守ろうと努力した人達の歴史について解説。 ⇒ジオパークの概念（保全・活用）と併せて解説する。 ・奥州藤原氏、五十嵐汶水、だるま講、戒石銘などはジオとは直接には結びつきにくい。東北地方を支配した奥州藤原氏が交通の要衝としてこの地を重視したと考えられること、その名残が地域のシンボルとなり、新しい信仰や文化を生み出したことを解説する。		
話すポイント	◆県下随一の大杉 推定樹齢900年とされる県下稀に見る巨木である（男性7人が両手を広げて一周囲むことができた）。里でこのような大杉が残されているのは珍しく、長い間この場所が安定した環境にあったことが分かる。江戸時代中期までは25本の並木であったが、阿弥陀堂の再建費用などのために順次伐採され、最後の一本が五十嵐汶水をはじめ地域の人びとに守られて現在に至る。 ◆歴史（奥州藤原氏とののかかわり） 「丈六阿弥陀如来坐像」を安置した阿弥陀堂の参道杉並木の名残で、平安時代末期と考えられる阿弥陀堂の建立と同時に植えられたと推定される。歴史背景として奥州藤原氏との関係にも触れ、人文地理的な重要性を説明する（阿弥陀堂の建立＝奥州藤原氏の縁者が平沢周辺を領有？＝当時この地が平泉にとつての軍事・交通の要衝として重視されていたと推測できる）。 ◆丈六阿弥陀如来坐像 「丈六阿弥陀如来坐像」を安置した阿弥陀堂は明治時代初頭に荒廃し、現在は保昌寺に安置されている。「丈六」とは像が直立した時に「一丈六尺（4.8m）」となるように造られているという意味（この大きさの仏像が「丈六仏」、これより大きなものが「大仏」である）。阿弥陀堂のあった弥陀の杉周辺には現在も「丈六」の地名が残っている。 ◆だるま講 五十嵐汶水が産科医として得た西洋医学の知識を「だるま様の教え」として地域の人々に伝えた「だるま講」について解説。地域のシンボルだった「だるま杉（平沢弥陀の杉）」周辺を拠点として活動し、「戒石銘」のほか多くの石造物などを残した。		
注意すべき点	・やや狭い道を入っていくので、大型バスの進入はできない。 ・周辺は住宅地で、すぐ隣に民家があるので迷惑とならないように注意する。 ・通常の見学時には根元周辺を踏みつけないように注意する。 （地面が硬くなると根の成長が阻害され、古木の樹勢の衰退を招く恐れがあるため） ・自生の杉ではなく人の手によって植えられ、守られてきたものである。		
施設、案内板等の整備状況	・周辺に案内看板が複数ある。 ・普通車数台分の駐車スペース、説明看板（平沢弥陀の杉、だるま講、だるま講石造物群）あり。		
疑問点	・巨大な樹木が長年そこに立っていられるということは、地盤の堅さ、周囲から強風の影響を受けにくい等の地理的な好条件が重なったのではないかな？		
提 案	・古木の樹勢が衰退するのは根の障害からが多い。見学者が多数来るようになれば杉の保護のために根本を踏みつけられないようにする対策が必要ではないかな。 ・人の手で植えられたものでジオとは直接結びつきにくい、この杉を間近に見る迫力は凄く、他のジオポイントと組み合わせて見てもらうと良いのではないかな。 ・「丈六阿弥陀如来坐像」は付近の保昌寺に安置されているので、合わせて見学すると良い。 ・弥陀の杉、湯口清水とは距離も近く、徒歩であわせて見学できる。 ・五十嵐汶水の再評価も必要ではないかな。 ・元和元年（1615年）に植えられたと伝わる白山神社参道の杉並木（弥陀の杉から南へ2kmの県道沿い）も移動ルートに組み込んで一緒に回ると良い。		

マップ



代表的な写真



平沢弥陀の杉（だるま杉）



平沢弥陀の杉とだるま堂の境内



「だるま講石造物群」の解説看板（付近に「五十嵐沢水とだるま講」、「平沢弥陀の杉」の解説看板もあり）



だるま塚と「愚鈍庵」の石碑（臨月を迎えた妊婦のお腹を象り、蓋石に「平沢のぶん水塚のお茶の花 煎じて飲めば産が軽いぞ」と刻む）



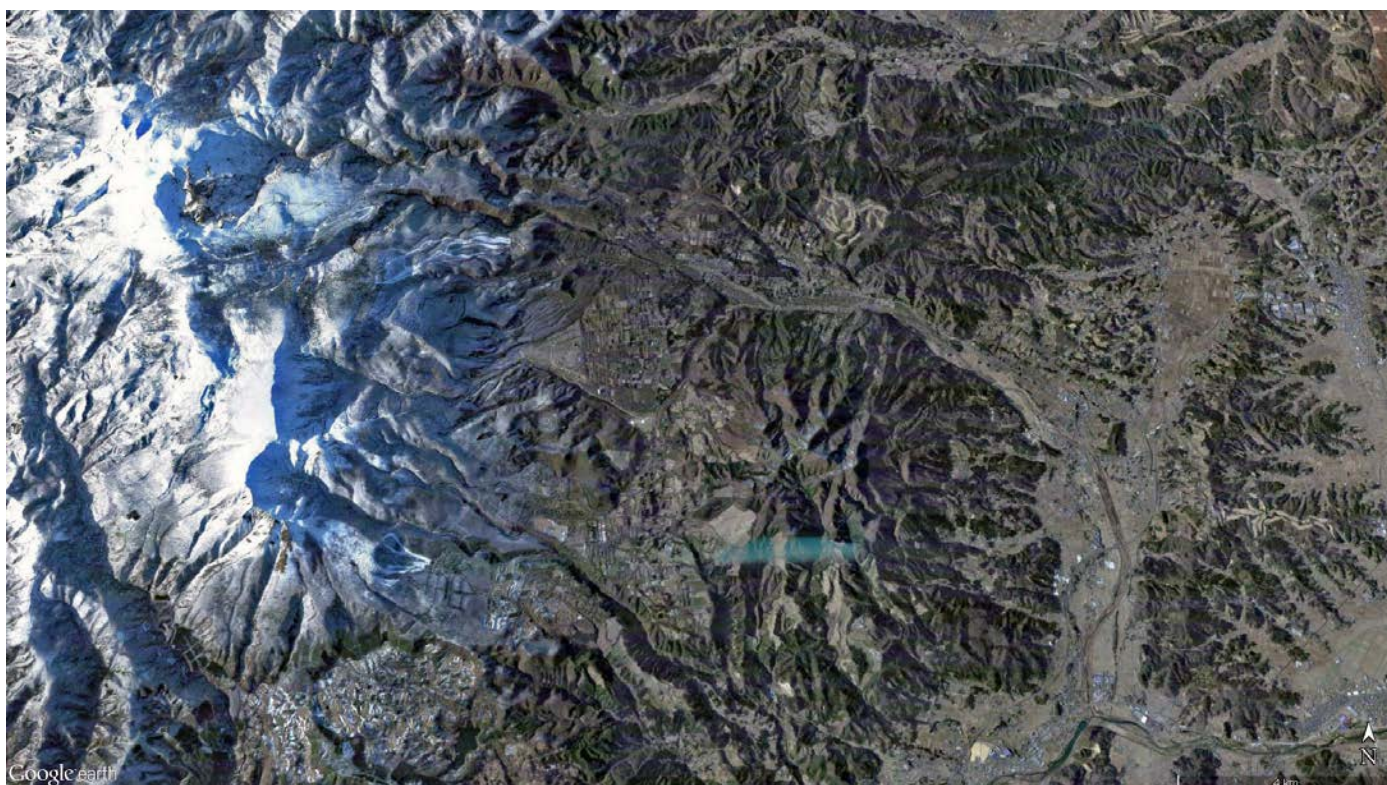
幹周りは大人7人分の太さ



樹高は約50m



戒石銘（「遺願 村役方、この大杉を永世伐らせないで下さい」と刻み、だるま杉に対する沢水の思いを伝えている）



ジオサイト別ジオポイント一覧

～エリアで見る～

サイト番号① 蔵王火山ジオサイト		サイト番号② 遠刈田ジオサイト	
メインテーマ： 山の上の火山 ―火口湖に秘められた火山の素顔―		メインテーマ： 山の暮らしと温泉 ―火山地形と高原の産業―	
サブテーマ：蔵王火山のダイナミックな活動の歴史／山の上の火山／過去に数千回もの噴火を繰り返しながら現在の山体を形成した活火山／活動の歴史は100年以上前に始まり、約30万～10万年前、約3万年前の活動期／有史以降の噴火記録／山体を覆う溶岩流の痕跡や崩壊地形の多くは「御釜」や「馬の背」、「駒草平」や「芝草平」などの美しい景勝地		サブテーマ：蔵王火山の活動が山麓に作り出した火山地形と、大地の恵みを活かして独自の文化を作り出した人びとの営み／蔵王火山と山麓の人々の営みが接する／清流「澄川」と硫黄が混流する「濁川」／南蔵王「屏風岳」の噴火による七日原扇状地／蔵王参詣の拠点として賑わった遠刈田温泉／木地師の活動／開拓と酪農・高原野菜栽培	
① - 1	五色岳(御釜)	② - 1	遠刈田温泉
① - 2	刈田岳	② - 2	七日原扇状地
① - 3	馬の背	② - 3	蔵王酪農センター (ふれあい牧場ハートランド)
① - 4	大黒天	② - 4	権現山と遠刈田段丘
① - 5	駒草平 (不帰の滝・振子滝)	② - 5	岩崎山金山跡 (籠山)
① - 6	賽の碓	② - 6	刈田嶺神社 (蔵王大権現) 里宮
① - 7	御田の神	② - 7	新地こけし集落
① - 8	刈田嶺神社 (蔵王大権現) 奥宮	② - 8	みやぎ蔵王こけし館
① - 9	伊達宗高公命願碑	② - 9	北原尾開拓地*
① - 10	滝見台* (不動滝・三階滝・地藏滝)	② - 10	澄川*
① - 11	蔵王古道*	② - 11	濁川*
① - 12	熊野岳*	② - 12	鬼石原扇状地*
① - 13	前山*	② - 13	蔵王野鳥の森* (ことりはうす)
① - 14	大露頭*	② - 14	土浮山の露頭*
① - 15	ロバの耳岩*	② - 15	冷水堂の清水* (冷泉堂)
① - 16	屏風岳*	② - 16	わさび沢湧水*
① - 17	硫黄鉱山跡*	② - 17	遠刈田製鉄所高炉跡*
① - 18	えぼし千年杉*	② - 18	土浮山鉱山* (ベントナイト採掘場)
① - 19	エコーラインのミズナラ*		
① - 20	アオモリトドマツ林*		
① - 21	名号峰*		
① - 22	芝草平*		

①ー1: (ジオサイト番号ージオポイント番号)

*: 調査予定地

サイト番号③ 松川ジオサイト		サイト番号④ 青麻山ジオサイト	
メインテーマ： 二つの川の話 ―火山山麓の災害と恵み―		メインテーマ： 眠れる山から祈る ―自然神信仰と修験道―	
サブテーマ：火山山麓の河川流域での土砂災害の脅威と、そうした大地の営みが山麓につくり出した段丘地形を舞台とした人びとの暮らしの営み／源流は「澄川」と「濁川」／火山山麓の河川流域に息づく人びとの暮らし／松川中流域の段丘地形／縄文人の暮らし／桃や梨を生産する果樹園／水力発電と灌漑用水／災害の歴史と現在も続く火山砂防工事		サブテーマ：青麻山を舞台として息づいてきた歴史ある山岳信仰や地域の人びとの暮らしの営み／蔵王火山にまつわる古くからの信仰が息づく／蔵王火山より古い青麻火山の活動／かつて青麻山頂に鎮座した刈田嶺神社／「蔵王山」ゆかりの修験者・願行／縄文人の暮らし／豊かな農産物／宮宿が置かれた松川と白石川の合流点	
③	1	④	1
	澄川・濁川合流点		刈田嶺神社 (白鳥大明神)
③	2	④	2
	松川河岸段丘		伝願行寺跡
③	3	④	3
	疣岩分土工		馬頭観音の巨礫
③	4	④	4
	とんがり山		宝龍権現清水
③	5	④	5
	仙台真田家史跡		青麻山*
③	6	④	6
	松川*		恵水不動の清水*
③	7	④	7
	段丘面上の巨礫群*		向山桃園跡* (山家安治君頌徳碑)
③	8	④	8
	段丘面上の縄文遺跡群*		曲竹丸沢果樹園団地*
③	9	④	9
	段丘面上の果樹園*		青麻山麓の縄文遺跡群*
③	10	④	10
	松川砂利採掘場*		我妻家住宅*
③	11	④	11
	松川の旧流路*		奥州街道と笹谷街道*
③	12	④	12
	遠刈田発電所*		曲竹一里塚*
③	13		
	曲竹発電所*		
③	14		
	澄川用水*		
③	15		
	黒沢尻用水*		
③	16		
	松川砂防公園*		
③	17		
	松川火山砂防工事現場*		

①－1: (ジオサイト番号－ジオポイント番号)

*:調査予定地

サイト番号⑤ 円田盆地ジオサイト	
メインテーマ： 埋もれた湖の謎 ―蔵王火山前史を紐解く―	
サブテーマ：蔵王火山ができる以前の大地の営みを知らせてくれる円田盆地と、そこを舞台として息づいてきた歴史ある山麓の人びとの暮らしの営み／地形を活かした稲作が古くから根付く／日本列島の形成と陥没カルデラ／蔵王火山や青麻火山ができる以前、広大な湖があった／「円田珪藻土」の採掘／弥生時代以降の人びとの暮らし／寛永の大噴火と湯口清水	
⑤ - 1	円田盆地
⑤ - 2	塩沢大山果樹園団地
⑤ - 3	湯口清水 (水神社)
⑤ - 4	平沢弥陀の杉(だるま杉)
⑤ - 5	一本杉の湧水
⑤ - 6	鎌倉温泉* (鎌倉沢)
⑤ - 7	円田珪藻土採掘跡*
⑤ - 8	向山不動尊の湧水*
⑤ - 9	大鳥神社*
⑤ - 10	白山神社の杉並木*
⑤ - 11	平沢要害と新町*
⑤ - 12	円田盆地の遺跡群*
⑤ - 13	ひがしね古墳の森*
⑤ - 14	兵糧館跡* (兵衛館跡)
⑤ - 15	十郎田遺跡*
⑤ - 16	奥平家住宅*

ジオサイト 合計5か所

 蔵王火山ジオサイト

 遠刈田ジオサイト

 松川ジオサイト

 青麻山ジオサイト

 円田盆地ジオサイト

ジオポイント 合計85か所

①ー1: (ジオサイト番号ージオポイント番号) *:調査予定地

テーマ別ジオポイント一覧（重複分類）

～テーマで見る～

A. 蔵王火山の活動史		B. 蔵王火山の活動前史	
隆起した奥羽山脈の上で 約100万年前に始まる蔵王火山の活動		蔵王火山の土台となる奥羽山脈が隆起し始めた 約1500万年前からの大地の活動	
サブテーマ: 名号峰に見る基盤の隆起／カルデラ湖からの水中噴火でロバの耳岩など小さな山体ができる／大規模な噴火で熊野岳や刈田岳など現在の主要な山体ができる／馬の背カルデラが形成され、爆発的な噴火を繰り返す／約2000年前以降は御釜周辺で水蒸気爆発を繰り返す／古記録に残る寛永の大噴火と伊達宗高公命願碑、湯口清水		サブテーマ: 遠刈田温泉は蔵王火山よりも古い火山の熱による／円田盆地周辺は当時の火山活動で形成された陥没カルデラ湖だった／陥没カルデラ湖に水中噴火で青麻火山ができ、奥羽山脈以前の火山フロントを示している／名号峰や賽の碓に見る奥羽山脈の隆起	
① - 1	五色岳(御釜)	① - 6	賽の碓
① - 2	刈田岳	② - 1	遠刈田温泉
① - 3	馬の背	② - 18	土浮山鉾山 (ベントナイト採掘場)
① - 4	大黒天	③ - 4	とんがり山
① - 5	駒草平 (不帰の滝・振子滝)	⑤ - 1	円田盆地
① - 6	賽の碓	⑤ - 2	塩沢大山果樹園団地
① - 7	御田の神	① - 21	名号峰*
① - 9	伊達宗高公命願碑	④ - 5	青麻山*
② - 2	七日原扇状地	⑤ - 6	鎌倉温泉* (鎌倉沢)
⑤ - 3	湯口清水 (水神社)	⑤ - 7	円田珪藻土採掘跡*
① - 12	熊野岳*		
① - 13	前山*		
① - 14	大露頭*		
① - 15	ロバの耳岩*		
① - 16	屏風岳*		
① - 22	芝草平*		
② - 12	鬼石原扇状地*		

①-1: (ジオサイト番号-ジオポイント番号)

*: 調査予定地

C. 松川と流域の地形		D. 大地の恵みⅠ－温泉・水・鉱物－	
蔵王火山から流れ出る川のはたらきと流域の特徴的な地形		蔵王火山と山麓の大地が私たちにもたらす恵みとしての資源	
サブテーマ:水の流れて侵食されにくい溶岩流の末端から流れ落ちる滝／澄川・濁川という性質の異なる二つの川が合流して松川の流れをつくる／松川が運んだ土砂と大地の隆起によって段丘地形ができた／松川沿いにもたらされた火山泥流や土石流、洪水被害の痕跡／明治期に八筋に分かれていたという松川下流部の旧流路の痕跡		サブテーマ:火山の熱と温泉／山麓の豊富な湧水群／湧水を利用した江戸時代の町並み／澄川の水と地形を利用した水力発電、農業用水／鉱物資源の採掘／実現しなかった近代化遺産	
① - 1	五色岳(御釜)	② - 1	遠刈田温泉
① - 5	駒草平 (不帰の滝・振子滝)	② - 5	岩崎山金山跡 (籠山)
② - 4	権現山と遠刈田段丘	③ - 3	疣岩分土工
③ - 1	澄川・濁川合流点	④ - 4	宝龍権現清水
③ - 2	松川河岸段丘	⑤ - 3	湯口清水 (水神社)
① - 10	滝見台* (不動滝・三階滝・地藏滝)	⑤ - 5	一本杉の湧水
② - 10	澄川*	⑤ - 6	鎌倉温泉 (鎌倉沢)
② - 11	濁川*	① - 17	硫黄鉱山跡*
② - 13	蔵王野鳥の森* (ことりはうす)	② - 15	冷水堂の清水* (冷泉堂)
③ - 6	松川*	② - 16	わさび沢湧水*
③ - 7	段丘面上の巨礫群*	② - 17	遠刈田製鉄所高炉跡*
③ - 10	松川砂利採掘場*	② - 18	土浮山鉱山* (ベントナイト採掘場)
③ - 11	松川の旧流路*	③ - 10	松川砂利採掘場*
		③ - 12	遠刈田発電所*
		③ - 13	曲竹発電所*
		③ - 14	澄川用水*
		③ - 15	黒沢尻用水*
		④ - 6	恵水不動の清水*
		⑤ - 7	円田珪藻土採掘跡*
		⑤ - 8	向山不動尊の湧水*
		⑤ - 11	平沢要害と新町*

①－1: (ジオサイト番号－ジオポイント番号)

*:調査予定地

[illegible]

I. 景勝地		J. 気候と動植物	
蔵王火山と山麓で見られる 風光明媚な自慢の絶景スポット		蔵王火山と山麓で見られる貴重な動植物と 特殊な気象条件が生み出す樹氷	
サブテーマ:御釜や駒草平、滝見台は蔵王観光の 代表的な景勝地／四季折々の景観を楽しむ蔵王エ コーライン／北原尾開拓地から蔵王山と七日原扇 状地を一望／とんがり山、円田盆地、塩沢大山果樹 園団地から蔵王山、青麻山と山麓の暮らしの営みが 織り成す文化的景観を一望		サブテーマ:観測施設もある蔵王の美しい星空／特 殊な気象条件が生み出す美しい樹氷／駒草平や 御田の神湿原で見る高山植物／蔵王山麓の豊かな 森に育まれた動植物／平沢弥陀の杉や白山神社 の杉並木は、山麓に暮らす人びとの歴史を見続け る生き証人	
① - 1	五色岳(御釜)	① - 5	駒草平 (不帰の滝・振子滝)
① - 5	駒草平 (不帰の滝・振子滝)	① - 7	御田の神
① - 7	御田の神	⑤ - 4	平沢弥陀の杉(だるま杉)
② - 2	七日原扇状地	① - 18	えぼし千年杉*
② - 3	蔵王酪農センター (ふれあい牧場ハートランド)	① - 19	エコーラインのミズナラ*
③ - 4	とんがり山 (手倉森山)	① - 20	アオモリトドマツ林*
⑤ - 1	円田盆地	② - 13	蔵王野鳥の森* (ことりはうす)
⑤ - 2	塩沢大山果樹園団地	⑤ - 10	白山神社の杉並木*
① - 10	滝見台* (不動滝・三階滝・地蔵滝)		
① - 22	芝草平*		
② - 9	北原尾開拓地*		
④ - 5	青麻山*		
⑤ - 14	兵糧館跡* (兵衛館跡)		

①-1: (ジオサイト番号-ジオポイント番号)

*:調査予定地

出典一覧

○基本資料

- 共同研究「蔵王ジオパーク推進に関するジオサイト候補地の調査・研究」報告書
平成 26 年 3 月 山形大学理学部地球環境学科 伴雅雄
受託研究「蔵王町ジオガイド養成のための蔵王地域地質の基礎資料の作成」報告書
平成 27 年 3 月 東北大学東北アジア研究センター 宮本 毅

○主な参考・引用文献（五十音順）

- 安斎徹 1961『神秘的火口湖 蔵王の御釜』山形地質学研究所
大槻憲四郎ほか 2011「宮城県の地質」『大地』No.51 東北地質調査業協会
県立公園蔵王連峰学術調査委員会編 1978『蔵王国定公園・県立自然公園蔵王連峰学術調査報告書』
巨智部忠承 1896「蔵王山爆裂調査概報」『地学雑誌』第 8 集 88～90 巻
蔵王町史編纂委員会 1987『蔵王町史 資料編Ⅰ』
蔵王町史編纂委員会 1989『蔵王町史 資料編Ⅱ』
蔵王町史編纂委員会 1993『蔵王町史 民俗生活編』
蔵王町史編纂委員会 1994『蔵王町史 通史編』
蔵王町教育委員会 2014「蔵王町文化財展⑦『ぞおうさま&どきたんの蔵王火山と噴火のレキシ』パネル縮小版」
高橋正樹・小林哲夫編『東北の火山』フィールドガイド 日本の火山 4 築地書館
竹内貞子編著 1991『宮城の自然をたずねて』日曜の地学 18 築地書館
谷山県自然環境保全地域学術調査委員会編 1986『谷山県自然環境保全地域学術調査報告書』
東北森林管理局山形森林管理署・社団法人日本森林技術協会 2005『植生調査等委託業務調査報告書』
東北大学山の会編 1975『蔵王―自然と人間―』環境科学ライブラリー 14 大日本図書
伴雅雄 2011「日本の活火山 (15) 蔵王山」『砂防と治水』第 203 号
伴雅雄 2013「蔵王火山」『地質学雑誌』第 119 巻補遺
伴雅雄・及川輝樹・山崎誠子 2015『蔵王火山地質図』火山地質図 18 産業技術総合研究所地質調査総合センター
伴雅雄ほか 2015「活発化する蔵王山」『地理』60-5 古今書院
伴雅雄 2016「活火山：蔵王山」『大地』No.56 東北地質調査業協会
伴雅雄 2016「活火山：蔵王山の成り立ちと見どころ」『環境保全』No.19 山形大学環境保全センター
伴雅雄 2016「蔵王火山群の最も東に位置する火山：青麻山」『環境保全』No.19 山形大学環境保全センター
宮城県 1985『土地分類基本調査 白石』
宮城県 2001「福島盆地西縁断層帯に関する調査成果報告書」平成 11 年度地震関係基礎調査交付金成果報告書
宮城県高等学校理科研究会地学部会編 1975『宮城県の地質案内』宝文堂
宮城県高等学校理科研究会地学部会編 1993『宮城の地学ガイド』三訂版 宝文堂
宮城県高等学校社会科教育研究会地理部会編 2012『宮城の地誌』
山形県上山市教育委員会 1971『蔵王山調査報告書』上山市文化財調査報告書第三輯

○写真提供（五十音順）

- 蔵王町観光協会 / 蔵王町教育委員会 / 蔵王町農林観光課 / 宮城蔵王ガイド協会 / 個人

あとがき

平成26年8月28日に第1回蔵王町ジオパーク推進連絡会が開催され、村上町長から委嘱状をいただいたものの、いったい何をすべきか雲をつかむような状態からスタートしました。

ジオサイト、ジオポイント、ジオストーリー等々、十分に理解が進まない中での話し合いが続きましたが、事務局の方々や中央開発の橋本次長の説明とアドバイスで、要するに「蔵王町のいいところ探し」と「理屈付け（地形や地質との関連付け）」であることに気が付きました。委員の方々は野外での現地調査に加えて毎回3時間ほどの協議と次回までの宿題を与えられながらも、一生懸命に取り組んでいただきました。委員・事務局各位の努力に対し改めて満腔の敬意を表するものです。

本書をご覧いただき、私たちの身近なところでありながら日頃は見過ぎてしている「地域の見どころ」に改めて目を向けていただき、大地の営みや自然の魅力を感じていただくきっかけづくりになればと思います。そして、これまでとは一味違った蔵王の魅力を発信していきましょう。

最後に、私たちの活動の基礎となる地形・地質等の学術調査については山形大学の伴先生と東北大学の宮本先生、ジオパークに関する全体的なアドバイスについては中央開発株式会社の橋本次長より多岐にわたりご指導・ご協力をいただきました。改めて感謝申し上げます。

平成28年8月吉日

蔵王町ジオパーク推進連絡会委員長 三島木 進

蔵王町ジオパーク推進連絡会委員（敬称略）

（任期：平成26年8月28日～平成28年8月27日）

委員長	三島木 進	
副委員長	池田 尚人（～平成27年3月）	鈴木 哲也（平成27年4月～）
委員	深堀 孝	佐藤 博泰
	鈴木 哲也	佐藤 美智恵
	鈴木 雅	上原 直美
	平間 崇規（～平成27年3月）	平林 健（平成27年4月～）
	遠藤 大樹（平成27年4月～）	
学術調査指導	山形大学理学部地球環境学科	教授 伴 雅雄
	東北大学東北アジア研究センター	助教 宮本 毅
アドバイザー	中央開発株式会社 技術部次長	橋本 智雄
事務局	蔵王町環境政策課 課長	山崎 恒男（～平成28年3月）
		芦立 敏彦（平成28年4月～）
	〃	ジオパーク推進室 室長 加藤 勝彦
		主査 佐藤 良行（～平成27年7月）

火山との共生

— 火山とともに生きる人々と火山の恵み —

ジオサイト候補地検討報告書
(蔵王火山周辺および蔵王町エリア)

2016年(平成28年)8月27日 印刷・発行

編集・発行 蔵王町・蔵王町ジオパーク推進連絡会

事務局 蔵王町環境政策課ジオパーク推進室
〒989-0892 宮城県刈田郡蔵王町大字円田字西浦北10
TEL 0224-33-3007 FAX 0224-33-3284

